

松山市埋蔵文化財調査年報 IX

平成 8 年度

1997

松山市教育委員会
（財）松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報 IX

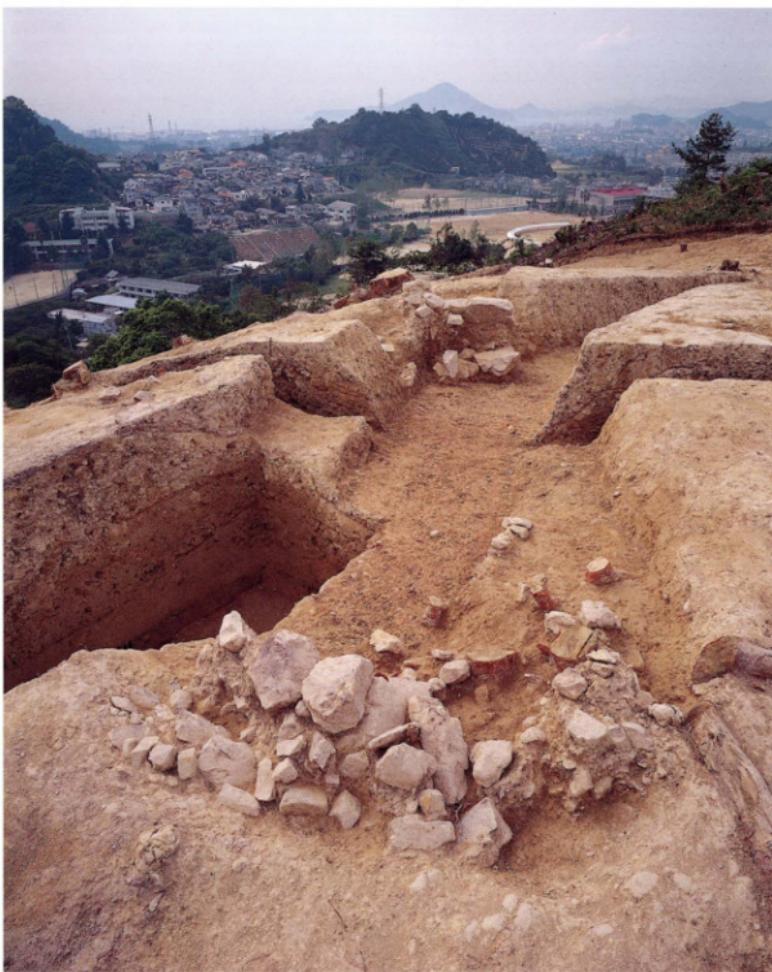
平成 8 年度

1997

松山市教育委員会
財松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター



卷頭図版1 久米郡衙正倉院（西より） 古代 久米高畠遺跡32次調査地



卷頭図版2 大池東5号墳主体部（南より） 古墳時代前期



卷頭図版3 濑戸風峠4号墳主体部（北上空より） 7世紀中葉



卷頭図版 4 据立柱建物の柱配列状況（南より） 古墳時代後期以降 筋違 K 遺跡

序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財が残っています。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、年々増加する開発事業によって失われようとする遺跡について、事前に発掘調査を実施し、保存又は記録保存に努めています。平成8年度は、消費税の引き上げに伴う住宅建設の影響を受け、埋蔵文化財の確認申請件数が初めて400件を突破しました。

本書は、平成8年度に埋蔵文化財センターが主体となり、松山市域において民間開発や公共事業を対象として実施した埋蔵文化財の発掘調査の概要報告と、松山市考古館が同年度に行なった展示会や講演会などの教育普及活動の概要などをまとめた年次報告書です。

平成8年度には、古くは縄文時代晩期から新しくは中近世に至る数多くの遺構や遺物を発見しました。特に瀬戸風崎4号墳では、横穴室石室内に仕切りを設け「木炭床」と呼ばれる木炭を敷きつめた埋葬方法が採用されていました。こうした方法は、全国的にも類例が少なく、古墳時代の埋葬方法の一例として注目されています。また、久米高畠遺跡では26~32次調査が行われ、官衙関連の遺構が数多く確認されました。なかでも、32次調査では正倉院と考えられる倉庫群を検出したことから、当時の社会的背景を知る上で第一級の資料を得ることができました。

このような貴重な資料が得られましたのも、関係各位の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも、なお一層のご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

本書が、松山市民をはじめ、ひとりでも多くの方々に埋蔵文化財に対する知識の向上と調査研究のための資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

平成9年9月30日

財団法人松山市生涯学習振興財団

理事長 田 中 誠 一

例　　言

1. 本書は、財団法人 松山市生涯学習振興財團 埋蔵文化財センターが、平成8年4月1日から平成9年3月31日までに実施した発掘調査の概要を収録し、また松山市考古館事業を含めた啓蒙普及事業等をまとめた年次報告書である。
2. 確認調査及び本格調査については、第Ⅱ章の一覧表・付図にまとめた。
3. 各調査の報告は調査担当者が執筆した。なお、網集及び測定は田城武志・山之内志郎が行った。
4. 写真は、遺物写真及び一部を除く発掘調査の遺構写真を大西朋子が、その他の写真は各調査員が撮影した。
5. 調査地位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（三津浜、松山北部、松山南部）を使用した。
6. 遺構のうち表示記号で示したものは、以下のとおりである。
SA：構列、SB：堅穴式住居址、掘立：掘立柱建物址、SD：溝、SK：土坑、
SE：井戸、SR：自然流路、SP：柱穴、SX：その他の遺構

7. 調査・刊行組織は次のとおりである。

調査・刊行主体〔平成9年8月31日現在〕

松山市教育委員会	教育長	池田 尚輝
生涯教育部	部長	三好 俊彦
	次長	丹下 正勝
文化教育課	課長	松平 泰定
（財）松山市生涯学習振興財團	理事長	田中 誠一
	事務局長	池田 秀雄
	事務局次長	河口 雄三

埋蔵文化財センター組織図



8. 整理作業の協力者は、次のとおりである。

池田學・友近志郎・波多野恭久・岩岡慎一・堀内哲也・横田佳直・松下郁子・石丸山利子・小田裕美・定成登志子・武市まゆみ・渡部英子・徳田弘子・西川千秋・青野茂子・松本美代子・白石公信・浜木潔・中村繁・田嶋真理・宮内真弓・野田昌弘・勝木将基・水口あをい・山下満佐子・平岡直美・村上規子・渡部明日香・伊藤みわこ・竹内真琴・中平久美子・長岡千尋・渡辺いづみ・山下純代・田丸竜馬・河原田晋・森田利恵・越智令子・松本美知子・永木静江・森脇信介・永木俊彦・渡部大介・猪野美喜子・加島なみ・丹生谷道代・寺尾和恵・横田知子・岡崎政信・大隈誠・久保浩二・西原聖二・酒井直哉・金子育代・仙波千秋・仙波ミリ子・宮田里美・高尾久子・三浦千春・山邊進也・岡本邦栄・藤本数夫・篠崎正記・後藤公克・坪内寛美・都築宇志・閑正了・萩野ちよみ・吉井信枝・白石あさか・村上真由美・岩本美保・木下奈緒美・福島利恵・豊田直美・玉井順子

9. ご指導・ご協力をいただいた先生方は、次のとおりである。(敬称略・順不同)

坂井秀弥(文化庁記念物課)／小池伸彦(文化庁記念物課)／岡村道雄(文化庁記念物課)／上原真人(京都大学)／猪熊兼勝(奈良国立文化財研究所)／沢田正昭(奈良国立文化財研究所)／山中敏史(奈良国立文化財研究所)／松井章(奈良国立文化財研究所)／松木修自(東京国立文化財研究所)／阿部義平(国立歴史民族博物館)／八木充(山口大学)／石野博信(慈島文理大学・二上山博物館)／定森秀夫(京都府京都文化博物館)／内田俊秀(京都造形芸術大学)／三辻利一(奈良教育大学)／金原正明(天理大学)／田中良之(九州大学)／柳沢一男(宮崎大学)／本出光子(別府大学)／前園実知雄(奈良県立橿原考古学研究所)／渡辺智恵美(元興寺文化財研究所)／大林達夫(防府市教育委員会)／下條信行(愛媛大学)／松原弘宣(愛媛大学)／田崎博之(愛媛大学)／村上恭通(愛媛大学)／半井幸弘(愛媛大学)／川間勉(愛媛大学)／吉出広(愛媛大学)／景浦勉(松山市文化財専門委員)／森光晴(愛媛考古学協会)／長井数秋(日本考古学会)／大澤正巳(日本考古学協会)／千葉茂(愛媛県立博物館)ほか

10. ご指導・ご協力をいただいた機関は、次のとおりである。

発掘調査関係…奈良国立文化財研究所／京都造形芸術大学文化財保存科学研究室／奈良県立橿原考古学研究所及び同附属博物館／大分県立宇佐風土記の丘資料館／京都府京都文化博物館／(株)古環境研究所／(株)京都科学／(財)愛媛県埋蔵文化財調査センターほか
特別展関係…(財)香川県埋蔵文化財調査センター／高槻市立埋蔵文化財調査センター／神戸市立博物館／神戸市埋蔵文化財センター／北九州市立考古博物館／(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室／行橋市歴史資料館／大分県教育庁／竹田市教育委員会ほか

本文目次

I 平成 8 年度 松山市埋蔵文化財調査概要	
太山寺経田遺跡 4 次調査地	2
瀬戸風呂遺跡（D 区）	4
大峰ヶ台遺跡 9 次調査地（4 C 区・6 区）	8
岩崎遺跡	12
畠寺 6 号墳	18
筋達 K 遺跡	22
北久米冷蔵寺遺跡 6 次調査地	26
北久米町屋敷遺跡 2 次調査地	30
久米才歩行遺跡 2 次調査地	34
久米官衙遺跡群～平成 8 年度調査の成果～	38
久米高畠遺跡 26 次調査地（久米官衙遺跡群）	40
久米高畠遺跡 27 次調査地（久米官衙遺跡群）	44
久米高畠遺跡 28 次・29 次調査地（久米官衙遺跡群）	50
久米高畠遺跡 30 次調査地（久米官衙遺跡群）	54
久米高畠遺跡 31 次調査地（久米官衙遺跡群）	60
久米高畠遺跡 32 次調査地（久米官衙遺跡群）	66
久米官衙遺跡群～総括と今後の展望～	76
古市遺跡（1・2 区）、下刈屋遺跡 2 次調査地【松山市道「平井・水泥線」関連遺跡】	84
古市遺跡 2 次調査地（1 区）【松山市道「平井・食場線」関連遺跡】	92
五楽遺跡（1・5 区）【松山市道「平井・食場線」関連遺跡】	100
II 平成 8 年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	
松山市埋蔵文化財確認調査一覧	107
松山市埋蔵文化財本格調査一覧	122
III 平成 8 年度 保存処理・整備事業	
保存処理事業	127
遺構保存・整備事業	130
IV 平成 8 年度 啓蒙普及事業	133
1. 展示活動 2. 教育普及活動 3. 収集・保管活動 4. 施設の利用	
5. 広報・出版活動 6. 職員研修・会議 7. 資料の貸出	

挿図・写真目次

卷頭図版 1 久米郡衙正倉院（西より）	古代 久米高畠遺跡32次調査地	
卷頭図版 2 大池東5号墳主体部（南より）	古墳時代前期	
卷頭図版 3 潤戸風岸4号墳主体部（北上空より）	7世紀中葉	
卷頭図版 4 掘立柱建物の柱配列状況（南より）	古墳時代後期以降 筋違K遺跡	
太山寺経田遺跡 4次調査地 2		
図1 調査地位置図（S=1:25,000）	写真1 査定地遠景（南より）	
	写真2 A区下段石列検出状況（西より）	
瀬戸風岸遺跡（D区） 4		
図1 調査地位置図（S=1:25,000）	写真1 4号墳床面検出状況（南東より）	
図2 D区測量図（S=1:150）	写真2 4号墳木炭床検出状況（北西より）	
図3 4号墳石室測量図（S=1:30）		
図4 4号墳出土遺物実測図（S=1:3）		
大峰ヶ台遺跡 9次調査地（4C区・6区） 8		
図1 調査地位置図（S=1:25,000）	写真1 大池東5号墳（北より）	
図2 墓丘測量図（S=1:150）	写真2 主体部（北より）	
図3 主体部測量図（S=1:30）		
岩崎遺跡 12		
図1 調査地位置図（S=1:25,000）	写真1 1区A完掘状況（西より）	
図2 谷塗地測量図（S=1:1,500）	写真2 1区C完掘状況（北より）	
表1 遺構一覧表	写真3 2区A遺構検出状況（南西より）	
	写真4 2区A足跡完掘状況（北東より）	
	写真5 2区B完掘状況（北より）	
	写真6 3区B完掘状況（北より）	
畠寺6号墳 18		
図1 调査地位置図（S=1:25,000）	写真1 墓丘完掘・盛土掘り下げ状況（北より）	
図2 调査地測量図・試掘トレンチ位置図 (S=1:1,000)	写真2 墓輪出上状況（南より）	
図3 墓丘測量図（S=1:300）		
図4 盛土出上遺物実測図（S=1:4）		

筋造 K 遺跡	22
図 1 調査地位置図 (S = 1 : 25,000)	写真 1 遺構完掘状況 (南より)
図 2 遺構配置図 (S = 1 : 120)	写真 2 S B 3 完掘状況 (南西より)
図 3 S B 3 測量図 (S = 1 : 60)	
 北久米淨蓮寺遺跡 6 次調査地	26
図 1 調査地位置図 (S = 1 : 25,000)	写真 1 B 区南側遺構完掘状況 (北より)
図 2 遺構配置図 (S = 1 : 200)	写真 2 B 区北側遺構完掘状況 (北より)
図 3 上層墓 1 測量図 (S = 1 : 20)	
図 4 土壙墓 1 出土遺物実測図 (S = 1 : 3)	
 北久米町屋敷遺跡 2 次調査地	30
図 1 調査地位置図 (S = 1 : 25,000)	写真 1 B 区遺構検出状況 (北より)
図 2 遺構配置図 (S = 1 : 100)	写真 2 S D 1 ~ 10 検出状況 (北西より)
図 3 町屋敷遺跡の測量図 (S = 1 : 400)	
 久米才歩行遺跡 2 次調査地	34
図 1 調査地位置図 (S = 1 : 25,000)	写真 1 遺構検出状況 (南より)
図 2 遺構配置図 (S = 1 : 100)	写真 2 S K 1 (奥)、S K 11 (手前) 遺物出土状況
図 3 S B 1 測量図 (S = 1 : 50)	(北より)
 久米宮衙遺跡群～平成 8 年度調査の成果～	38
図 1 平成 8 年度調査地位置図 (S = 1 : 5,000)	
 久米高畠遺跡 26 次調査地	40
図 1 調査地位置図 (S = 1 : 25,000)	写真 1 1 区遺構検出状況 (南より)
図 2 遺構配置図 (S = 1 : 250)	写真 2 2 区遺構完掘状況 (北より)
図 3 S K 138 測量図 (S = 1 : 40)	
図 4 S K 138 出土遺物実測図 (S = 1 : 4)	
 久米高畠遺跡 27 次調査地	44
図 1 調査地位置図 (S = 1 : 25,000)	写真 1 遺構完掘状況 (東より)
図 2 調査地測量図 (S = 1 : 1,000)	写真 2 遺構完掘状況 (西より)
図 3 上層模式図	写真 3 S D 6 完掘状況 (南西より)
図 4 遺構配置図 (S = 1 : 300)	写真 4 S K 46 遺物出土状況 (南より)
図 5 S K 46 測量図・出土遺物実測図 (S = 1 : 30・S = 1 : 4)	

久米高畠遺跡28次・29次調査地	50
図1 調査地位置図 (S=1:25,000)	写真1 完掘状況(南より)
図2 造構配置図 (S=1:200)	写真2 SD006完掘状況(北より)
図3 SD006出土遺物実測図 (S=1:3)	
久米高畠遺跡30次調査地	54
図1 調査地位置図 (S=1:25,000)	写真1 調査地全景(西より)
図2 調査地位置図 (S=1:2,000)	写真2 弥生時代土器群検出状況(北西より)
図3 造構配置図 (S=1:200)	写真3 挖立001半截状況(南より)
図4 挖立001 (S=1:80)	写真4 SB004カマド遺物検出状況(南より)
久米高畠遺跡31次調査地	60
図1 調査地位置図 (S=1:25,000)	写真1 調査地西半の遺構(東より・遠景は32次調査地)
図2 造構全図 (S=1:250)	
図3 挖立1測量図 (S=1:100)	
図4 出土遺物実測図 (S=1:4)	
図5 SK4出土弥生土器実測図 (S=1:4)	
久米高畠遺跡32次調査地	66
図1 調査地位置図 (S=1:25,000)	写真1 区画溝: SD001整地上層遺物出土状況(東より)
図2 造構配置図 (S=1:400)	写真2 正倉: 挖立001方形ピットと礎石(北東より)
図3 挖立017・010 (S=1:80)	写真3 正倉: 挖立017から010への建替え(南より)
図4 SD010(添)出土遺物実測図(S=1:3)	写真4 正倉院南面の漆・SD010完掘状況(西北西より)
図5 正倉院変遷図 (S=1:1,000)	
久米官衙遺跡群～総括と今後の展望～	76
図1 正倉院周辺図 (100mメッシュ・S=1:2,000)	
図2 久米評衙主要部 (100mメッシュ・S=1:750)	
図3 久米官衙遺跡群全体図 (100mメッシュ・S=1:2,000)	
古市遺跡 (1・2区)、下荘屋遺跡 2次調査地	84
図1 調査地位置図 (S=1:25,000)	写真1 古市1区SD1、SR1調査状況(東より)
図2 調査地測量図 (S=1:1,500)	写真2 古市1区SR1 弥生土器出土状況
図3 古市1区SD1、SR1の土層堆積 (S=1:50)	写真3 占市2区B地区 遺構完掘状況(東より) 写真4 古市2区C地区 挖立4P1遺物出土状況
図4 古市1区SD1出土遺物実測図 (S=1:4)	
図5 古市1区SR1出土遺物実測図 (S=1:4)	
図6 占市2区・下荘屋2次遺構配置図 (S=1:600)	

古市遺跡 2次調査地（1区）	92
図1 調査地位置図（S=1:25,000）	写真1 B地区遺構検出状況（南より）
図2 調査地測量図（S=1:1,000）	写真2 B地区掘立1・2検出状況（北東より）
図3 B地区遺構配置図（S=1:150）	写真3 B地区SK2遺物出土状況（西より）
図4 C地区遺構配置図（S=1:150）	写真4 C地区遺構完掘状況（北より）
	写真5 C地区掘立1完掘状況（東より）
	写真6 C地区SK1遺物出土状況（西より）
五楽遺跡（1・5区）	100
図1 調査地位置図（S=1:25,000）	写真1 1区A地区SK12焼土検出状況（北西より）
図2 調査地測量図（S=1:3,000）	写真2 1区A地区（西半部）遺構完掘状況（南より）
図3 1区A地区遺構配置図（S=1:150）	写真3 1区A地区（東半部）遺構完掘状況（南西より）
図4 1区A地区SK12測量図（S=1:30）	
図5 5区A地区遺構配置図（S=1:100）	
保存処理事業	127
表1 PEG濃度表	写真1 処理済木製品の取り出し作業
	写真2 出土した状態で復元された土器(釜ノ口遺跡出土)
	写真3 1基内で桃核が検出された状態(釜ノ口遺跡出土)
遺構保存・整備事業	130
	写真1 硬化剤の塗布作業風景
	写真2 レプリカ製作作業風景
	写真3 レプリカ型外し作業風景
	写真4 レプリカ完成写真
啓蒙普及事業	133
	写真1 特別展「葉佐池古墳」
	写真2 特別展記念講演会 九州大学 田中良之先生
	写真3 夏休み体験学習セミナー「土製品コース」
	写真4 考古学入門講座（第3回・古墳時代編）
	写真5 特別展「葉佐池古墳」ポスター
	写真6 春季特別展「古代の桑原II」ポスター

I 平成 8 年度

松山市埋蔵文化財調査概要

タイサンジキョウデン 太山寺経田遺跡4次調査地

所在地 松山市太山寺町1934番地外
期間 平成8年10月21日～同年11月22日
面積 2,800m²
担当 水本完児・河野史知



図1 調査地位置図

経過 本調査地は、埋蔵文化財包蔵地「No10片廻遺跡（弥生時代）太山寺古墳群 片廻古墳群 素鷺神社」内にあり、農道新設工事に伴う緊急調査である。太山寺山塊には、太山寺古墳群、北山古墳群、東山町古墳群、鶴ヶ時古墳群、高月山古墳群、勝岡町坂浪古墳群等が分布している。調査地は、松山平野北西部太山寺丘陵の東側、標高56.50～68mの緩斜面上に立地し、現在は果樹園として利用されている。調査は、集落関連遺構の範囲を主目的としている。

遺構・遺物 本調査では、A区より石列2基と、B～E区より集石状遺構を4基検出した。土層は、第Ⅰ層高業土（表土）、第Ⅱ層茶色土、第Ⅲ層明茶色土、第Ⅳ層暗茶色土、第Ⅴ層黄色土、第Ⅵ層岩盤（地山）である。

A区は調査地東側の丘陵南斜面に位置し、調査面積は35.8m²である。A区は上・下段に分かれ、上段では第Ⅱ層下位から石列を検出した。規模は東西6.2m、南北0.23mを測り、3～4列に並んでいる。遺物は出土していない。下段では第Ⅱ層中位から石列を検出した。規模は東西8.5m、南北0.35mを測り、角礫を2～3列で6段に積み、高さは70cmを測る。上・下段の石列は斜面に対して垂直方向に延びており、意識的に構築されたものと考えられる。遺物は、石列東側の地山付近から弥生土器片が2点出土したが、時期決定に有効なものではない。

B区は調査地中央東側の丘陵南斜面に位置し、調査面積は5.7m²である。第Ⅱ層中からは集石状遺構を検出し、規模は東西0.75m、南北2.1mを測り、出土遺物はない。

C区は調査地中央の丘陵南斜面に位置し、調査面積は15.4m²である。第Ⅱ層上位からは集石状遺構を検出し、規模は東西4.7m、南北1.6mを測り、出土遺物はない。

D区は調査地中央の丘陵南斜面に位置し、調査面積は14.0m²である。第Ⅱ層下位からは集石状遺構を検出し、規模は東西2.8m、南北1.85mを測る。石は散乱している状態であった。遺物は第Ⅱ層中から弥生土器片が1点出土したが、時期決定には有効がない。

E区は調査地西側の丘陵南斜面に位置し、調査面積は16.5m²である。第Ⅰ層中位からは集石状遺構を検出し、規模は東西0.8m、南北2.6mを測り、出土遺物はない。

小結 本調査では、石列と集石状遺構、弥生時代から中・近世までの遺物を検出した。遺物には弥生土器、須恵器、土師器、中近世の土師皿がある。今回の調査で検出した石列は、太山寺経田遺跡1次調査地、集石状遺構は太山寺経田遺跡2次調査地において検出している。よって、太山寺経田遺跡には石列と集石が広い範囲で分布することを確認したが、用途や時期は特定できない。今後の調査は、これらの課題を解決することにある。

（水本）

太山寺経田遺跡 4 次調査地



写真1 調査地遠景（南より）



写真2 A区下段石列検出状況（西より）

セトカゼトウゲ 瀬戸風峠遺跡（D区）

所在地 松山市下伊台町乙188-1外106筆
期間 平成7年4月5日～
平成10年2月28日（予定）
面積 257,349m²
担当 相原浩二・大森一成・小玉重紀子



図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市の指定する包蔵地の「No52 瀬戸風峠古墳群」における宅地開発に伴う事前緊急調査である。

瀬戸風峠遺跡は調査対象地が広範囲に及ぶため、各丘陵部ごとにA～F区までの6区画に区分し、平成6年4月より翌年の3月にかけて確認調査を行った。その結果、A区では遺構・遺物は検出されなかったが、B～F区については遺構が確認されたことから、それらの遺構と周辺部について平成7年4月より調査を行うこととなった。

これまでの調査では、平成7年度にC区（箱式石棺2基）、平成8年度にはD区（瀬戸風峠4号墳、土坑墓1基）の調査を終えている。なお、B区、F区は調査継続中である。

遺構・遺物 瀬戸風峠4号墳（以下、4号墳）は、松山市の北東丘陵部標高約230mの尾根頂部に立地する。4号墳の墳丘は、農業用灌水施設等により盛土は失われ、地山そのものも改変されており墳丘の規模、墳形は判然としない。4号墳の主体部は、主軸をN42°Wに沿る横穴式石室である。石室の規模は、全長5.15m、室長2.70m、幅1.50m～1.60m、高さ0.9mを測る両袖式の石室である。石室は、奥壁と側壁を基底部から2～3段残すのみでそれより上部は失われている。開口部は袖石の一部を残しそして壁体は抜き取られている。石室掘り方は遺存する壁体とほぼ同レベルから地山を掘り込んでいるが、現状から判断すればもう少し上からの掘削が想定されるものである。石室構築に使用された石材は同丘陵で普通にみられる花崗岩が使用されている。

石室床面には敷石などは見られないが、奥壁から約80cmの入り口側に板石状の石を4枚奥壁に平行して床面から約15cmの高さで立て並べて石室を仕切り、奥壁側に小ぶりの木炭を厚さ5～8cmほど數き詰めている木炭床が検出された。木炭の上からは人骨の外、完形の土師器の壺1点、須恵器壺の破片3点、耳環1点が出土している。人骨は焼けた形跡はなく、集骨された状態である。木炭床以外の床面からは、土師器の壺、須恵器の壺、高壺、長頸壺の土器類のほか、鉄鏃や勾玉などの鉄製品や石製品が出土している。この4号墳の時期については出土遺物から7世紀の中頃と考えている。

その他、この4号墳の南約3mのところに木棺痕跡を伴う土坑墓を検出している。出土遺物は鉄剣が1点出土した。この土坑墓と4号墳との築造時期の前後関係は明確にできていない。

小結 今回の調査では、瀬戸風峠古墳群における埋葬施設の一端が明らかになったものである。4号墳のような木炭床は全国的に珍しく、同古墳群のなかでも特異なものか、今後の調査で明らかにするものである。

（相原浩）

瀬戸風呂遺跡（D区）

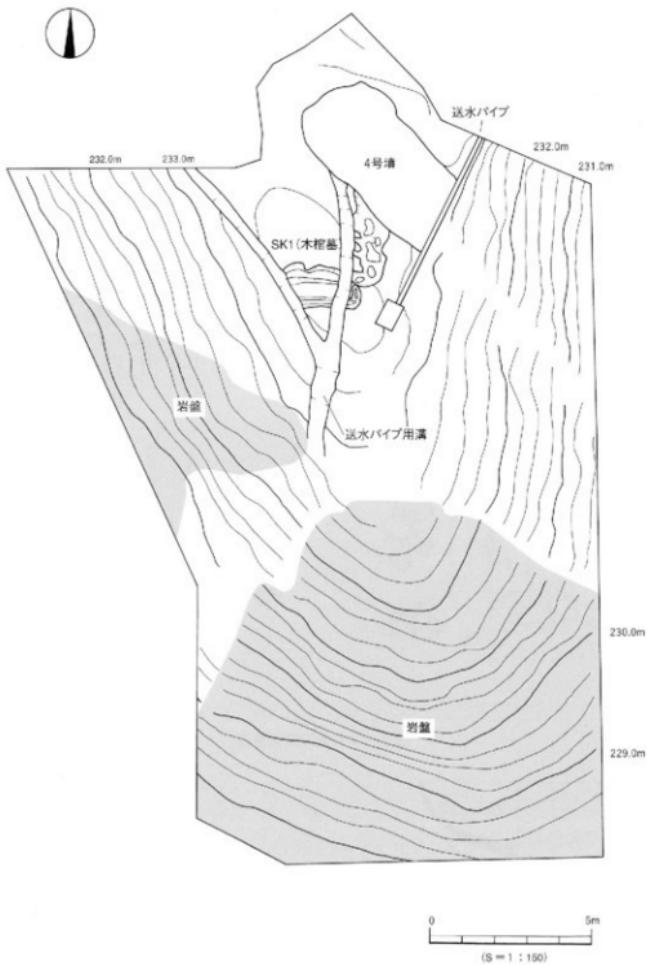


図2 D区測量図

瀬戸風呂遺跡 (D区)

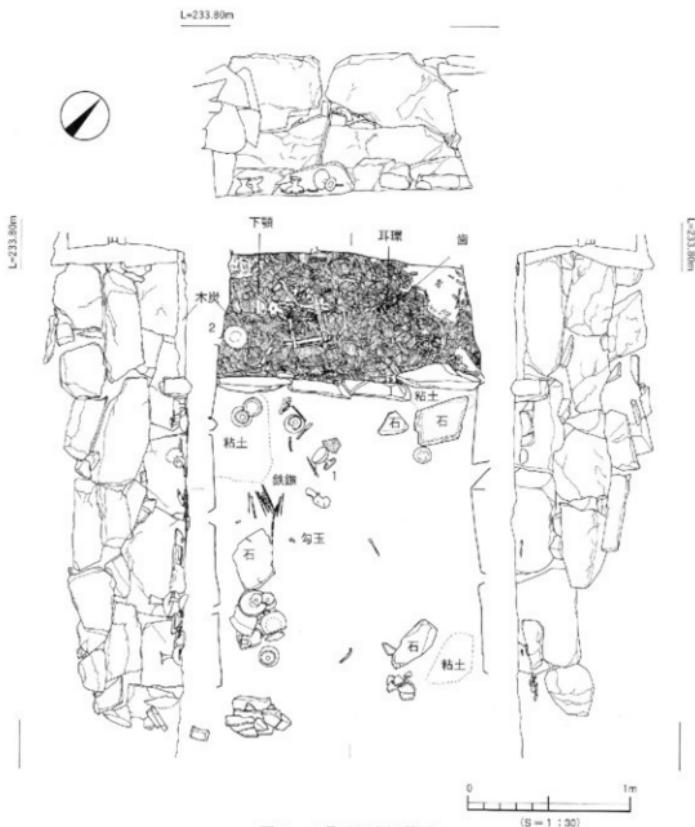


図3 4号墳石室測量図

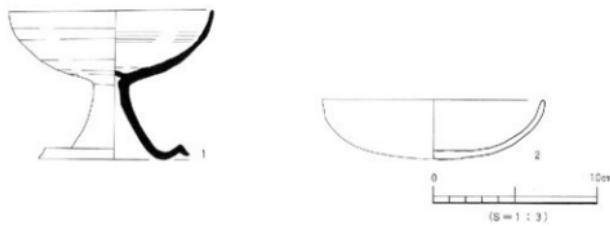


図4 4号出土物実測図

瀬戸風呂遺跡（D区）



写真1 4号墳床面検出状況（南東より）



写真2 4号墳木炭床検出状況（北西より）

オオミネ ダイ
大峰ヶ台遺跡9次調査地（4C区・6区）

所在地 松山市南江戸町
期間 平成8年7月10日～同年10月31日
面積 5,630m²
担当 梅木謙一・高尾和長



図1 調査地位置図

経過 本調査地は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地の「No32・33大峰ヶ台弥生遺跡・大峰ヶ台古墳群」内にあり、周知の遺跡として知られている。同包蔵地内では、これまでに8回の調査が行われ、特に1985（昭和61）年に行われた大峰ヶ台3次調査では、古墳8基と多数の遺物が検出されている。近年、大峰ヶ台丘陵の主陵を拠点とした松山総合公園の整備が行われることになり、これに伴って、文化教育課は事前の分布調査を行い古墳を確認した。その結果より文化教育課と(社)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターならびに松山市公園緑地課の三者は遺跡の取り扱いについて協議を行い、開発によって失われる遺跡について、記録保存のため発掘調査を実施することになった。発掘調査は古墳の範囲と古墳の構築方法の解明を目的とし、埋蔵文化財センターが主体となり、平成6年4月～9年3月の間調査を実施した。

遺構・遺物 大峰ヶ台丘陵は平野の西部にあって、西方の伊予灘からは約3.5kmに位置する独立丘陵である。4C区からは古墳1基を検出し、古墳名は大池東5号墳とした。

大池東5号墳は、大峰ヶ台の西側尾根部の標高88.6mに位置する。墳形は方形で、規模は東西12.8m、南北13.0m、残存高1.1mを測る。構築方法は、尾根を平坦に削平し地山を整形後、盛土を行う。盛土は東西の幅部から積み上げ、盛土上面を平坦に近づけながら構築している。周溝は尾根に直交し、南側と北側で検出した。規模は幅4.6m、深さ0.6mを測る。周溝内からは土師器片が少量出土した。

墓塚は隅丸長方形を呈し、主軸は国土座標より西に43°9'振っている。規模は、長軸4.7m、短軸1.4m、深さ0.6mを削る。断面形は舟底状である。墓塚は墳丘を掘って作られる。基底部は平坦にするために荒い礫混じりの土を敷いている。この土の上面で赤色顔料を3～5cmの厚さで検出している。南北の両小口からは10～50cmの石を検出した。

遺物は主体部床面の中央部から北側で、鉄製品とガラス小玉が出土している。鉄製品には劍・鉈・鎌がある。ガラス小玉は8点出土し、色はすべて青色である。

小結 4C区では古墳時代前期の墳丘と主体部の構築方法を主に調査した。特に構造方法では、墓塚は墳丘構築後に掘られ、墓塚の基底部では排水効果を高めたと考えられる荒い礫混じり層があり、さらには木棺を固定するための石材を確認した。この調査結果、前期古墳調査の研究を行う上で好資料である。

6区では、遺構は確認できなかったが、表探として須恵器片1点が出土した。これは、丘陵部には遺構が存在することを示す資料である。

（高尾）

大峰ヶ台遺跡 9次調査地

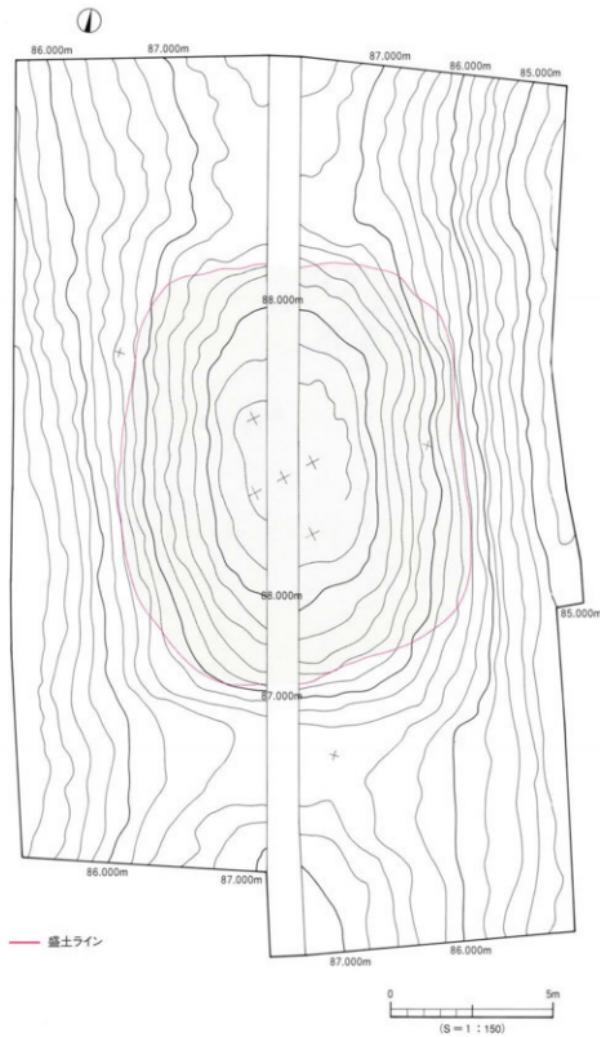


図2 塗丘測量図



図3 主体部測量図

大峰ヶ台遺跡 9次調査地



写真1 大池東5号墳（北より）



写真2 主体部（北より）

イワサキ 岩崎遺跡

所在地 松山市持田1丁目、岩崎2丁目
期間 平成8年6月3日～
平成10年3月末日（予定）
面積 12,600m²
担当 宮内慎一・相原秀仁



図1 調査地位置図

経過 本調査は松山東部環状線建設に伴う事前発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No153道後公園遺物包含地」に隣接する。周辺には弥生時代前期の標識土器が出土した持田遺跡や弥生時代前期の土塙墓や古墳時代の竪穴式住居址が確認された持田町3丁目遺跡がある。また調査地の北方に中世河野氏によって築城された湯築城址があり、東方には古代寺院の内代庵寺がある。試掘調査の結果、数基の柱穴と古墳時代から中世の土師器・須恵器を含む遺物包含層を確認した。調査は当地の古墳時代から中世の集落構造解明及び古環境・古地形復元を目的的に実施した。

調査地は、湯渡町（市道317号線）から県道188道後公園線に至る全長760m、道路幅18mのほぼ全域が調査対象地である。調査は平成8年度と平成9年度の2年間にわたり実施される。調査地が南北に長い形状であるため、調査の進行上、調査地内を6区画に分けて調査を行なうことになった。調査地の南側から北側に向けて1区・2区…6区と区名を付け、平成8年度は1区・2区・3区の調査を実施した。

構造・遺物 調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地の扇央付近に位置する。調査以前は水田や既存宅地であった。地形は北から南に向かって緩傾斜をなし、標高は35.6m～37.2mである。基本層位は第Ⅰ層表土、第Ⅱ層灰色土、第Ⅲ層褐灰色土、第Ⅳ層オリーブ灰色土、第Ⅴ層灰色砂礫である。第Ⅱ層は灰色土で微弱な土色と砂粒の混入量の違いから3層に分層した。第Ⅱ①層は14～15Cの土師器、陶磁器を包含する。また、第Ⅱ③層は11～12Cの土師器・須恵器を包含する。第Ⅴ層は疊層と砂粒の混入の違いから2層に分層した。第Ⅴ①層は旧石手川の氾濫に起因する径10～15cmの礫である。第Ⅴ②層は旧石手川の径20～30cmの礫で構成される。調査地中央部では段状に落ちる箇所が確認された。この落ち部を境に調査地の南半部と北半部では上層の堆積状況が異なる。北半部には第Ⅲ・Ⅳ層は推積するが南半部には推積しない。第Ⅲ層からは古代、第Ⅳ層からは古墳時代に時期比定される遺物が出土している。

調査地南半部（1区A・C・D、2区A）からは溝状遺構や畦畔、足跡を検出した。1区Cで検出された溝状遺構は東西及び南北方向のものがあり、水田に伴う水路と畑作に伴う貯溝が重複しているものと推測される。足跡は形状から人間と牛であり、水田耕作に伴うものであろう。これらの遺構からの遺物の出土はないが足跡や溝状遺構を覆う第Ⅱ①層と検出面である第Ⅱ③層出土遺物から概ね12～14C後半頃の水田址、畑址と推測される。調査時は水田の平面プランは未検出であるが、調査壁の土層観察より畦畔を確認した。

調査地北半部（2区B、3区A・B）からは掘立柱建物址、溝、土坑、柵列を検出した。3区Bで

岩崎遺跡



図2 調査地測量図 ($S = 1 : 1,500$)

検出された掘立柱建物址4棟は規模が1間×2間の南北棟で比較的小規模な建物である。掘立1の柱穴内からは14~15Cに時期比定される土器器の皿が出土している。

小結 今回の調査で調査地南部から溝状遺構、足跡（人間・牛）が検出された。当地は中世段階に水田及び畠が営まれていたものと考えられる。溝の重複からある時期は水田耕作、ある時期は畠作にと土地の使い分けが行なわれていたものと推測される。調査地北半部からは掘立柱建物址、溝、土坑など集落間遺構が検出された。当地は古墳時代以降、集落が継続して営まれたものと推測される。

このことから調査地北半部は居住域、南半部は生産域として土地利用されたものと考えられる。今後の課題は1区Cで検出された溝状遺構を水田の水路と畠の畠溝に認定し、畦畔や足跡の分布状況などから水田区画の想定ラインの復元を行なうことや2区Bの段状に落ちる箇所は自然に形成されたのか、ある時期人間の手によって造成されたのか、その性格を検討する必要がある。
(宮内)

表1 遺構一覧表

地区	区	検出遺構(数)	遺構名	規模 長さ×幅×深さ(m)	出土遺物	時期	備考
1区	A	溝(3条)		0.02×5.80×0.10~0.05		15C以前	日式神が覆う
		土坑(2基)	S K1	0.95×0.65×0.06		15C以前	日式神が覆う
			S K2	0.95×0.65×0.06		15C以前	日式神が覆う
	B	自然流積(3条)	S R1	(0.40)×1.20×0.28	上部・須恵	11C	
			S R2	(16.30)×4.20×0.50	下部・等(馬)	12C後半	
			S R3	(3.80)×1.40×0.20		15C以前	日式神が覆う
	C	溝(7条)・「溝・水路」		(0.2~3.0)×0.08~0.30×0.06		12~14C後半	日式神上面検出
		溝(2条)・「溝・水路」		(0.2~3.0)×0.07~0.35×0.04		12C以前	日式神上面検出
		足跡(346個)				12~14C後半	日式神上面検出
2区	D	足跡(168個)				12~14C後半	日式神上面検出
		溝(10条)・「溝・水路」		0.49~1.90×0.04~0.32×0.03		12~14C後半	日式神上面検出
		足跡(226個)				12~14C後半	日式神上面検出
	E	自然流積(2条)	S R1	(2.40)×2.00×0.44		15C以前	日式神が覆う
			S R2	(2.00)×0.45×0.16		15C以前	日式神上面検出
		溝(10条)・「水路」		(0.01~7.70)×0.05~0.30×0.028		12~14C後半	日式神上面検出
	A	溝(2条)	S D7	(11.00)×1.20×0.30		12C以前	日式神上面検出
			S D9	(9.80)×0.45×0.20		12C以前	日式神上面検出
		足跡(1498個)				12~14C後半	日式神上面検出
3区	B	溝(2条)	S D1	(3.00)×2.60×0.60	上部・須恵・石	18C	
			S D2	(8.89)×4.70×0.57	土・砂	14~15C	
		足跡(97個)				12~14C後半	日式神上面検出
	A	土坑(3基)	S K1	0.76×0.32×0.15	土・砂	12C以前	日式神上面検出
			S K2	0.78×0.74×0.15	土・砂	12C以前	日式神上面検出
			S K3	0.76×0.68×0.18	土・砂	12C以前	日式神上面検出
	C	上坑(4基)	S K1	0.74×0.29×0.15	土・砂・須恵	6C後半	
			S K2	0.63×0.26×0.15		6C後半以降	S K1を切る
			S K3	0.85×0.72×0.47		6C後半以前	S K2に切られる
B	D	S K4	(0.46)×0.21×0.30			不明	
		旧河川(1条)	旧河川1	(?)×6.60×0.50	甕・生糞		甕生糞・中層
		掘立柱建物址(4棟)	渾1・2×2脚	[1.61]×2.6	土師	14~15C	南北棟
	E	渾立2	2×2脚	[1.81]×3.2	上部	14~15C	南北棟
		渾立3	1×2脚	[2.0]×3.0	上部	14~15C	南北棟
		渾立4	2×2脚	[2.2]×3.8	上部	14~15C	南北棟
	F	唐(3条)	S D1	(5.40)×1.50×C.26	土・砂	13C	
			S D2	(4.10)×0.36×C.33	土・砂・須恵	14~15C	
			S D3	(2.10)×0.42×C.26	須恵	不明	
A	G	土坑(14基)	S K1	0.58×0.32×0.07	上部	14~15C	網矢1と重複
			S K2	0.80×0.58×0.20	上部・石	不明	
			S K3	0.77×0.68×0.26	上部	14~15C	網矢1と重複
	H	S K4	0.94×0.81×0.23			不明	
			S K5	0.77×0.68×0.26		不明	
			S K6	1.00×0.72×0.34		不明	
	I	S K7	1.53×1.20×0.16			不明	
			S K8	0.72×0.70×0.27	上部	中層	
			S K9	1.42×1.22×0.26	上部・須恵	8C	
	J	S K10	1.00×0.83×0.23	上部		中層	
			S K11	1.05×1.20×0.24	土・砂・石	12C後半	
			S K12	0.95×0.65×0.34		不明	
C	K	S K13	1.55×(0.53)×0.32	土・砂	14C以前	S K2に切られる	
			S K15	0.76×(0.50)×0.39		不明	
			S K14	1.30×1.20×0.26	上部・須恵・土・砂	8C以前	S K8に切られる
D	L	網矢(1条)	網矢1	5M(6.14)	上部	中層	柱穴6基



写真1 1区A完掘状況（西より）



写真2 1区C完掘状況（北より）



写真3 2区A遺構検出状況（南西より）



写真4 2区A足跡完壠状況（北東より）



写真5 2区B完掘状況（北より）



写真6 3区B完掘状況（北より）

ハタデラ 烟寺6号墳

所在地 松山市烟寺町丙1-1外8筆
期 間 平成8年6月1日～同年7月15日
面 積 9,717.08m²
担 当 水本完児・河野丈知



図1 調査位置図

経過 本調査地は、埋蔵文化財包蔵地「No87 烟寺古墳群」内にあり、老人ホーム建設に伴う緊急調査である。この烟寺古墳群は、踏査により5基の古墳が確認されているが、墳形や時期は未調査のため不明である。調査地周辺ではこれまでに、北には煙寺竹ヶ谷古墳群、東野お茶屋台古墳群、南西には三島神社古墳、経石山古墳、南には桑原古墳群があり、弥生～古墳時代の遺構や遺物が多数出土している。調査地は、高繩山系の南西側の麓、煙寺古墳群の西側丘陵地に位置し、標高約68m前後に立地する。調査地は調査以前は耕作地（果樹園）である。本調査は、古墳の築造方法の解明と当地周辺に点在する古墳との関係を調査の主目的とした。

遺構・遺物 本調査では、古墳を1基確認した。周溝1条、埴輪列（盛土内）1列、性格不明遺構1基を検出した。古墳は円墳で、規模は直径26mを測り、施設には周溝がある。墳丘は削平され、主体部は未検出である。ただし、墳丘中央部において性格不明遺構1基を検出した。墳丘に関わる土層は、第I層表土、第II層盛土、第III層薄い黄色土（周溝埋土）、第IV層地山である。墳丘の築造は、まず地山を削って基盤面をつくり、その上に盛土を固めながら積んでいく。埴輪は、盛土を掘りこみ並べられている。円筒埴輪は、墳丘北から12個体が出土し、50～160cm間隔に配される。また、T20からは1個体が出土している。墳丘から出土した12個体は胴下半部～基底部、T20出土埴輪は口縁部が遺存するにすぎない。周溝は調査区東側にて検出し、西側は後世の削平を受け消滅している。断面形態はレンズ状を呈し、規模は幅2.5～4.5m、検出面よりの深さは10～50cmを測る。埋土は、薄い黄色土（薄い赤褐色混じり）であり、遺物には須恵器と埴輪片（土師質・須恵質）が数点出土している。性格不明遺構は調査区中央東側にて検出した。平面形態は隅丸長方形で、2段彫りになっている。規模は長軸1.4m、短軸1.0m、深さ70cmを測る。主軸方位はN-16.5°-Eで、北東を指向する。埋土は薄い赤褐色土（薄い黄色混じり）で、赤褐色土が混入する。遺物は、上部から中部に埴輪片と拳大の円礫が出土し、床面付近においても拳大の円礫が1点出土している。

小結 本調査では、古墳時代後期の古墳を1基確認した。松山平野東部に位置する煙寺古墳群としては初の調査になる。本墳は、6世紀中葉から後半の直径26mを測る円墳である。北接する煙寺竹ヶ谷古墳群や東野お茶屋台古墳群（円墳で10～15m）のものよりも規模が大きいことが判明した。特筆すべきことは円筒埴輪の検出である。埴輪列は、50～160cm間隔に配され、墳丘を掘り設置されたことがわかった。平野北東部にある桑原地区は、石手川の扇状地に集落を置き、烟寺～東野に墓域をもつ。今後は、墓域の構造と集落との関係を解明しなければならない。

（水本）

〔文献〕水本完児 1997「【雄寺6号墳】『桑原地区の遺跡』」松山市教育委員会・御松山市生涯学習振興財团埋蔵文化財センター

畠寺 6 号墳

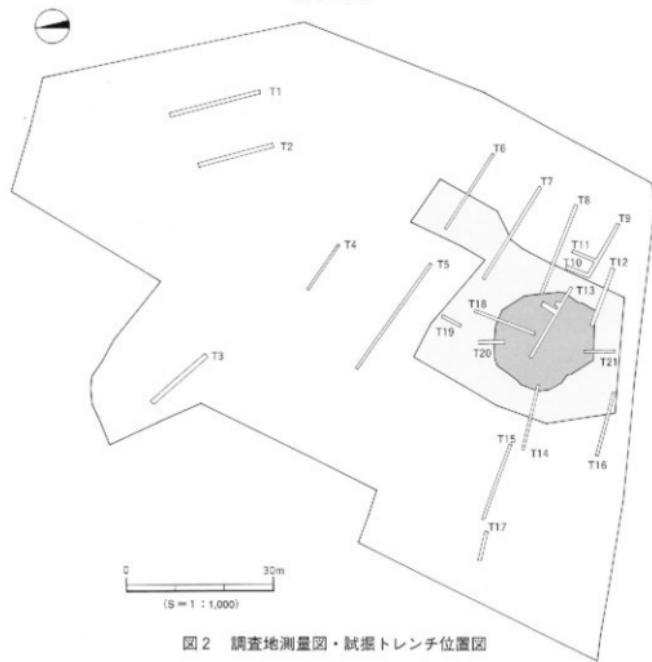


図2 調査地測量図・試掘トレンチ位置図

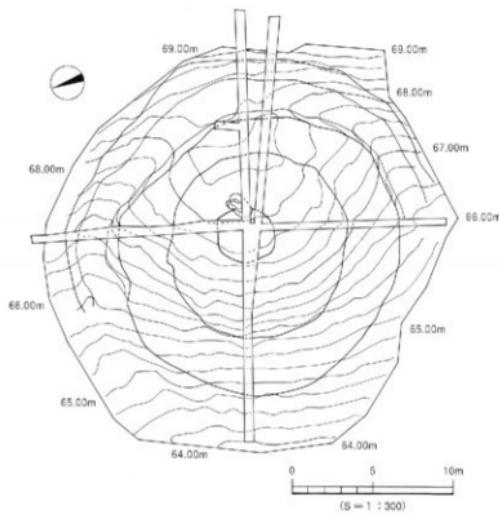


図3 墳丘測量図

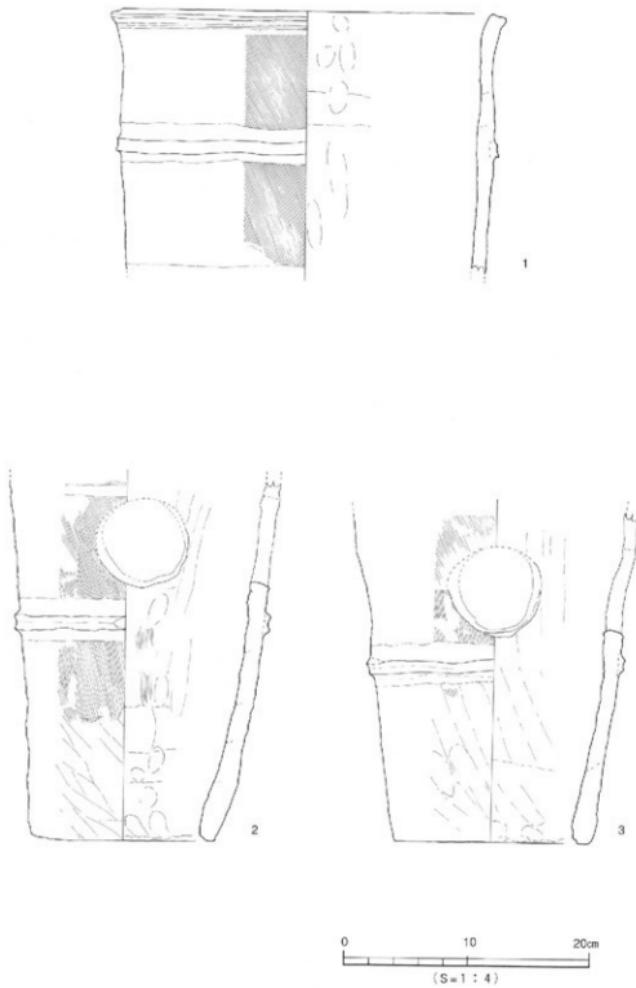


図4 盛土出土遺物実測図

畠寺6号墳



写真1 墳丘完掘・盛土掘り下げ状況（北より）



写真2 墳輪出土状況（南より）

スジカイ
筋違K遺跡

所在地 松山市福音寺町406番地1
期間 平成8年4月1日～同年5月31日
面積 1,059m²
担当 山木健一・山之内志郎



図1 調査位置図

経過 本調査は、「No114 松末遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。試掘調査の結果、竪穴式住居址遺構・溝状遺構・柱穴等の遺構と土器類・須恵器等の遺物を確認した。

当該地域周辺の遺跡として、南東約200mには弥生時代後期の溝、土器塗り、祭祀遺構をはじめとする弥生時代～古代の大集落である福音小学校構内遺跡が、また南西には筋違E～J遺跡が所在し、弥生・古墳時代の集落関連遺構を中心として近現代までの遺構を確認している。そのため、福音寺地区における弥生・古墳時代の集落関連遺構の広がりの確認とその性格の解明を主目的に本格調査を開始した。

遺構・遺物 本遺跡において確認された遺構は、竪穴式住居址3棟、掘立柱建物址2棟、土坑4基、溝1条、柱穴53基で、出土遺物などから古墳時代～中世に位置づけられる。

古墳時代の遺構としては、竪穴式住居址（SB1・2・3）がある。SB3は調査区北東部に位置する。平面形は方形を呈し、規模は南北6.38m、東西6.02mを測る。検出面よりの墓高は10.1cmを測る。埋土は灰褐色粘質土である。主柱穴は4本を確認している。住居址の内部施設として土坑（SK1）・溝（SD1・2）・周壁溝を検出した。遺物は、土師器の甕・小型丸底壺・鉢・高杯などが出土していることから、この住居址は古墳時代中期に位置づけられる。

掘立柱建物址（掘立1）は調査区南西部に位置し、規模は2間×2間の東西棟である。各柱穴は円形または楕円形を呈し、柱穴埋土は明黄褐色シルトを基調とする。また掘立柱建物址（掘立2）は調査区南東部に位置し、3間×2間以上の矩形建物である。建物の南側は調査区外へ続くものと考えられる。各柱穴は円形または楕円形を呈し、柱穴埋土は暗褐色シルトを基調とする。建物の時期は、埋土と規模より、いずれも古墳時代後期以降と推定される。

小結 本調査により、古墳時代から中世における遺構・遺物を確認することができた。調査区は狭小であったにもかかわらず、古墳時代を中心として豊富な集落関連の遺構を検出することができた。

その中でも特筆すべき遺構のひとつとして、SB3内のSK1・SD1・2及び掘立2があげられる。まずSK1は、SB3南壁中央付近に位置し、現在のところ性格については炉址と推定されるものの、出土遺物や焼土の状況などから再検討を行う必要がある。次にSD1・2は、SB3の床面を検出した段階で確認し、その性格については、住居址内を四分割するための間仕切り的な要素を持つものと考えられるが、類例の増加を待って明らかにしたい。

また掘立2にみられるような大型矩形建物は、筋違E遺跡をはじめとして福音寺地区において顕著に確認されていることから、時期決定を含めて総合的な検討が必要と思われる。このように、本調査は福音寺地区における集落の一端を明らかにする上で好資料となるであろう。 (山之内)

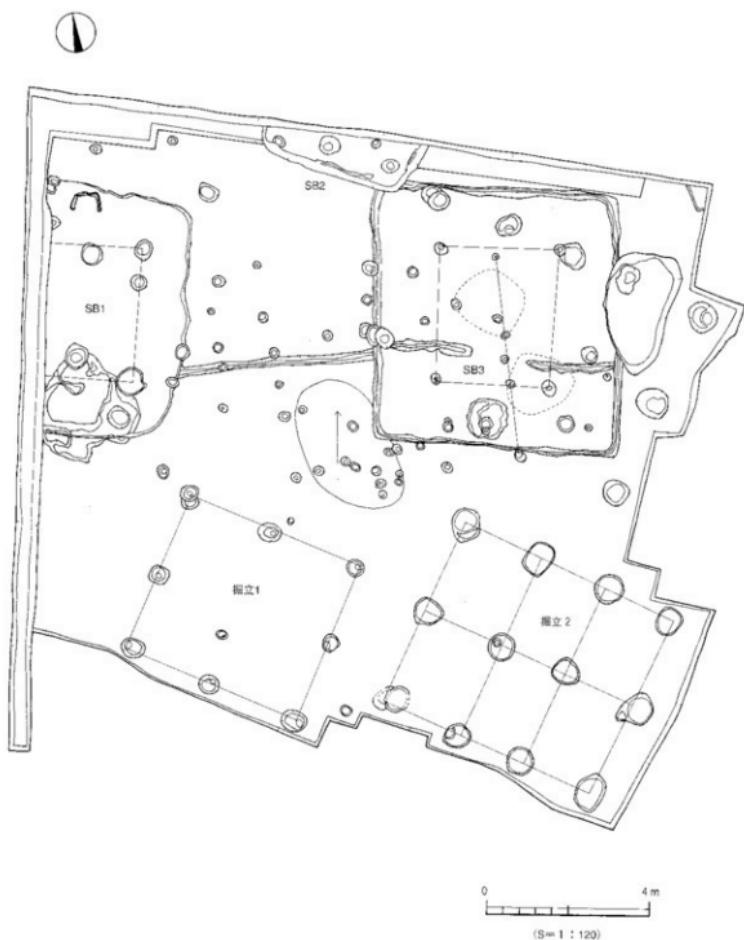


図2 遺構配置図

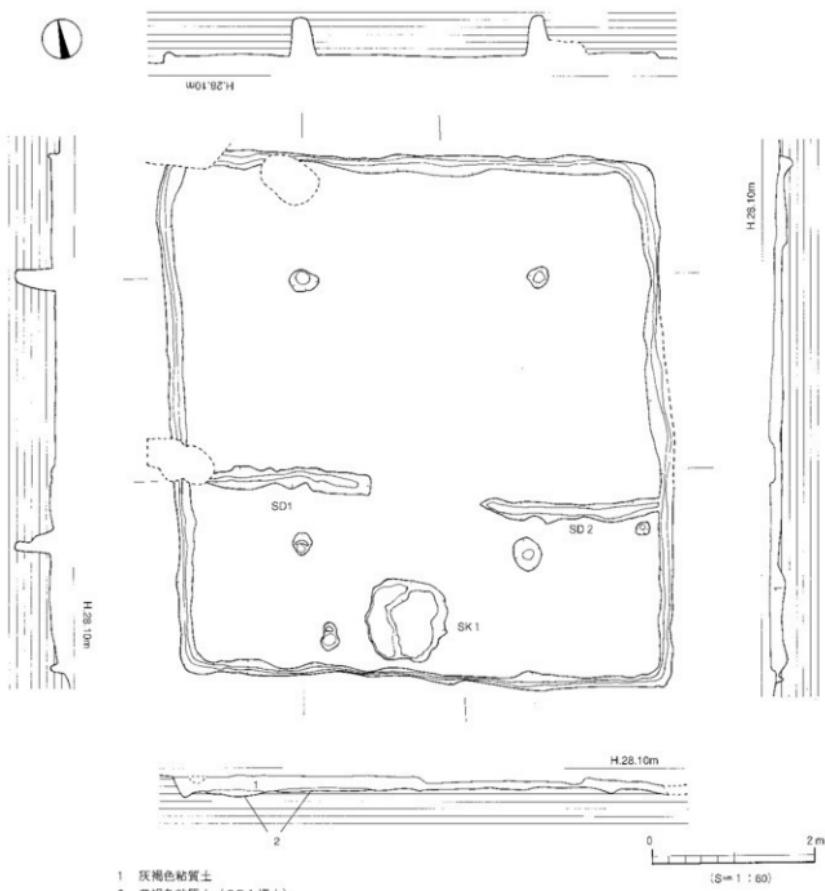


図3 SB3測量図



写真1 造構完掘状況（南より）

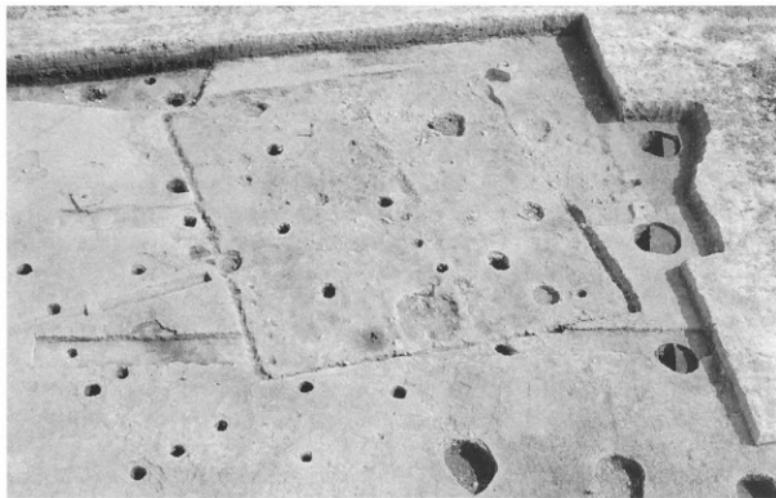


写真2 SB 3 完掘状況（南西より）

キタ ク メジウレンジ 北久米淨蓮寺遺跡 6次調査地

所在地 松山市北久米町885-1・886-1
期 間 平成8年4月1日～同年6月6日
面 積 A区193m² B区864m²
担 当 河野史知・水本完児



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No124北久米遺物包含地」内における開発工事に伴う事前調査である。当地は、来住台地から福音寺にかけての低丘陵地上の標高31mに立地する。

調査地周辺ではこれまでに、北西に国道11号線バイパス建設に伴う発掘調査や福音小学校構内遺跡、筋迹遺跡、南東の来住台地には久米高畠遺跡群、来住遺跡群など有数の遺跡地帯があり、弥生時代から古代にかけての遺構や遺物を多数検出している。調査対象地は北久米淨蓮寺遺跡内にあり、現在までに5次の調査が実施され古墳時代から古代に至る集落に関連した遺構を多数検出している。

本調査は、淨蓮寺地区における古墳時代～古代にかけての集落関連遺構の広がりを目的として調査を実施した。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層床土、第Ⅳ層古墳～古代の遺物包含層、第Ⅴ層シルト質の地山である。調査区の旧地形は全体的に北東から南西へ緩傾斜する。

検出した遺構は、A区より土坑1基、溝1条、柱穴24基、小穴31基、倒木痕2基、足跡（人・牛）、性格不明遺構2基を検出した。B区より掘立柱建物址5棟、土坑1基、土壙墓1基、溝11条、柱穴34基、倒木痕4基、足跡（人・牛）、性格不明遺構6基を検出した。

主な遺構は古墳時代から古代にかけてのもので、掘立柱建物は真北に沿って建てられたものと、真北より20～30°振ったものに分かれる。A区では人の足跡に混じり牛の足跡が検出された。人の足跡は20～25cmのものが殆どを占め、10～15cmの小型のものも見られる。SD1の東側において牛の足跡は多くみられ、人と牛の足跡は、SD1に沿って北西から南東方向へ規則性をもち歩いていたと推測される。土壙墓1は、平面形態が長方形、断面形態は皿状を呈し、規模は長軸2.13m、短軸0.73m、検出面よりの深さ約12cmを測る。土壙内寄りにて平面形態が長方形の木棺の痕跡を確認した。副葬品は木棺内の床面より、完形の内黒椀2点が破れ合わせた状態で出土した。

小結 今回の調査では既往の5調査と同じく古墳時代後期から古代に至る遺構と遺物を検出した。掘立柱建物は古墳時代後期から古代のもので、掘立1・2は同時期に存在したと想定できる。掘立2は建て替えた痕跡が確認された。SK1・2は特に施設を持たなく、貯蔵穴と考えられる。地形に沿って並んでいるSD2～6・11は土壙墓に先行する時期のもので農耕に関連する施設の可能性もある。土壙墓1より出土した内黒椀は椀内に食物等を入れ副葬したことが考えられる。SD8は真北から西へ屈曲する区画溝が考えられる。A区の南部とB区の南東部においては人と牛の足跡を確認しており、これは、当地での古代における牛耕を示す資料である。このように淨蓮寺地区の生活域に伴う生産域の一部を確認できたことは集落の構造を解明する上で貴重な資料である。(河野)

北久米淨蓮寺遺跡 6次調査地

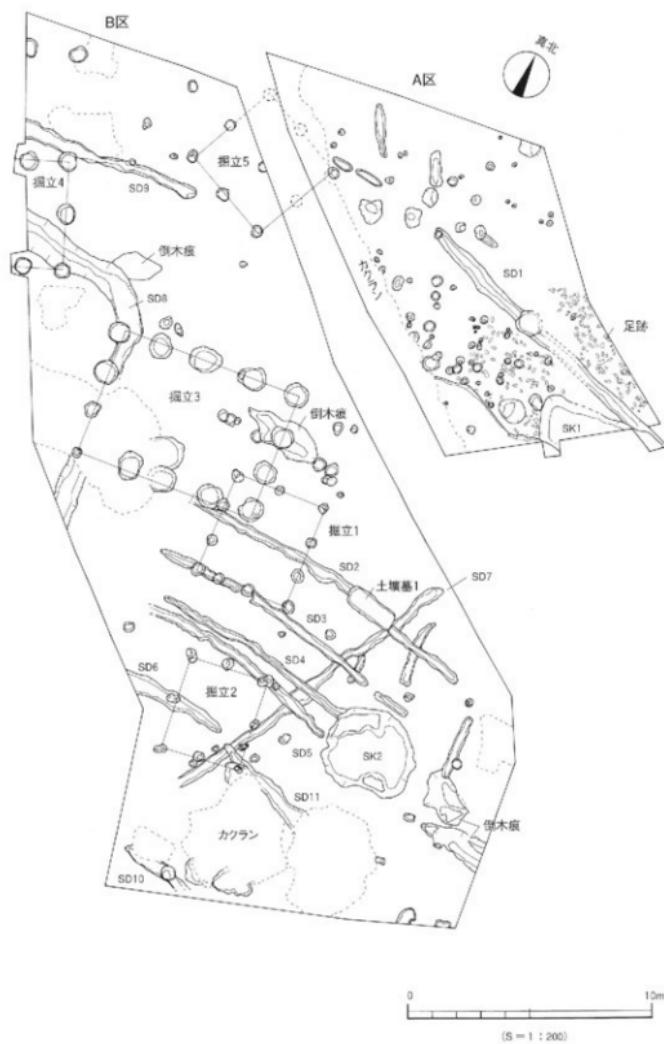


図2 造構配置図

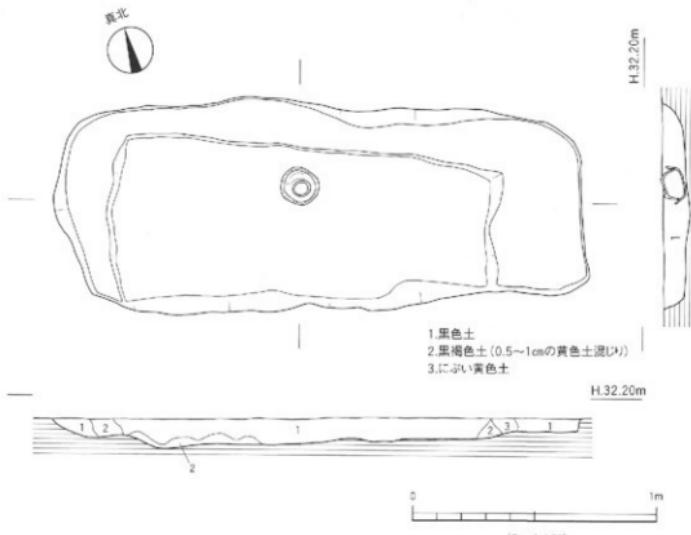


図3 土塚墓1測量図

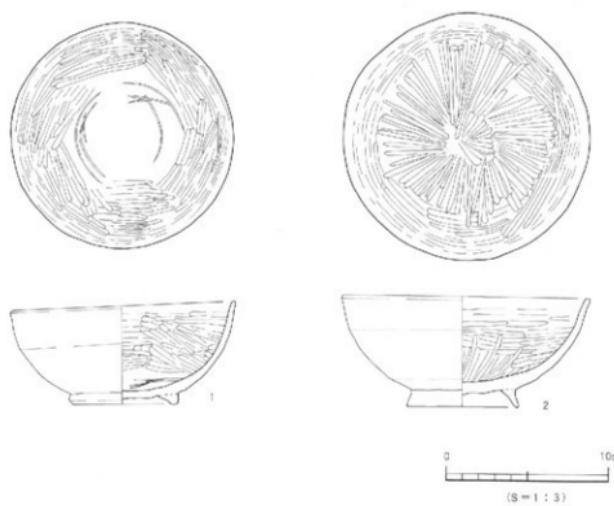


図4 土塚墓1出土遺物実測図

北久米淨蓮寺遺跡 6次調査地



写真1 B区南側遺構完掘状況（北より）



写真2 B区北側遺構完掘状況（北より）

キタクメ マチヤシキ 北久米町屋敷遺跡 2次調査地

所在地 松山市北久米町477番地2
期間 平成8年7月1日～同年8月30日
面積 347.64m²
担当 相原浩二・小玉亜紀子



図1 調査位置図

経過 本調査は「No126 高畠遺物包含地」内における宅地造成に伴う事前調査である。調査地は、松山平野東部の来住台地の北端、堀越川周辺の標高約33mに位置している。周辺の遺跡には東隣地に北久米町屋敷遺跡1次調査地があり、中世や近世の遺構や遺物が数多く確認されている。また、東部には南久米町遺跡、南部には才歩行（さいかち）遺跡、北西部には北久米淨蓮寺遺跡群があり、古墳から古代、中世にかけての集落に閑連する遺構・遺物が数多く検出されている。今回の調査は隣接する1次調査地の遺構の広がりと北久米地域の遺跡の様相確認を主目的としておこなった。

遺構と遺物 基本層位は第I層から第V層に分層される。第I層造出土、第II層旧水田層、第III層暗オリーブ褐色土、第IV層包含層（暗褐色土）、第V層地山（黄色層）である。遺構はすべて第V層上面（地山直上）で検出した。主な遺構は中世から近世にかけてのものであり、溝13条、柱1基（P1～P6）、柱穴7基、性格不明遺構1基（SX1）を検出した。

溝（SD4）は幅2～3m程度で、調査地南端で「L」字形に曲がり、北・東部の調査地外にそれぞれ延びている。埋土は2層に分層される。上層は黒褐色土で、堆積は薄くて粘性が強い。下層は砂質の混在する層で、握り拳大の礫がある。これらの事より流水していたと考える。床面の高低差は殆ど無く緩やかな流れであったのだろう。下層からは亀山焼の大甕、輪削焼の擂鉢、土師器皿、三足羽釜、東播系須恵器のこね鉢や青磁器など多数の破片が出土している。これらの出土遺物から、SD4は室町時代後期には埋没したと考えられる。

橋1（P1～P6）は、SD4内から柱穴が確認された。いずれの柱穴にも柱根材・柱根跡などなく、出土遺物もなかった。時期は不明であるが、SD4に付設していたと考えられる。

溝（SD1～3・5～13）はいずれも痕跡的な遺構であり、新旧関係は確認出来なかった。溝の方向には南北方向と東西方向の2種類あり、SD4同様に調査地南端で「L」字形に曲がっている。埋土は粘性が強く、流水溝とは考えにくい。出土遺物から時期は、江戸時代である。

小結 今回の調査では中世から近世の遺構を確認した。本調査地で検出した各溝は1次調査地の溝と同一の遺構であることが明らかになった。溝は中世に統いて近世も同じ区域を巡っている様子である。1次調査地からは、中世には掘立柱建物址（2×2間）が1棟検出されており、土師皿、三足羽釜なども出土している。遺構が確認されてない近世にも土師皿や灯ろう皿、擂鉢などの日常生活に使用する遺物が出土している。これらより、1次調査地は居住空間であり、2次調査で検出された各溝は中世・近世ともにこの空間を巡っている区画溝の可能性が考えられる。調査地の地名は「町屋敷」と言い、地名から何らかの「屋敷・館」の存在が考えられる。いつ頃から呼称されたかは不明だが、

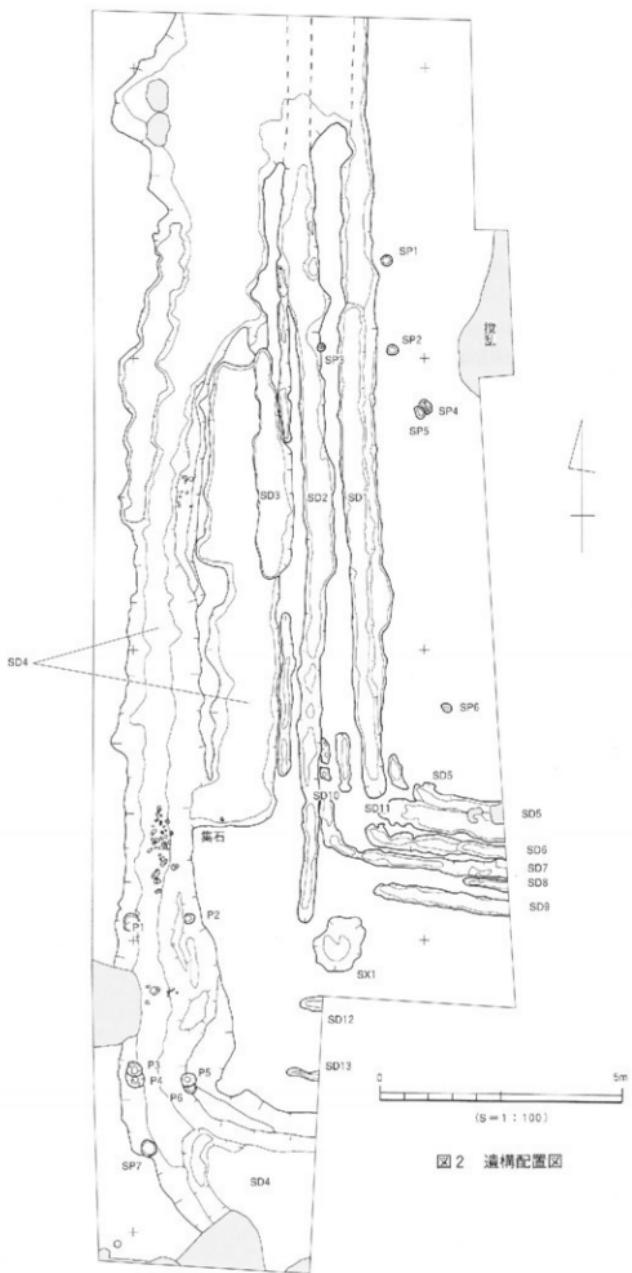


図2 遺構配置図

北久米町屋敷遺跡 2次調査地

この地の遺構の性格を考えるうえで参考にできよう。(小玉)

参考文献

- (1) 濑澤敬三 1965『絵巻物による 日本常民生活絵引』第二巻 角川書店
- (2) 中野良一 1988『愛媛県における古代末から中世の土器様相』『中近世土器の基礎研究』IV
- (3) 田崎博之編 1993『樽味遺跡Ⅱ次・樽味遺跡 2次調査報告』愛媛大学埋蔵文化財調査室
- (4) 武正良治 1994『北斎院地内遺跡の中世集落』『斎院の遺跡』松山市教育委員会・
松山市生涯学習振興財团埋蔵文化財センター

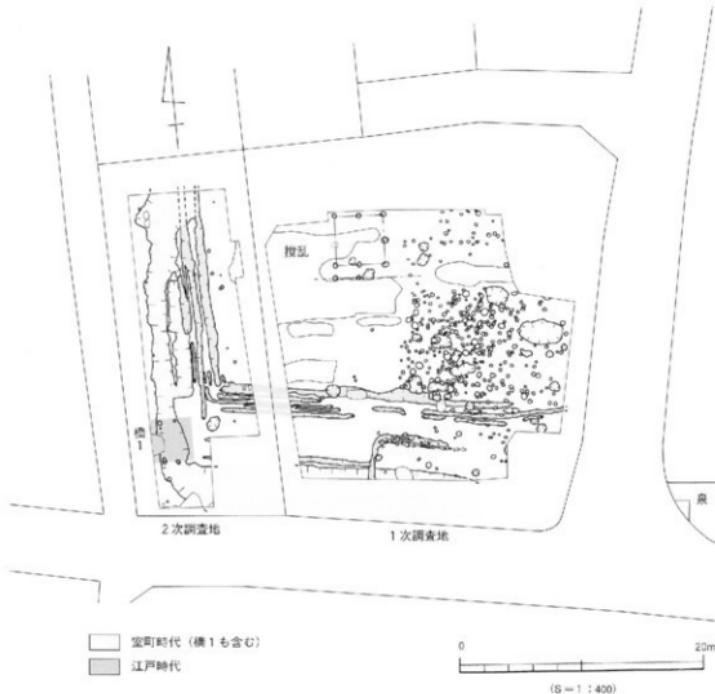


図3 町屋敷遺跡の測量図



写真1 B区違構検出状況（北より）

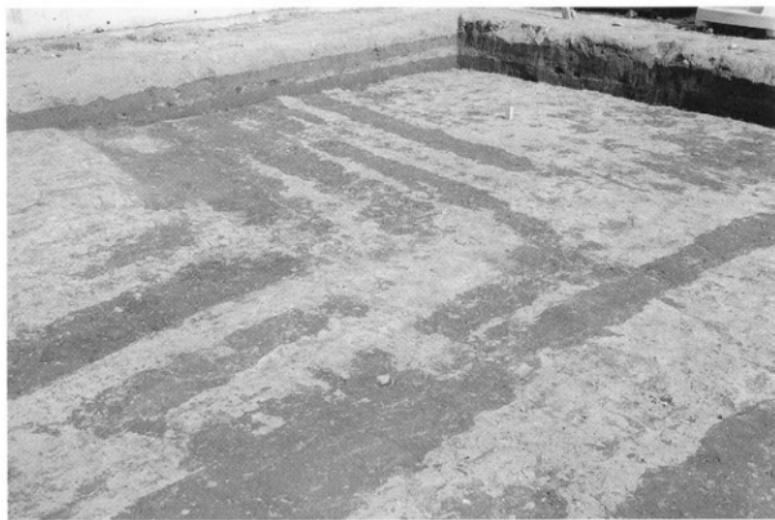


写真2 S D 1～10検出状況（北西より）

久米才歩行遺跡 2次調査地

所在地 松山市南久米町476-1・2、475-3番地
期間 平成8年11月12日～平成9年1月31日
面積 361.91m²
担当 高尾和長・梅木謙一



図1 調査地位置図

経過 本調査地は、松山市が指定する埋蔵文化財の包蔵地「No126 高畠遺物包含地」内にあたり、周知の遺跡として知られている。同包蔵地内では、これまでに多数の調査が行われ、弥生時代～中世の竪穴式住居址、土坑、溝などを検出し、同時代の集落関連遺跡が確認されている。南方にある来住庵寺の調査では、1辺100mの回廊状遺構や溝などが検出され、官衙遺跡として注目されている。

遺構・遺物 調査地は、来住台地の北端を流れる堀越川の北側に位置し、標高は34mを測る。基本土層は第Ⅰ層造成土（20cm）、第Ⅱ層耕作土（15cm）、第Ⅲ層未土（12cm）、第Ⅳ層灰褐色土（4cm）、第V層黒褐色土（20cm）、第VI層黃色土（地山）である。遺構は第VI層上面で検出した。

調査では、竪穴式住居址2棟（SB1・2）、掘立柱建物址1棟（掘立1）、土坑12基（SK1～12）、溝7条（SD1～7）、柱穴209基を検出した。

SB1は、調査区中央のB2～C3区に位置する。SK8・9、SD2・3・4、試掘トレンチと近現代坑に切られる。平面形態は方形で、規模は長軸6.04m、短軸5.42m、壁高14cmを測る。埋土は黒褐色土である。内部施設には主柱穴4本と周縁溝を検出した。住居内からは弥生土器と須恵器が出土している。時期は出土遺物より6世紀代と判断される。

SB2は、調査区南西のA3～4区に位置する。SP54・55と近現代坑に切られ、西側が調査区外に続いている。平面形態は遺構が調査区外に続くため特定できないが、遺存状況からは円形と考えられる。規模は長軸5.84m、短軸2.12m、壁高8cmを測る。内部施設は周縁溝を2基検出している。住居址からは弥生土器が出土した。時期は出土物より弥生時代前期～中期初頭に比定しておくが、土器片が小片のため流动的である。

小結 本調査では、弥生時代から中世の遺構を検出した。SB2は、遺存状況が悪く、出土資料も少量片であり、時期比定に絶対性を欠くが、今のところ弥生時代前期～中期初頭の住居址としておく。この時期の竪穴式住居址は平野内でも検出例が少なく、留意したい資料となった。SB1は、6世紀代の竪穴式住居址であった。同時代の住居址は南の来住台地、北の北久米淨蓮寺遺跡で検出されており、福音寺から来住一帯には6世紀代の集落が広く展開していたことを示すものである。

今回の調査によって、堀越川北部流域の遺跡状況が一部明らかになった。今後は、既存調査の成果をもとに弥生時代と古墳時代の集落構造について分析していきたい。
(高尾)

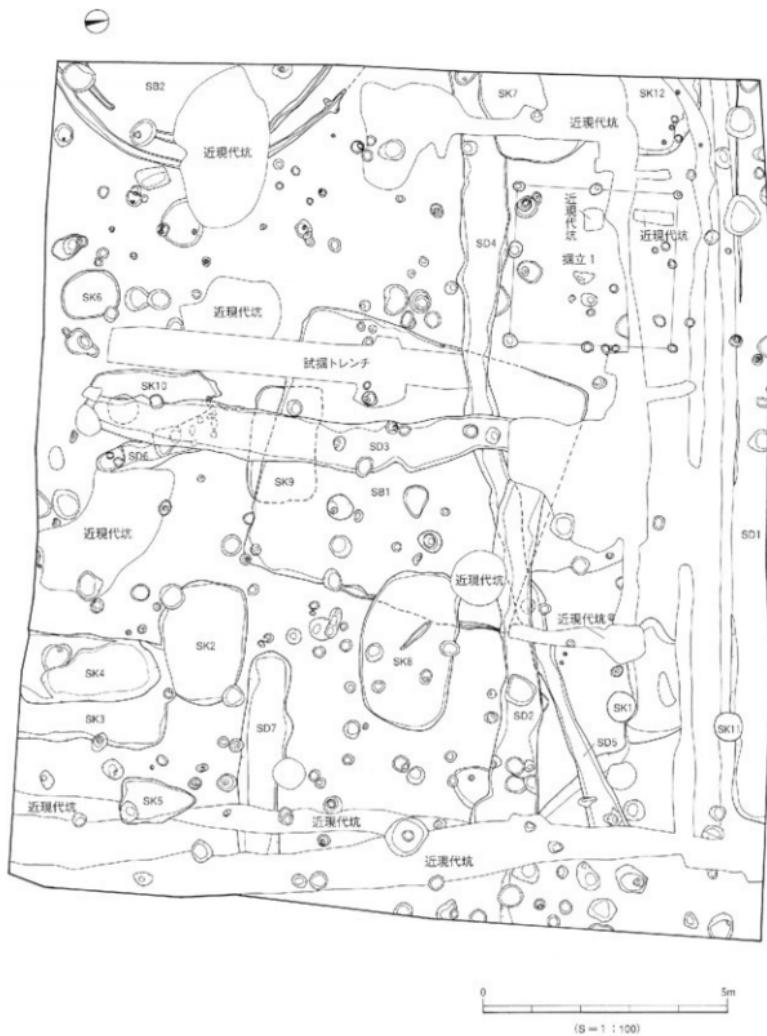


図2 造構配置図

久米才歩行遺跡 2 次調査地

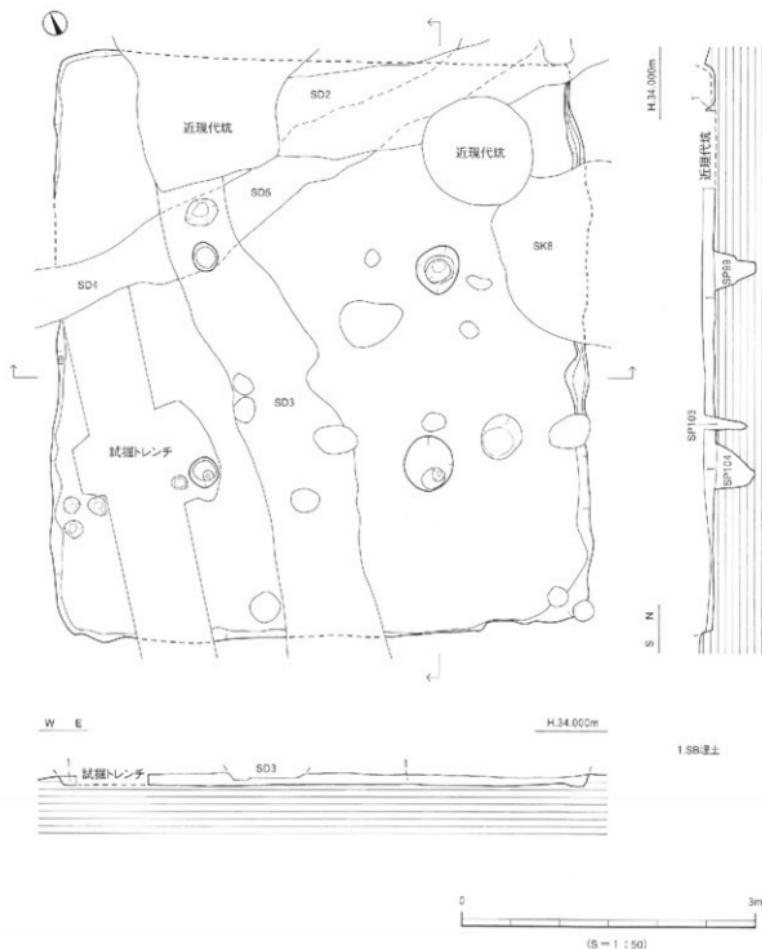


図3 SB1測量図



写真1 遺構検出状況（南より）



写真2 SK1 (奥)、SK11 (手前) 遺物出土状況 (北より)

クメカンガ 久米官衙遺跡群～平成8年度調査の成果～

国指定史跡「来住庵寺跡」に隣接する古代の官衙遺跡群における発掘調査は、のちに「回廊状遺構」と呼ばれることになる遺構の一部を確認した来住庵寺2次調査（1977年）以来、丸20年を経過した現在も断続的に進められている。この間に実施された発掘調査は、本格調査だけでも60次を越える。一連の調査の結果、方一町規模の区画溝が取り巻く「回廊状遺構」や、一辺約45m規模の柵によって囲われている7世紀後半頃の官衙施設（久米評衙の一部？）、8世紀代まで下る濠によって区画された別のさらには大規模な施設など、様々な官衙施設が狭い範囲に一部重複する形で立地する事実が明らかにされつつある。近年は、時折検出される素掘りの直線的な溝の存在が、7世紀の中葉にまで遡り得る官衙に絡むある種の地割りがおこなわれた事実を示しているのではないか、と注目されている。これらの成果は、日本の古代史を研究する上で非常に重要な知見を無数に含んでいるが、多くの場合、宅地開発に絡む結果として得られたもので、近年その傾向はますます加速しつつある。特に平成7年度末以降、開発が集中した久米高畠遺跡においては、7件、総面積6,555m²に及ぶ本格調査が行われたが、その結果、官衙の核心部分に関する重要な情報を多く得ることができた。その成果は久米官衙遺跡群における官衙の研究のみならず、日本の古代史を考える際にも重大な影響を及ぼすものと予想されるので、まず今年度の各調査の概要を個別にまとめたうえで、最後に過去における研究成果もふまえ、官衙遺跡群全体の中における今年度の成果の位置づけを行うものとする。

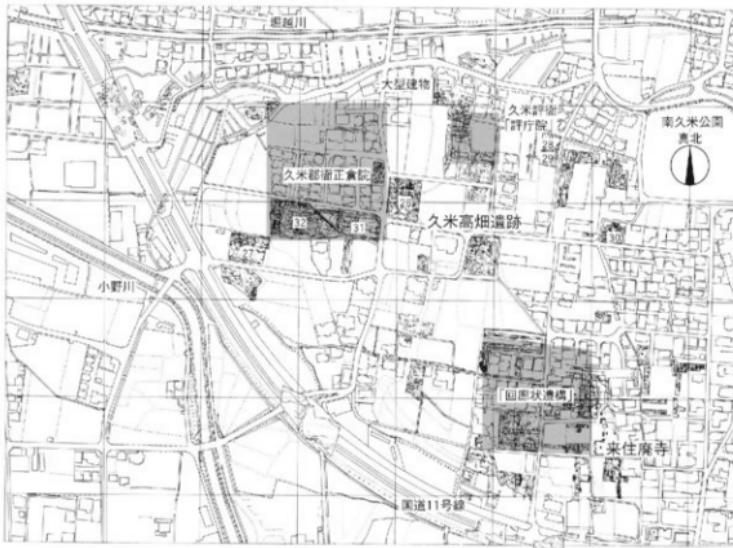


図1 平成8年度調査地位置図

(S=1:5,000)

1 官衙関連の調査動向

今年度は、家住台地南面に位置する来住庵寺の周辺においては本格調査は行われなかつたが、かわって北側に接する久米高畠遺跡では、図1に示す7ヵ所で調査が実施された。このうち東部の28~30次の各調査では、昨年度の24・25次調査と同様、主として弥生時代の環濠をともなう遺構群に関する成果が得られている。西部の4ヵ所の調査では、過去に10次・20次や12次調査などの結果から、あらかじめ複数の時期にわたる官衙遺構の存在が知られていたが、31・32次調査によって、東西125m・南北140m規模の濠で囲われた8世紀の施設の内部の様子が解明された（P72・73）。この施設は、7世紀中葉にまで遡り得る外郭施設を伴う倉庫群を前身として、その後8世紀代に濠で囲い直したうえで、さらには大規模な施設として継続使用されていることが判明した。古い時期の倉庫（正倉）群は、かつて12次調査時に検出されていた2条平行の区画溝と柵の北側に設定されており、「久米評価」の一部ではないかと想定されている別の施設や「回廊状遺構」などと一連の配置関係のもとにあった7世紀中葉以降の正倉群であると考えられる。一方、大規模な濠は、古い段階の総柱の正倉を礎石建物に建て替え、さらに新しい建物を多数増設する段階に掘られることが明らかとなった。これらの状況は、都衙を構成する正倉院と呼ぶことのできるもので、前身である古い時期の倉庫群に關しても同様の名称を与えると考へている。したがって、前身の正倉群については、7世紀の「久米評価」を構成する正倉院として位置づけ可能で、さらに8世紀以降の久米郡衙正倉院へと連続的に継続する可能性が高まつたと理解している。今回の調査地点に7世紀の正倉院とみられる施設が存在する以上、從来はその機能に關して慎重な見方がされてきた遺跡群の北側に位置する方45mの柵で囲われた同時期の施設について、今後、「久米評価」の政序そのものである可能性についても検討の対象となり得る状況に至つたと理解すべきであらう。なお、困難な状況のもとではあったが27次調査によって、濠の南西角の南端の一部を検出したことも意義深い成果であった。

さらに26次調査地の北部において検出された2棟の総柱建物や、30次調査の布掘りの掘立001についても、前述の倉庫群の調査成果を参考にすることによって、7世紀代の正倉である可能性が高いと考えている。さらに、30次調査のSD001は、官衙施設の設定に際して掘られた目印のための区画溝である可能性が高く、南に位置する「回廊」の東辺よりも東の区域にまで官衙関連の地割りが及ぶ事実が確定的になった。以上の調査成果から、広範囲に及ぶ遺跡群のエリアごとの細部構造や辺縁部における関連遺構のあり方を検討する際の重要な指針を得ることができたと評価している。

2 弥生時代に関する調査動向

久米宮衙遺跡群は、宮衙や古墳時代後期の遺跡としてだけではなく、弥生時代の大規模な遺跡でもある。遺構と遺物の密度が高い時期は、①前期末～中期初頭、②中期後半、③後期後半の3時期であるが、特に①期の占める割合が遺構・遺物全体の8割を超える傾向にある。この点と関連して、近年、①期の環濠である可能性が極めて高い複数条の大溝が検出されている（年報V・VI）。大溝を伴う集落としての全容解明には課題も多く、総合的な視点に立った調査研究が必要とされている。

個別にまとめると、北東部の28・29次調査では、3条目の大溝が確認された点が最も特筆すべき事柄であろう。また、26・27次調査において検出された多数の土坑からは、まとまった量の①期の上器が出土している。32次調査で検出された4基の土器棺墓は、当遺跡群においてはじめての墓域の確認例となるものである。後期後半の長頸壺と器台を出土した土坑（SK068）や同時期の方形竖穴式住居（SB003他）の検出も、当遺跡群における弥生時代全般の様相の解明に役立つ成果であった。（橋本）

久米高畠遺跡26次調査地（久米官衙遺跡群）

所在地 松山市来住町887-4,888-1,889-1
期間 平成8年3月21日～同年6月23日
面積 1,326m²
担当 相原浩二・小玉恵紀子



図1 調査地位置図

経過 本調査地は、松山市が指定する包蔵地「Na127米住庵寺跡」内における民間の宅地開発に伴う事前調査である。調査地は松山平野の東部、堀越川と小野川の間にある来住台地上の北端に位置する。台地上には久米高畠遺跡群や来住町遺跡群があり、弥生時代から中世にかけて多くの遺構や遺物が確認されている。調査地周辺の遺跡としては、東隣に古代の柵列と区画溝を検出している久米高畠遺跡20次調査地があり、北東約40mには久米評塚の可能性が高い同遺跡11・22次調査地があり、西約150mには弥生時代の住居址、土坑、大溝など集落に関する遺構を検出している同遺跡23～25次調査地が位置している。今回の調査では弥生時代の集落と官衙の関連遺構の確認を目的として調査を開始した。

遺構・遺物 本調査地は標高約37mに立地している。遺物包含層は後世の削平により失われており、遺構確認面は造山であった。検出した遺構は堅穴式住居址5棟、掘立柱建物址10棟、土坑102基、溝11条、柱穴約1,300基である。

〔縄文時代〕 土坑（SK21）が1基確認している。遺物は深鉢や浅鉢、台石が出土した。出土遺物から時期は縄文時代晚期である。

〔弥生時代〕 平面形が円形と長方形の2種類の土坑を検出している。これらの土坑は数基が切り合っていた。殆どの土坑は検出面からの深さ約10～15cm、埋土は1層、壁体は垂直、床面は平坦である。出土遺物はごく少量のものが多い。円形のSK138からは壺形土器や壺形土器が握り拳大の石と併に大量に出土した。時期は弥生時代前期末～中期初頭である（図3）。

〔古墳～古代〕 堅穴式住居址が5棟検出している。すべてが調査区疎での検出であったため、全容を知れるものは1棟もない。平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。窓は検出されなかつた。遺物は須恵器の壺身などを出土した。時期は古墳時代後期である。他には、掘立柱建物址を調査地北側で10棟検出している。いずれも東西棟であり、掘立1・掘立2は縦柱建物であった。これらの柱穴からの出土物は殆どなく、僅かに須恵器片が出土しているが時期比定は困難である。

〔中世〕 掘立柱建物址が1棟と柱穴（SP1296）を検出した。柱穴からは土師皿や高杯などの土師器や瓦器と長さ約10cmの棒状河原石と人頭大の焼石などが交互に埋まって検出している。時期は鎌倉時代である。

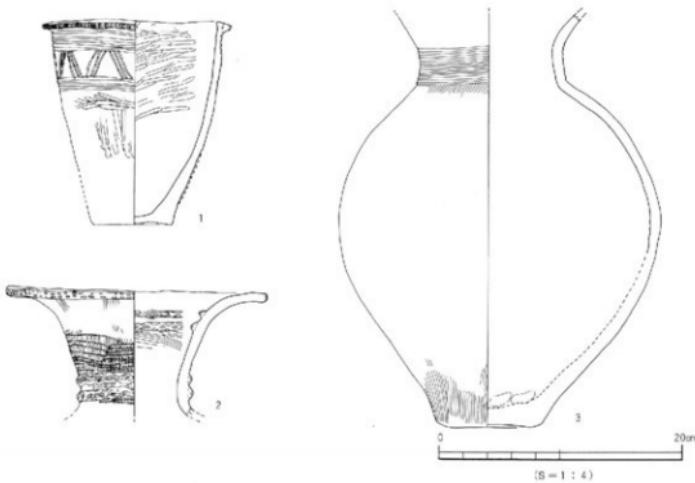
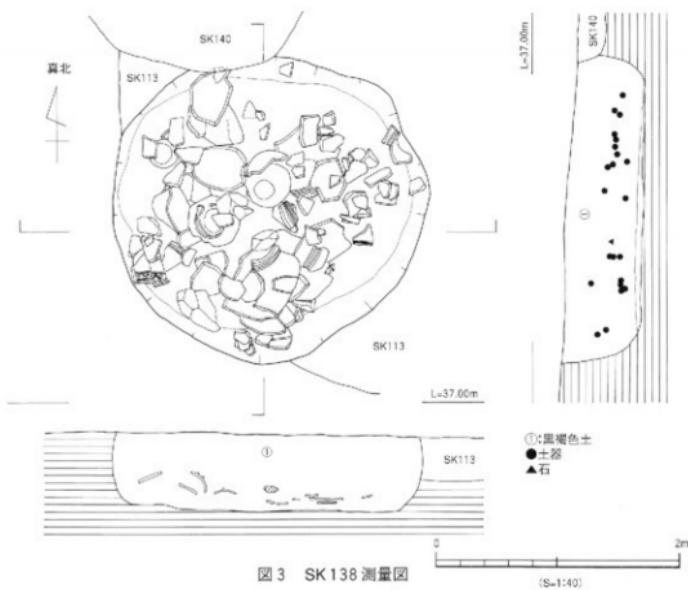
小結 今回の調査では、縄文時代から中世までにわたる広範囲の遺構と遺物を確認した。弥生時代の土坑群は隣接する23～25・27次調査と共通し、掘立柱建物群は時期は明確に比定できないが、遺構の配置などからは官衙間遺構との関係を考えるうえで重要な資料である。各時期も隣接する調査地との関連から来住台地上の北端地域の様相を解明することが今後の課題である。

（小玉）

久米高畠遺跡26次調査地



図2 遺構配置図



- 42 -



写真1 1区遺構検出状況（南より）

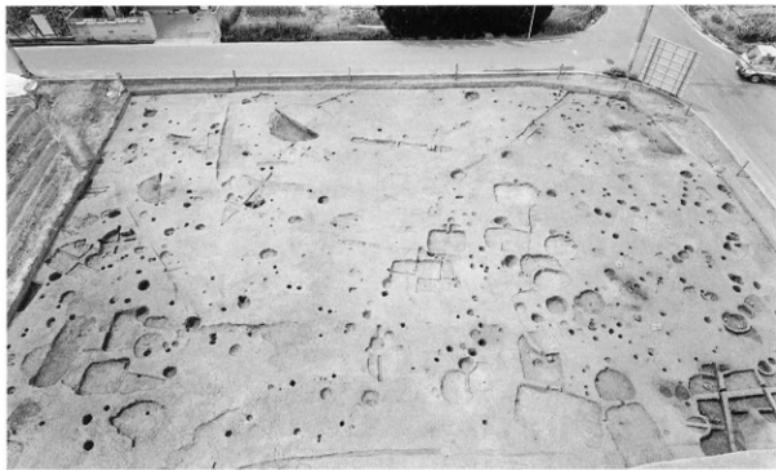


写真2 2区遺構完掘状況（北より）

久米高畑遺跡27次調査地（久米官衙遺跡群）

所在地 松山市来住町1145番地
期間 平成8年4月1日～同年6月28日
面積 1,335m²
担当 宮内慎一・相原秀仁



図1 調査地位置図

経過 本調査地は、松山市来住町1145番地における宅地開発工事に伴う事前調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財保蔵地「No126高畑遺物包含地」に隣接する。調査地に南接する久米高畑遺跡5次調査地からは弥生時代前期後半の土坑と古墳時代前期の堅穴式住居址や古代の掘立柱建物址が確認されている。また、調査地の北方約1.2km離れた地点に位置する久米高畑遺跡10次調査地からは来住台地の北西部を占める区画溝の北西コーナー部分が検出されている。調査は当地の弥生時代から古代までの集落構造解明及び、来住台地の北西部を占める区画溝の南西コーナー部の確認を主目的として実施した。

遺構・遺物 調査地は松山平野の東部、来住台地の南西端に位置する。調査以前は水田であった。地形は北東から南西に向かって緩傾斜をなし、標高は35.1m～35.4mである。基本層位は第I層耕作土、第II層旧耕作土、第III層褐色土、第IV層黒褐色土、第V層暗褐色土、第VI層黄色土である。第IV層は古墳時代の土師器、須恵器、第V層は弥生土器を包含する。遺構はすべて第VI層上面で検出した。弥生時代から古代迄のもので、堅穴式住居址5棟、掘立柱建物址4棟、溝5条、土坑64基、柱穴468基、倒木痕12基である。

弥生時代の遺構は堅穴式住居址2棟（S B 1・3：後期後半）、溝1条（S D 4：後期後半）、土坑33基（前期28基、中期4基、後期1基）である。特に、前期の土坑には平面形が円形と長方形の2種類があり、軸体はほぼ垂直に立ち上がる。唯一、S K 46は軸体が袋状を呈する。

古墳時代の遺構は堅穴式住居址2棟（S B 4・5：後期後半）、掘立柱建物址4棟（後期後半）、溝2条（後期）、土坑2基（後期後半）である。掘立柱建物址は規模が3×3間と3×4間の2種類があり、掘立2・3は磁北、掘立1・4は真北に等しい方位をとる。

古代の遺構は溝2条（S D 3・6：8世紀）である。S D 6は調査地北東隅で検出した溝で、溝内から8世紀代の土師器、須恵器が出土した。埴土や出土遺物、検出状況などから10次調査検出の区画溝の南西コーナー部分と判断される。

小結 今回の調査において、弥生時代から古代の遺構・遺物を確認することができた。堅穴式住居址や掘立柱建物址などの集落構造遺構が多数検出されたことから、弥生時代から古代にかけて当地や周辺地域に継続的に集落が営まれていたものと考えられる。弥生時代では来住台地で検出例の多い前期の土坑が本調査地においても多数検出された。これは土坑の性格や広がりを知るうえで好資料となるものである。また、区画溝の一部を検出したことは、溝の規模や形状を考えるうえで貴重な資料となるものである。

（相原秀）

久米高畠遺跡27次調査地



図2 調査地測量図 ($S = 1 : 1,000$)

久米高畠造跡27次調査地

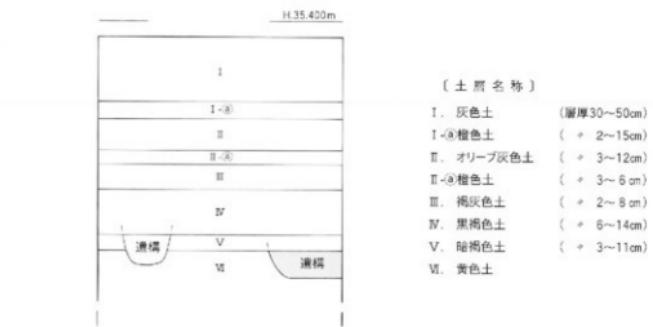


図3 土層模式図

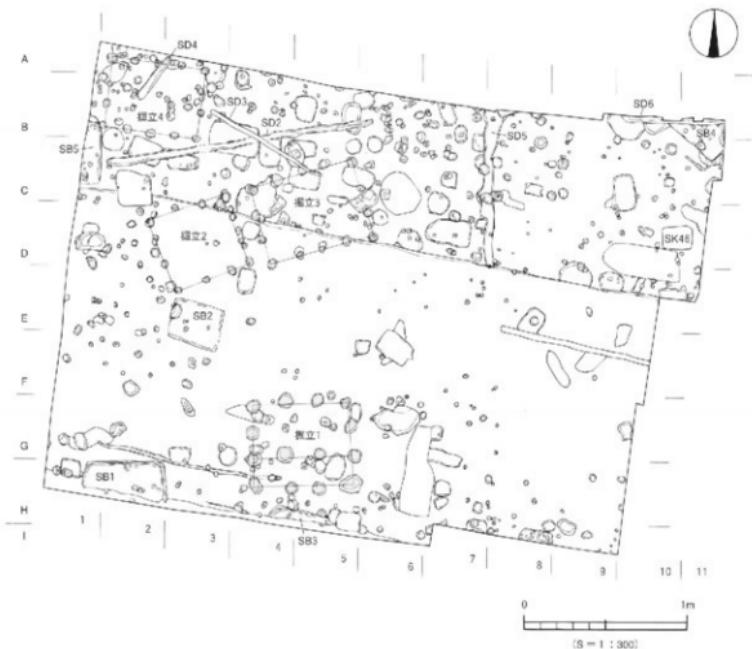


図4 造構配置図

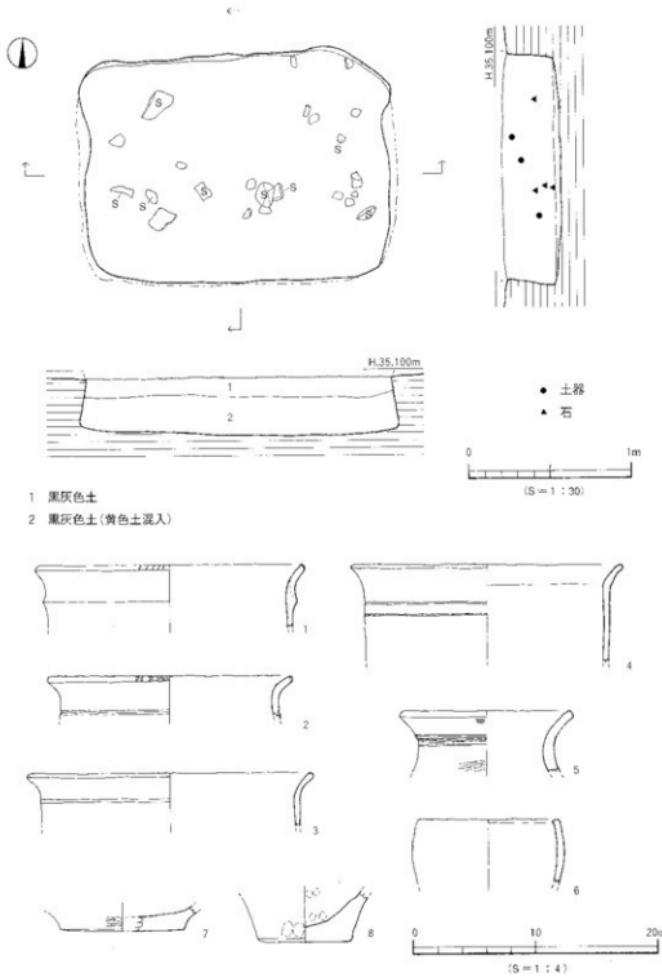


図5 SK46測量図・出土遺物実測図

久米高畠遺跡27次調査地



写真1 遺構完掘状況（東より）



写真2 遺構完掘状況（西より）



写真3 SD 6 完掘状況（南西より）



写真4 SK46遺物出土状況（南より）

久米高畠遺跡28次・29次調査地（久米官衙遺跡群）

所在地 松山市来住町874、873-2 (28次)
松山市来住町873-1 (29次)

期間 平成8年4月15日～同年6月28日

面積 440m² (28次) 123m² (29次)

担当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 本調査は宅地開発に先立ち国庫補助事業として調査を行った。調査地は、松山市指定の埋蔵文化財包蔵地「No127来住庵寺跡」内に位置し官衙関連遺跡群に属する。南方には指定史跡の来住庵寺跡及び方一町規模の二重の構列である「回廊状造構」また東には来住町遺跡群が所在する。また、弥生時代の大溝の他、集落に関連する遺構が多数検出された久米高畠23次・25次調査地は東に近接する。よって当該地における埋蔵文化財の有無、遺跡の範囲、その性格を確認する目的で調査を開始した。

本調査は、両調査地が隣接し小規模である為、調査工程の効率化と多くの成果を得る為にそれぞれ異なる申請者であるが、遺跡名称を久米高畠28次・29次として両地の調査は同時に進めることとした。

遺構・遺物 本調査地は標高37.4m～38.0mに立地し、調査区は南から北にかけ低く、緩傾斜する。基本層序は、第I層耕作土、第II-1層に亘る褐色土、第II-2、3は暗褐色土、第III層橙色土と灰褐色土がブロック状に混じる。第IV層黃色土（地山）である。遺構は第II層または第III層直下の地山面で検出した。検出された遺構は、弥生時代前中期から古墳時代後半までのもので、掘立柱建物址の一部を2棟、土坑11基、柱穴97基、溝6条、倒木跡2基、性格不明遺構2基等を検出した。

S K003, 4, 5は同規模のほぼ方形を呈する土坑で、出土遺物には弥生時代中期前半の遺物が出土している。S K005からは土器片のはかに磨製石斧が出土している。

S D004はS D005と接し、新旧関係の確認に努めたが判然とせず不明である。溝の規模は幅約70～80cmであり、溝幅は比較的一定で溝の軸方向は真北からやや東（約2～3度）に振る。時期はその柱穴の形状や建物の方位から7世紀後半と考えられる。S D006の規模は、幅2m～3m、深さ約60cm前後を測る。断面形状は逆台形状で床面は平坦で、南部から北部へ低く緩やかに傾斜している。溝の南北間の標高差は約40cmを測る。また、S D006内の埋土中には砂粒などの砂質土の堆積は見られなかった。出土遺物は弥生時代の壺、甕などの土器片のはか石庖丁、磨製石斧、土器片等の石製品等も出土している。遺構の時期は出土遺物から弥生時代前中期から中期初頭に比定される。また、S D006上層では、拳大から人頭大の角礫を配した石列遺構を検出している。石列は溝に対し直行するよう設置され、石列内からは弥生土器の底部が出土している。石列の性格は検討を要するが、溝に対し何らかの意味合いを持つ施設と考えられる。

掘立001の柱穴平面形は円形で、建物の軸線は約8度前後東に振り、やや大型の建物と考えられる。掘立002は柱穴が円形プランを呈するやや小型の建物で、軸線はほぼ真北を向く。その他の柱穴は調査区外にあり規模は不明であるが、恐らくは7世紀前半に見られる南北2間の東西棟の建造物と考えられる。

久米高塚28次・29次調査地

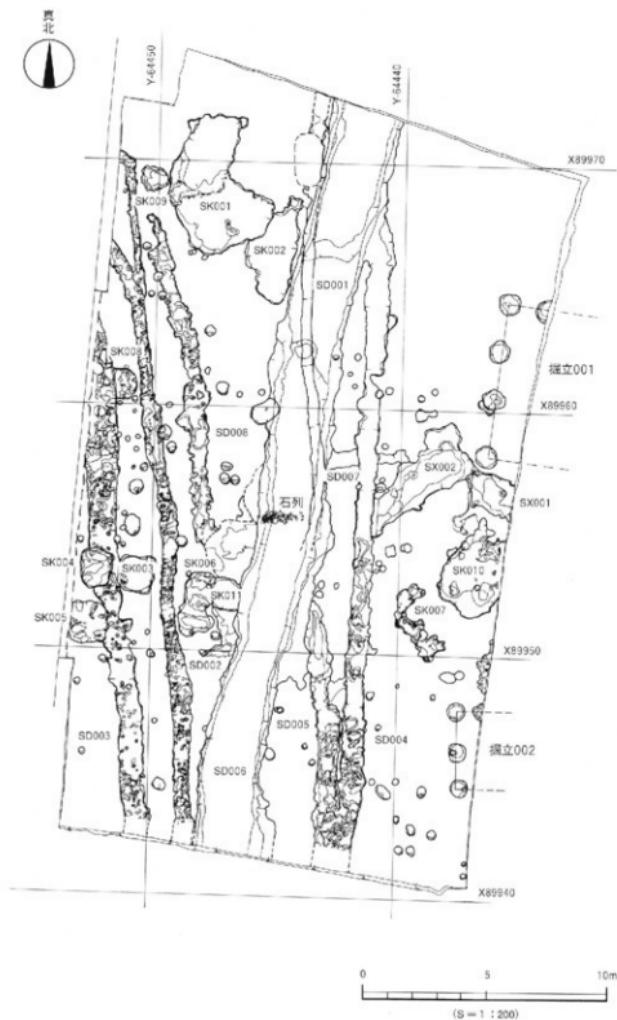


図2 遺構配置図

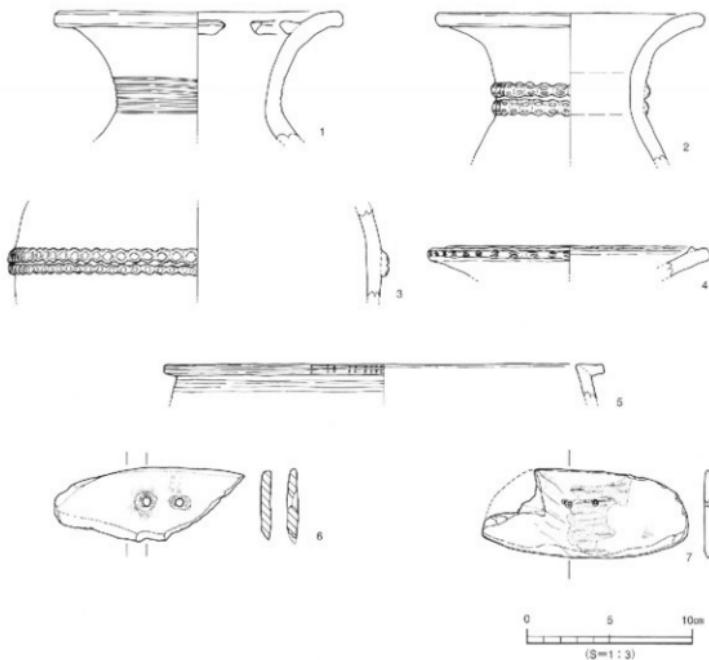


図3 SD006出土遺物実測図

小結 弥生時代の大溝であるSD006は、その規模や位置関係から久米高畠23・25次調査で検出された大溝と同様な施設と考えられる。本調査での大溝内の埋土からは砂層等の水流を示す状況ではなく、濠としての性格も考えられる。また、時期的にも他の大溝から出土する遺物の時期と余り大差ない。これら3条の大溝の存続期については、台地上に經營される集落構造という視点から、溝の内外領域の問題と遺構の量・質とともに検討される必要がある。その他、久米高畠26次調査地に於いても類似した方形の土坑が検出されており、その広がりが注目される。当該期において来往台地上で弥生時代の大規模な集落が經營されていた可能性は大きく、3条の大溝SD006や長方形土坑に比べやや新しい方形土坑などの検出はそれを補う重要な資料である。以上のように、本調査に於いて弥生時代前期末から中期前半の頃の遺構と遺物に関する資料を多く得る事が出来た。

SD004の直線的な溝はその方向性が周辺の調査地で検出された官衙関連遺構とともにう溝や柵とも対応する。また掘立柱2号は、ほぼ真北の方位を取る梁間2間の東西棟と考えられる。これらの事からもSD004と掘立柱は官衙成立期前後のものである可能性が高い。

今後、周辺の調査においては広範囲な展開を見せる弥生時代集落、及び大規模な古代官衙遺跡群の解明に向けて引き続き総合的な視野に立った調査・検討が必要である。
(小笠原)



写真1 完掘状況（南より）



写真2 SD006 完掘状況（北より）

久米高畠遺跡30次調査地（久米官衙遺跡群）

所在地 松山市南久米町694-1
期間 平成8年7月3日～同年9月30日
面積 約520m²
担当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 この調査は、個人住宅の建設に先立って、国庫補助事業として実施されたものである。調査地点は、平成6年度の同23次、7年度の24・25次、今年度の28・29次調査に至る5次に渡る本格調査が行われた区域に近接している（図2）。これらの調査の結果、弥生時代の3条の大溝の一部や、貯蔵施設である可能性も考えられる多数の土坑などが確認されており、弥生時代の大規模な遺跡群としての実体も徐々に明らかに成りつつある。また、南西約150mには、7世紀後半の官衙施設である「回廊状遺構」が位置しており、久米官衙遺跡群の中におけるこの区域のあり方を知ることも調査の際の視点の一つとして重要視してきた。ただし、これまでのところ、関連する有力な施設の確認は成されていないので、当該遺構の密度は比較的低い区域であると理解してきた。

遺構・遺物 弥生時代の遺構に関しては、当調査地の北約50mに位置する同24次調査地（年報Ⅲ）においてまとめられた傾向と一致する結果が得られた。貯蔵施設である可能性を想定している前期末から中期の初頭ころの長方形の土坑は、調査区の中央から東半分を中心にななくとも10基を上回り、同時期の円形の土坑も數基確認されている。調査地点が、環濠である可能性が高い3条の大溝の東側に位置することから、今後、大溝との時間的、空間的な関係を解明していく必要がある。

古墳時代に関しては、当該区域としては非常に濃厚な遺構の分布状況が確認された。堅穴式住居址5棟の他、10棟近い掘立柱建物址が認定可能である。堅穴式住居址のうち、S B 001・002・004の3棟にはカマドが造り付けられていたことが判っている。遺物は少量しか出土していないが、これまでの調査例を参考にすると、6世紀後半から7世紀前半の間におさまる建物である可能性が高い。掘立柱建物址のうち、堅穴式住居址と重複しているものに関しては、例外無く後出する時期のものである。この状況は、近隣の遺跡における傾向とも完全に一致している（年報Ⅲ・米住町7次）。一般集落の掘立柱建物への転換の時期は、6世紀末以降、7世紀の中ごろまでの間に一齊に行われた可能性が一番高まったと判断している。なお、掘立009については、その形状から弥生時代に属する可能性が高い。

積極的に官衙関連施設であるとの評価付けが可能な遺構もいくつか検出されている。

調査地南壁沿いに位置する東西方向の浅い溝 S D001は、昨年度の米住町7次調査の際に注意された工具痕跡が遺存する幅の狭い直線的な形状の溝の特徴と完全に一致するものである（年報Ⅲ・P81）。この溝は、今年度に調査が行われた31・32次調査地の北部を東西に貫く2条平行の溝のうち、北側の溝の東延長線上に位置していることから、官衙施設を配置する際の地割りのための区画溝である可能性が高いものと考えている。この点については、後で官衙遺跡群全体の概要を説明する際にもう一度

久米高畑遺跡30次調査地



図2 調査位置図 (S = 1 : 2,000)

久米高畠遺跡30次調査地

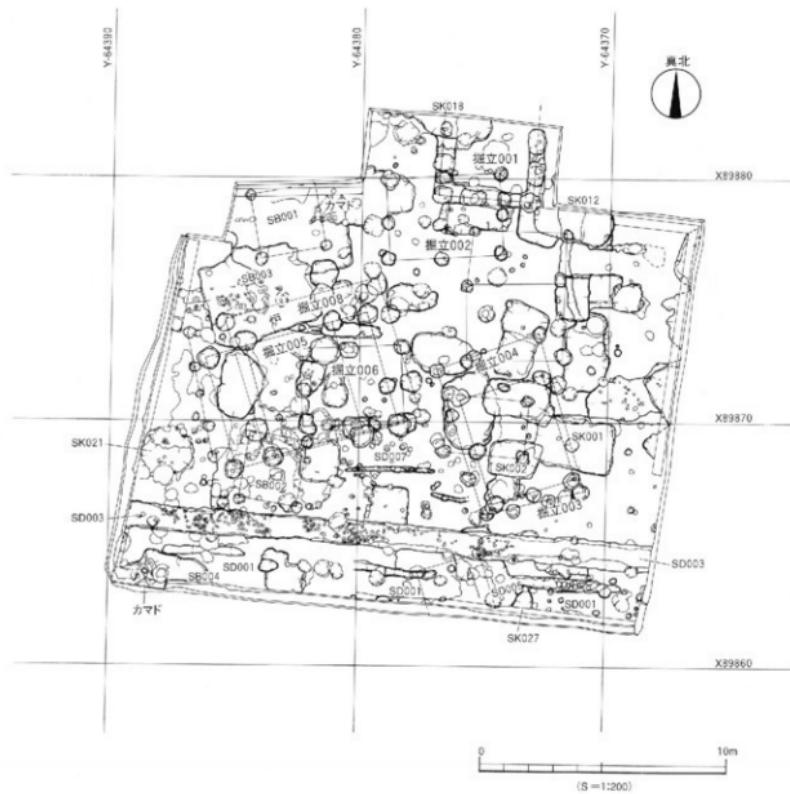


図3 遺構配図

久米高畠遺跡30次調査地

触れる。SD001と時期的に重複する可能性が高い建物としては、まず、布掘りの掘立柱建物址：掘立001が挙げられる。東西3間、南北は一部が調査地外であることからはつきりしないが、おそらく3ないし5間程度の規模であろうと考えられる。東辺の一部について、布掘りが途切れている状況が確認されているが、この建物の形状が想定通りの南北棟であるとすると、正倉院の存在を確認した32次調査において検出された布掘りの掘立009などと同様に、柱としての形状を呈するものの、官衙関連の倉庫として使用されていた可能性も否定できない。時期判定の決め手になる遺物は出土していないが、堅穴式住居よりも後出する掘立002を切っていることや埋土の性質などから、7世紀の中葉以降を上限とするものと考えられる。建物の真北からの方向角はN-4°30' - Eで、「回廊状遺構」をはじめとする官衙施設と完全に一致している。方形の柱穴が掘られていることも、この時期の関連遺構の特徴と共通している。この他、柱筋の方位が共通し、東西棟の形態をとる掘立006なども、SD001・掘立001などとはほぼ同時期の建物であった可能性もある。以上、数は少ないものの、官衙関連の遺構群の全体像を把握する上で極めて重要なデータを得ることができたと言える。当該地区における官衙遺構の密度は必ずしも高いとは言えないが、今後、注意を払っていく必要がある。(橋本)

関連文献：橋本雄一・相原秀仁：1995「久米高畠遺跡23次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』Ⅶ
平成6年度 松山市教育委員会・鰐松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
橋本雄一・小笠原善治：1996「久米高畠遺跡24次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』
Ⅷ 平成7年度 松山市教育委員会・鰐松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

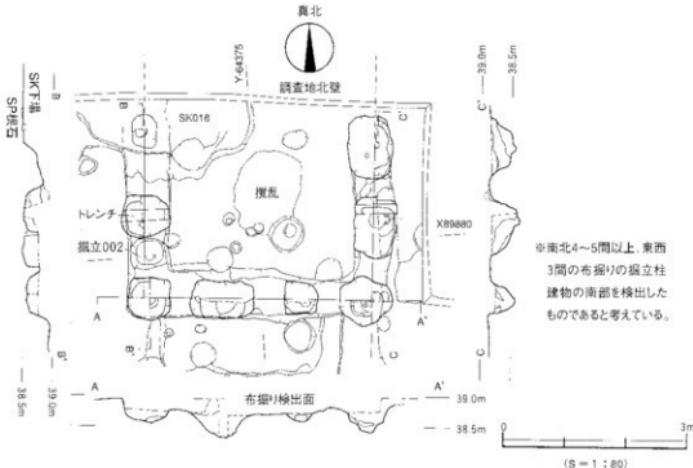


図4 掘立001

久米高畠造跡30次調査地



写真1 調査地全景（西より）



写真2 弥生時代土坑群検出状況（北西より）



写真3 挖立001半截状況（南より）



写真4 カマド遺物検出状況（南より）

久米高畠遺跡31次調査地（久米官衙遺跡群）

調査地 松山市南久米町766-1、767-1
期間 平成8年8月6日～10月31日
面積 963m²
担当 粟田茂敏・大森一成



図1 調査地位置図

経過 今回の調査は、民間の宅地開発に伴い実施されたものである。その位置は、米住庵寺や、その西側に切りあって存在する「回廊状遺構」から北西に250m付近の地点にあたり、また一辺45mの楕円に囲われた掘立柱建物群が建ち並び、久米評衡施設の一部の可能性を指摘されている区画の南西約100mのあたりに相当する。この地点は、同年4月に実施された27次調査や既往の10・20次調査などの成果から、かねてより南北140m、東西125mの大規模な濠に囲われた官衙関連の区画内にあって、とりわけその区画の南東コーナー近くにあたることが確実視されていた部分にあたる。また、西に隣接する地点は平成元年に12次調査として調査が行われている。この部分では東西方向の柵列やこれに平行に走る溝、あるいは掘立柱建物の一部などが検出され、現在住宅が密集し、発掘調査の機会がきわめて制限されているこの大規模な区画内において唯一その内部施設が認知されていた部分である。調査の主な目的は、上述の区画濠の南辺あるいは南東コーナーを確認すること、また12次調査の遺構群とのかかわりをあきらかにし、同時期に一部併行して実施された32次調査（12次調査西隣接地）の成果ともあわせて、区画南端部周辺の様相を把握することにあった。

遺構・遺物 対象地全面を調査するため、調査は東西の2区に分割し、まず東部を排土置き場にして西部調査区を可能な限り広範囲に調査を行い、その後残りの東部を調査するという方法をとった。

検出された遺構の主なものは、掘立柱建物址4棟、柵列1条、溝、土坑等であるが、掘立柱建物址のうち1棟（掘立4）は中世以降のものである。調査区西部で検出された掘立1は、本調査中最大のもので、西隣接の12次調査でその一部が検出されていたSB1と同一のものである。2×6間の東西棟で、柱筋をほぼ正方位にとる。桁行總長17.6m、梁行總長6.8m、床面積120m²となる。柱穴は隅丸方形に近いプランをなし、柱抜き取り痕があり、この抜き取り穴には白色粘土が入れられている。柱筋や、柱穴プラン・抜き取り痕の状況は、32次調査で調査されたやはり大規模な東西棟の掘立柱建物掘立002と同様の特徴を示している。

調査区の北部には、約3mの間隔を置いて平行に東西方向に走る溝が2条検出されている。北の溝をSD1、南のものをSD2としているが、その規模、掘り方、埴土、さらに溝が廃絶した段階での整地土との関係から同時期併存の溝である。この溝についても12次調査を経て西方の32次調査地まで続くことが確認されており、その方向は正方位東西から5°程度振っている。この溝については調査区北東隅付近において、北のSD1は北へ方向を変え、また対応するSD2が南へ屈曲することがわかった。掘立1はこの溝のうちSD2を切り、これらの溝を覆う整地土を切り込んで設けられた建物である。また、この掘立1の南約8mの位置で検出された、方位を同じくする5間分の柵列は、掘立

久米高煙道跡31次調査地

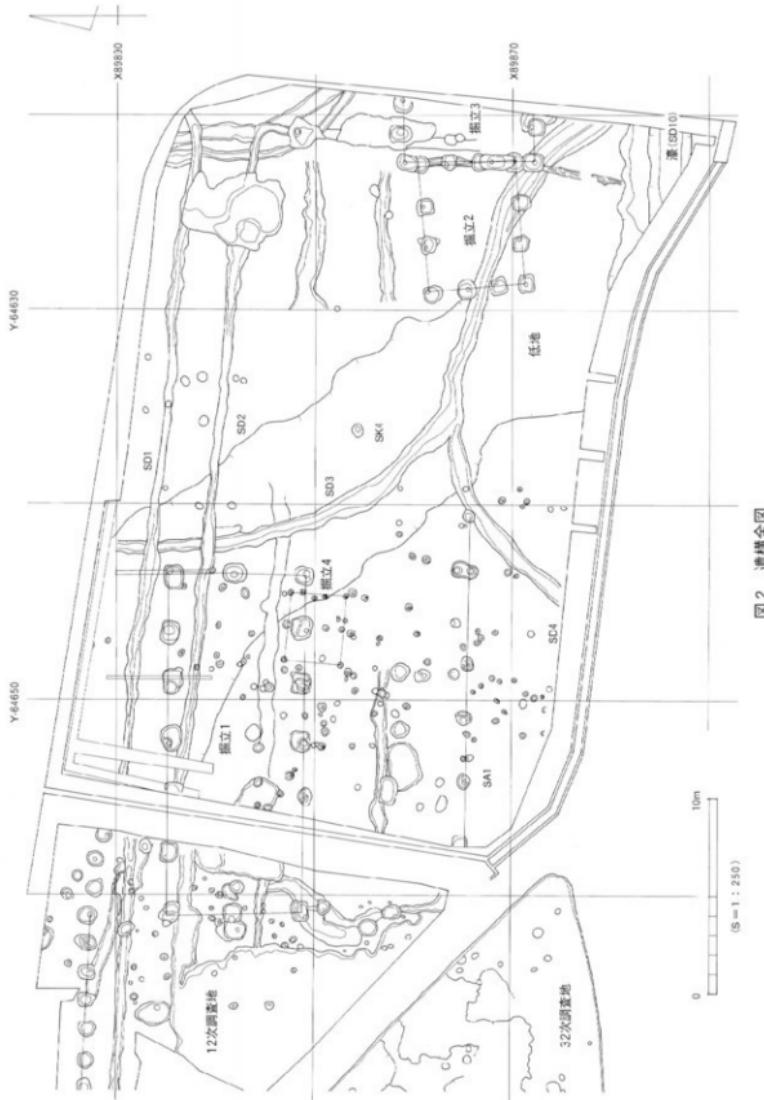


図2 遺構全図

1に伴う日隠し塀のような施設と推定している。なお、前述の32次調査掘立002にも同様の構列が伴っており、同時期に併存した区画内でも特別な施設と考えられる。

そのほか、調査区南東部では所期の目的どおりに濠を検出することができた。幅は3m前後、北側のみ幅1mのテラス状の平坦面があるが、このテラスには柱穴などの特別な施設を持たない。濠の断面形は逆台形状、中・上層埋土中には10世紀前半代の土師器を含んでおり、これに近い時期に廃絶したものと推定される。調査区東部で切りあって2棟の掘立柱建物址が検出されているが、東方の掘立3が掘立柱2を切っている。掘立2は3×3間の東西棟、掘立3は3×2+α間の建物である。いず

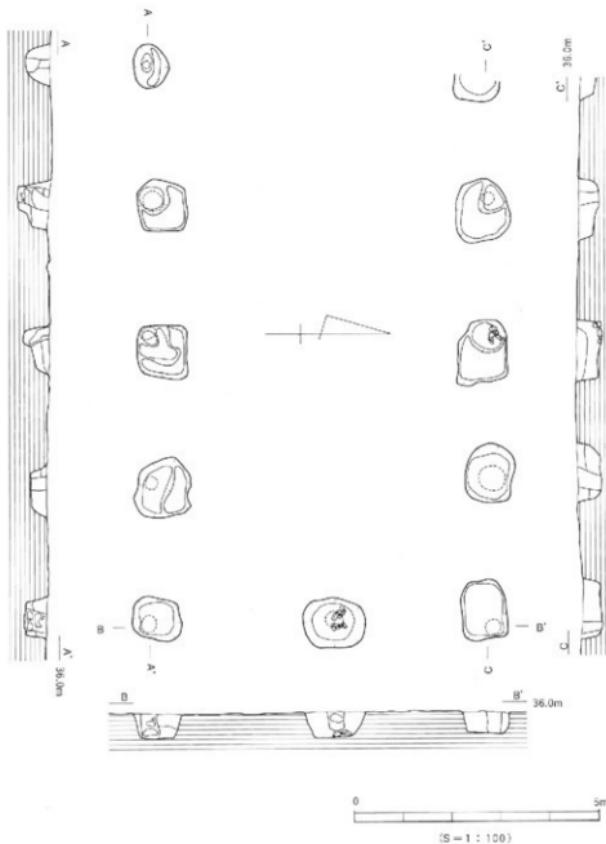


図3 掘立1測量図

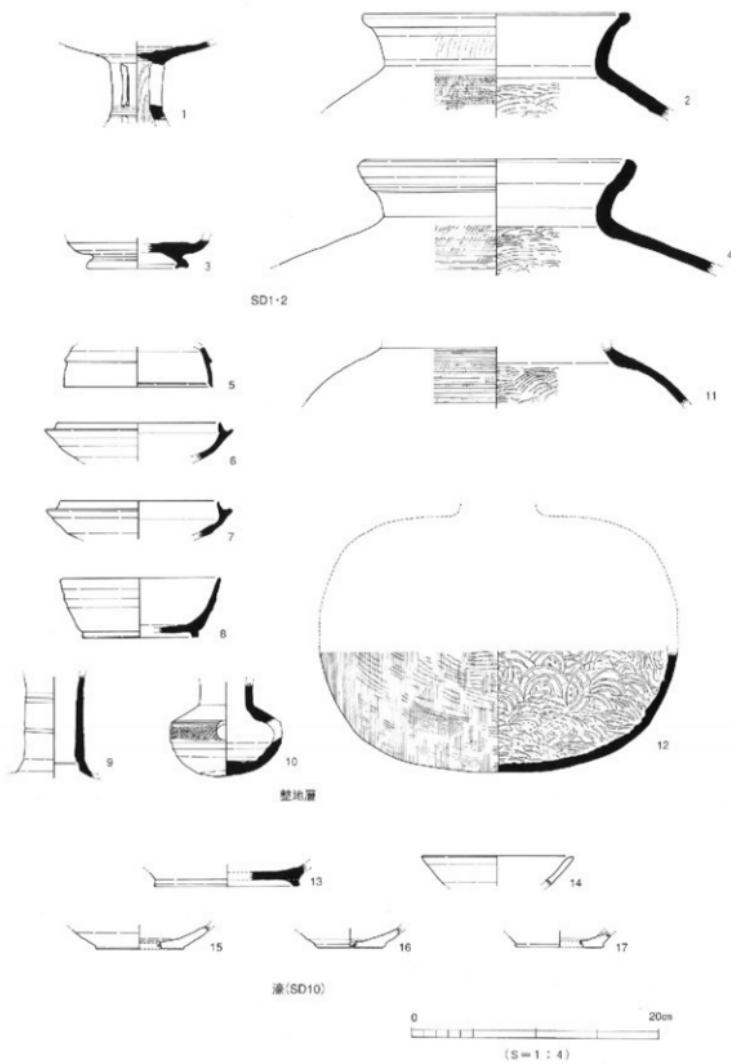


図4 出土遺物実測図

れも方形掘り方の柱穴を持ち、方位も先述の溝や掘立1とは異なっており、切りあってはいるものの近い時期の建物であろう。これらの建物の柱穴からは、濠中・上層の土師器と同様の遺物を含み、濠廃絶後の建物と判断している。

本調査地と現況道路を隔てて北東に隣接する26次調査地では、弥生時代前中期～中期初頭の土坑群が、また西の32次調査地において

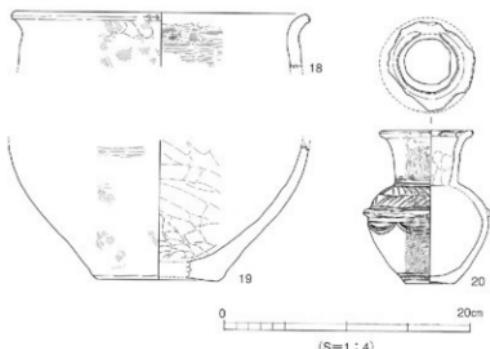


図5 SK4出土弥生土器実測図

も後期を主体とする弥生時代の遺構群が検出されているにもかかわらず、本調査地は弥生時代の遺構の希薄な部分である。このことは、調査地中央部を南東から北西方向に貫く低地の存在に由来するものであろう。該期の遺構は、この低地部分で前期後半の土坑が1基検出されたのみであった。前述の古代の遺構群はこの低地の埋没後の平坦面に設けられたもので、このうちでもより時期の下る掘立柱建物等はこの面に客上整地をした上で設けられたものである。

小結 調査された古代の遺構のうち最も濃いものは、調査区南部や低地部分に弧を描きながら走る溝、SD3やSD4である。調査区北部の2条平行の溝SD1・2はSD3を切っており、SD3・4に後続するものではあるが、さほどの時期差はないものと考えられる。SD1・2の掘削された時期の詳細は不明だが、これらの溝を覆う整地土中の最も下る遺物は8世紀代の須恵器であり、回廊状遺構を含めた近隣の調査事例を総合すると、7世紀の前半から7世紀代を通じて機能していたものと考えられる。SD1は調査区北東隅部で北へ、またSD2は南へ屈曲することが確認されており、この部分を南東コーナーとして北西区域を区画する溝がSD1であり、北東コーナーとして南西区域を区画する溝がSD2と判断される。この区画域は、これも周辺部の調査成果を総合すると、方一町(109m程度)規模を限るものであり、SD1に区画された区域南面とSD2に区画された区域北面との間に幅3mの余剰帯が存在することとなる。この余剰帯は結果として道路として機能していたものと考えられるが、調査では道路としての硬化面等を認定することはできなかった。また、西隣接の12次調査地では、このSD1の北側に横列が検出され、溝と一体となった区画施設として認識されていたが、横列は本調査地までは延びないことが確認された。つまり、この横列は区画溝SD1によって区画された域内の内部施設の一部であることになった。

次の段階、8世紀代になると、調査区南東隅で検出されている濠SD10が掘削され、濠で区画された内部に大型建物掘立1やその南面の柵が設置される。これら濠の内側の施設は前段階の区画施設面を客上整地した面に設けられている。濠によって区画された区域は、既往の数次の調査や32次調査の成果とあわせて、南北140m、東西125mの規模になることがほぼ確定している。この段階の施設は、32次調査で多数検出されており、ほぼ正方位に柱筋を揃えた倉庫群と判断され、「久米郡衙正倉院」

との評価を与えることが可能で、今次の調査中でも最も注目される成果のひとつとなった。

調査地東端付近で、方形柱穴を持つ掘立柱建物址が2棟検出されているが、この2棟は7世紀代の溝や、「郡衛正倉院」の各施設とも方位を違えた建物である。これらの建物の柱穴内からは、濠の上層埋土と同様の10世紀前半代の土師器が出土している。また、濠は調査地南東端直近で北へ屈曲し、東面を南北に走る現況道路下に存在するものと考えられる。掘立3はこの現況道路下にまで達する建物であり、出土遺物やその位置関係から考えると、10世紀前半代に濠が廃絶してから後の建物と考えるのが妥当であろう。

(栗田)



写真1 調査地西半の遺構（東より・遠景は32次調査地）

久米高畠遺跡32次調査地（久米官衙遺跡群）

所在地 松山市南久米町790番・来住町1152番1
期間 平成8年10月1日～9年1月31日
面積 約1848m²
担当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 この調査は、民間の宅地開発に伴って実施されたものである。調査地は、久米官衙遺跡群を構成する施設のひとつである「回廊状遺構」から北西に約300m、「久米評衡」の一部であると想定されている箇所の南西約200m地点に位置している。隣接地においては、同10次調査をはじめとする調査成果から、東西約125m・南北約140mの規模の濠によって囲われた別の官衙施設の存在が確実視されており、調査地はその区域の内部に位置することから、昨年度末以降、相次いで実施された各調査とあわせて、この施設の構造に関する基本的な情報を得ることができるものと期待された。また、本調査地の北東に接する12次調査地においては、これとは別に、柵と2条の直線的な区画溝が東西方向に続く状況が確認されており、かねてより古代の官衙に伴う道路の存在を指摘する向きもあった。このようないきさつから、当該箇所には時期や性質の異なる複数の官衙施設が重複して立地している可能性が想定されてきた。

遺構・遺物 土器棺墓群の検出に代表される弥生時代に関する多くの成果の他、古墳時代後期の集落の変遷を考える上でも重要な所見を得ているが、官衙関連の成果が極めて重要であると判断されるので、ここでは、大きく新旧2段階に区分される官衙関連遺構の変遷過程に絞って概説する。

官衙出現以前の集落は、6世紀後半以降の竪穴式住居の段階から、7世紀前半頃と推定される掘立柱建物の段階へと変遷する。この傾向は、同30次調査においても認められた状況と共通している。官衙出現以降については、31次調査における成果もふまえて、以下の6段階の変遷を想定している（図5）。

Ⅰ期：約3m弱の距離を隔てて平行の位置関係にある2条の区画溝と、1条の柵（S A006）、柵のさらに北側に3棟の掘立柱建物が配置された段階である。この場合の柵は、12次調査の際には確認されていないもので、年報Ⅲで報告された柵とは別のものである。調査区西部における柵の存在の確認がとれていないが、東端から15間・約33.8m、柵の1間あたりの平均値2.25mの値を得ている。一方、柵とほぼ平行の位置関係にある2条の溝のうち、南側のS D002は東の31次調査地の北東部において直角に屈曲して南に向かうことが明らかになっている（P61）。また、S D001についても東へは続かず、北へ折れる可能性が高い。これらの溝については、「回廊状遺構」やその周辺において想定されている方一町規模の土地区画と同様の性質のものである可能性が高いものと考えている。したがって北側のS D001は、北に位置する区画の南辺を画するもので、柵はこの空間の中に配置された重要建物群の南側を閉塞するための施設であると考えられる。ただし、柵の西部における存在の確認はそれ

久米高畠遺跡32次調査地



図2 遺構配置図

ていないことに加えて、調査地外の東方における状況も未確認であることから、柵が取り巻く形で方形区画を形成するものであるのか否か、不明である。現状では2条の区画溝に面した南面のみに柵が設けられていた可能性が高いものと考えている。

3棟の掘立柱建物址のうち、中央の掘立017は東西3間の大型純柱建物で、身舎の柱がより深く掘られている。柱穴の形は円形で、柱の抜き取り跡が確認されている。おそらく、高床の倉庫であろう。南北方向の規模は、建物の大半の部分が道路の下に位置することから不明であるが、4間程度ではないかと想定している。東の掘立020は、建て直された掘立001によって柱穴の大半が削られているが、東西4間の側柱建物であると推定している。おそらく東西棟であろう。西に位置する掘立021も掘立011に切られているので正確な形状はわからないが、東西3間の側柱建物で、南北棟である可能性が高い。掘立020と同様に、この掘立の柱穴の平面形状は017とは異なり方形であるが、実際にはこれら3棟の建物の建設には時間差が存在したのかもしれない。これまでの近隣における調査事例から、円形の柱穴が採用されるのは7世紀の中葉までで、それ以後、区画溝を伴う形で方形に転換するものと考えられていることから判断すると、掘立017の建設時期が、当該地域における官衙の出現期にまで遡る可能性も否定できない。さらにこの掘立の柱穴及び柱の抜き取り跡の土の性質からも、その所属年代が8世紀にまで下るものではないと判断している。

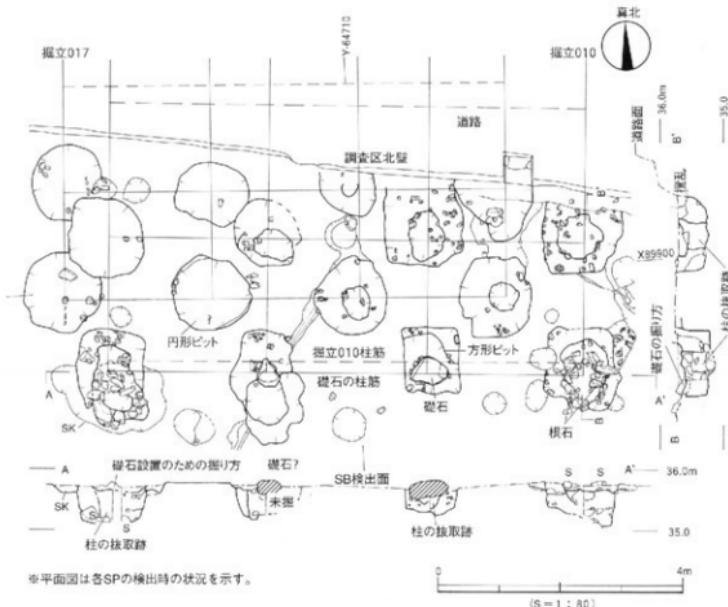


図3 掘立017・掘立010

Ⅹ調：2条の区画溝は継続したものと考えられるが、建物と柵が建て直される段階である。柵は南に約2.5mの位置に造り替えられるが、その際、柱筋の方位がⅠ期と比較して僅かにずれている（SA001）。柱穴の形状はSA006と比較すると小振りで浅く、不整形なものが主体をしめる。一間あたりの間隔は約1.45mと密な構造に変化している。各建物はⅠ期の位置から南寄りにずれて建て直される。規模の大きな純柱建物については、若干南東にずれる程度で当初の位置がほぼ踏襲されている。建物の形状に関して大きく変更された点としては、純柱建物の規模が若干拡大されたことがあげられる。この建物の柱材も017同様、最終的に抜き取られているので正確な数値は提示できないが、復元値で東西の1間あたり2.57m（8尺）、南北の1間あたり2.02m（6.5尺）の値を得ている。掘立010の柱穴の形状が、Ⅰ期の円形とは異なり方形に替わることも、これらの掘立の建て替えの時期を考える際に重要な事項である。方形ピットの出現時期は、從来、7世紀中葉ころに行われるものと理解してきた。その場合、Ⅰ期の017・Ⅱ期の010とともに、7世紀の中葉を上限とする時期の、区画施設を伴う官衙的色彩の濃い仓库、すなわち正倉であると評価可能である。

Ⅺ調：2条の区画溝と柵が廃絶し、さらには南の区域をも広く取り込んだ大規模な濠によって正倉群が囲われる段階である。この段階が設定された正確な時期の特定は困難を伴うが、濠出土の須恵器から、8世紀前半を上限とする可能性が高いものと考えている。（図4、1～4）。濠の形状は、31次調査の状況と同じく、幅およそ2m程度の濠本体に約1m幅のテラス状の浅い段差が付く構造になっている。このテラスは濠で開けられた空間の内側にのみ設けられている。濠の断面形状は逆台形で、このことは10次調査の際などに得られる所見と一致している。掘りあげた土が比較的多く混じる土は、区画の内側から外方向への流れ込みが強いが、一様ではなく、土塁などの存在を想定できる状況ではない。濠は地山上面から平均で0.9mの深さまで掘削されており、その下部には黒褐色上、上半部には褐灰色上が堆積している。8世紀中葉を主体とする須恵器を中心とした遺物の出土状況は、濠の土層地積とは無関係なあり方を示す。ただし、少量ながら出土している古い時期の平瓦の破片は、濠の中位から上部にかけて検出されており、その出土のありかたや区画溝SD001上層（魔絶時の整地土）出土の单介十葉蓮華文軒丸瓦（写真1）との関係などと関連して注目される。なお、この区画地の中心線上南面にあたる位置においては、特に顯著な構造物の痕跡は確認されていない。もっともこの箇所では、濠は調査地外に位置することから、濠本体が続くのか途切れるのかについても不明である。ただし、濠の内側のテラス状の段差部分は、32次調査地内において途切れ、濠の本体部分のみが東に延びるので、区画地の南面中央がこの施設の正面として意識されていたことは十分に推測可能である。

濠によって開けられた区画地には、大小さまざまな建物が配置されている。最も目立つ存在は、かつて12次調査によってその西端が確認され、今回、31次調査によって規模の確定をみた大型の東西棟の掘立柱建物である（P62）。床面積が120m²（約35坪）にも達するこの建物は、区画地の中心線の東寄りに位置し、真北から東に1°弱程度振るその方位は、濠によって開けられた区画地の方向性とも完全に一致している。32次調査においても、やや規模は異なるものの、区画地の中心線よりも西寄りの位置において、同様の建物が一棟検出されている。掘立002がそれであるが、建物の東部の柱穴の配置に関して不明な点があり、その規模については二通りの復元案を検討中で、床面積は84m²もしくは117m²となる。方位は31次の掘立1と共通であるが、区画地内において中心線を離れて左右対称の配置がなされているものではなく、さらに柱穴の規模は31次の掘立1の方がはるかに大きい。掘立1にのみ柱穴の底に根石が配置されている。以上の相違点は、2棟の建物がⅢ期成立時に同時に建てられたものでは

なく、いずれか一方については、はじめの掘立の廃絶時に入れ替わって設けられた可能性を示しているのかもしれない。ひとまず、2棟の掘立については、Ⅲ期以降の数段階にわたって継続的に使用された建物であると理解しておきたい。ただし、両掘立とも柱の抜き取り跡に灰白色の粘土混じりの土を投入する同じ方法を採用していることから、同時に廃絶された可能性も考えておく必要がある。

大型の掘立2棟と関連して、建物と濠との間の空間に東西方向の柵が設けられているが、区画地の中心線付近において柵は検出されておらず、しかも32次の柵は東端が北へL字状に屈曲することなどから、大型建物に対して設けられた一本柱柵であったと考えられる。このことからも、区画地の南面中央付近が特別な扱いを受けていたことを想定可能である。ちなみに32次調査地内で検出された柵(SA002)は、最低1回、建て替えられているが、東の掘立1の柵は建て替えられていない。この事実も2棟の大型掘立の間に段階差が存在することを反映しているのかもしれない。

区画地の南西角付近には3棟の小型の掘立建物が、柱筋をそろえて南北に列をなして配置されている。いずれも南北棟である。このうち、最も北寄りに位置する掘立013は、Ⅰ～Ⅱ期にかけて機能していた2条の区画溝を褐灰色土で埋めた後に建てられている。さらに調査地北壁沿いに位置する建物のうち、中央の掘立010については、礎石建物に転換したうえで継続している可能性が高い。小さなながらも礎石であると認定可能な石が1カ所遺存しているほか、角の柱穴2カ所については、柱を抜き取った後で浅く掘り進め、礎石を置くための根石を配している。掘立010の西に位置する掘立011についても、南へ1間分位置をずらして建て直しを行い、礎石建物の南面と柱筋をそろえている。東の掘立001については、この段階までに廃絶した可能性が高い。

外郭施設としての濠の出現と、縦柱の倉における礎石の採用がいずれの時期に行われるのか定かではないが、おおむね8世紀の前半には完了しているものと想定している。多数の正倉を外郭施設が囲うありさまは、まさに正倉院と呼ぶにふさわしいものと言える。なお、大型の2棟の掘立については、正倉院の正面の日立つ場所に東西棟として配置され、他の建物とは異なった扱いを受けていることから、文献に記されている「法倉」と呼ばれる動用穀(文出用の穀)を収納するための正倉であると考えられている建物であった可能性を検討中である。Ⅱ期までの機能を維持しつつ、國家の権威を都域の領民たちにさらに強く示す目的で、これらの建物を含む正倉院の拡充が行われたのであろうか。

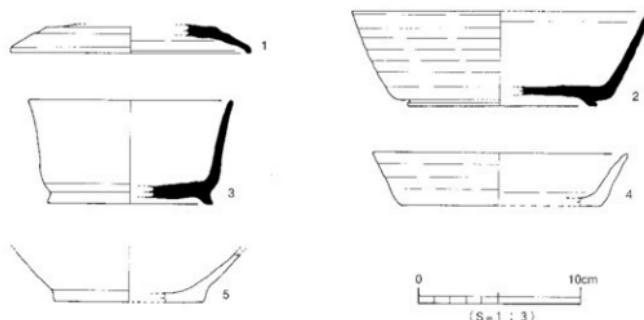


図4 SD010（濠）出土遺物実測図

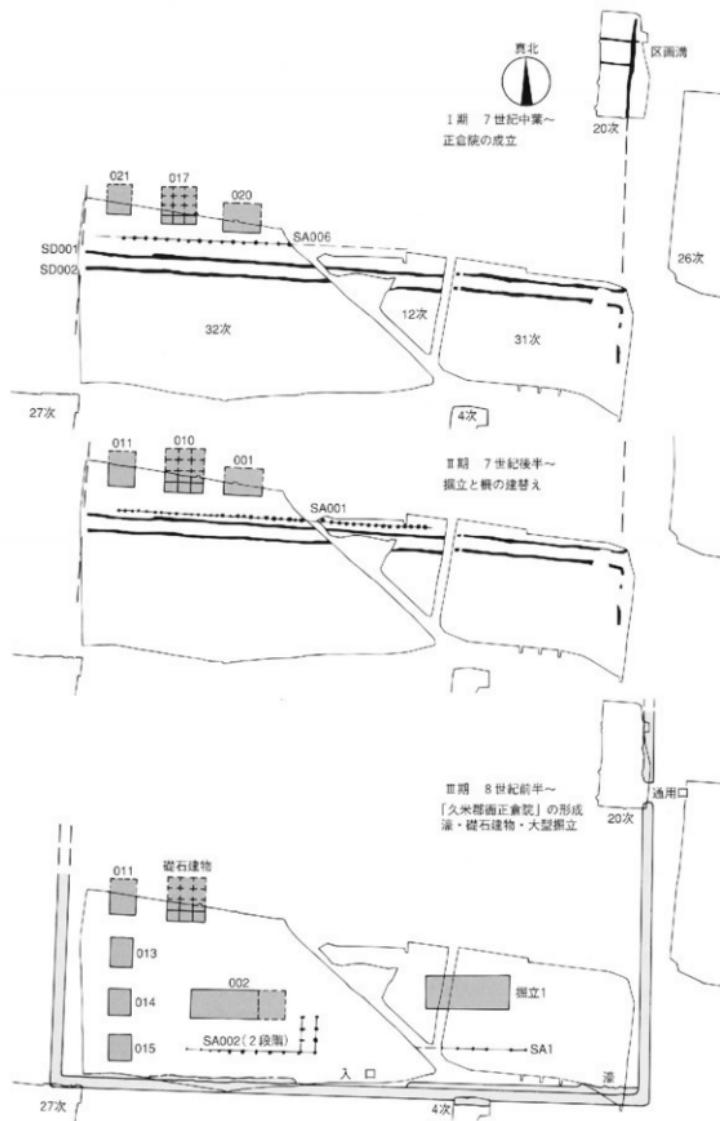
夏期：礎石建物に転換された縦柱建物と濠：S-D010は引き続き継続するが、掘立柱建物について建て替えが行われる段階である。3棟の小型の掘立は、やや大型の2棟の建物に建て替えられる。このうち、南側に位置する掘立009は布振り状に溝を掘ったうえで、桁行き5間・梁間4間の密な柱の配設が行われている。面積はおよそ45m²である。この建物も他の建物と軸線をそろえて配置されていることから、正倉院を構成する正倉の一つであると考えることができる。一方、北側の掘立の柱の配置は009とは異なり布振りでもないが、面積はほぼ同規模の41m²であることから、同時併存の建物であると考えられる。さらにその北に位置する掘立011に関しては、掘立010同様、継続して使用される可能性もあるが定かではない。大型の掘立002についても、この段階まで使用された可能性もあるが不明である。ただし、この掘立と密接な関わりがあると予想される南面の柵が建て替えられていることは、大型掘立が複数の段階に渡って引き継ぎ存続したことを示しているのかもしれない。

▼二期：濠と礎石建物に関しては継続する可能性が高い。IV期に出現した2棟の南北棟のうち、南側の掘立009のみが建て替えられる段階である（掘立008）。建て替えが行われない北側の掘立012については、継続して使用された可能性もある。建て替え後の掘立008の柱穴の埋土の性質は、IV期の2棟の建物と比較してかなり変化しているので、この間に正倉院の内部における地表面の環境が大きく変わったものと考えられるが、これがどれほどの時間差を反映しているのか、読みとることは困難である。濠の出現に伴って建てられたと想定している掘立002については、建て替えを行っていないことから、IV期までには廃絶したと考えるのが妥当であろう。柵についても同様である。

夏期：濠が埋まり、区画地内に配置されていた多くの正倉も廃絶する段階である。替わって濠を伴わない新たな建物が建てられる。32次調査地内ではこの段階に所属する遺構は確認されていないが、31次調査地の東部において2棟の掘立が検出されている。このうち、東側の掘立3が後出することが確認されているが、この建物の東側には極めて隣接するかあるいは一部重複する位置に濠の東辺が存在すると想定されることから、正倉院廃絶後に濠とは無関係に建てられた建物である可能性が高い。西よりの掘立2の柱穴からは、10世紀前半頃と推定される土師器の杯が出上しているので、このことからVI期の建物の所属する年代の上限を推定している。また、少量ながらこれと同様の遺物が、32次の濠の上層からも出土している（図4、5）ことから、この頃には、それまでの正倉院としての形態が崩れていたものと考えられる。2棟の掘立の軸線の方位は、正倉院段階のものとは異なり、若干西に振っているが、このことからもVI期を正倉院の継続期間から区分して扱うことが妥当であると考えられる。ただし、これらの建物の性質については、一般集落の住居などではなく、何らかの形で官衙的な機能を引き継いでいる可能性もある。ただし、該当する時期の建物の確認例は周辺部においても無いに等しい状況であることから、これ以上踏み込んだ評価を行うことは難しい。

小結 正倉群が濠によって囲われ、さらに掘立から礎石建物への転換が行われるIII期以降について、「久米郡衙正倉院」と呼ぶことは概ね妥当であろう。ただし問題となるのは、それ以前に遡る最低2段階に及ぶ施設について、いかなる評価を行うべきか、という点である。現時点では、最も古い形態を示す1期の縦柱建物：掘立017の出現時期が、7世紀の中頃にまで遡り得ることを指摘するに止めたい。しかしながら、正倉だけが単独で立地するのではなく、これに外郭施設としての柵や区画溝が伴っている事実は、正倉院と呼ぶに値する状況を示すものと評価することもできよう。その場合、古い時期の施設に「久米評衛正倉院」という名称を与えたうえで、「久米郡衙正倉院」へと連続的に移行する過程を読み取ることが可能となり、学史に照らして重大な問題を提起することになる。（齋本）

久米高畠遺跡32次調査地



久米高瀬遺跡32次調査地

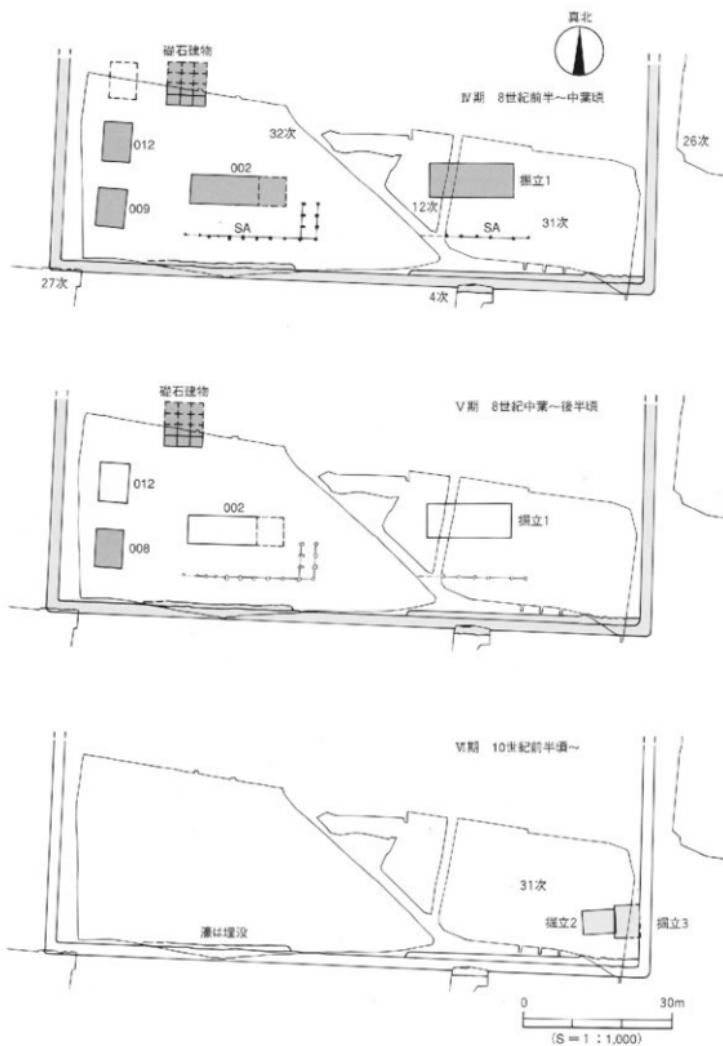


図5 正倉院変遷図



写真1 区画溝：S D001整地土層遺物出土状況（東より）



写真2 正倉：振立001方形ピットと礎石（北東より）



写真3 正倉：掘立017から掘立010への建替え（南より）



写真4 正倉院南面の濠・S D010完堀状況（西北西より）

久米官衙遺跡群～総括と今後の展望～

1はじめに

最後に過去の発掘調査・研究の成果もふまえて、今年度の久米官衙遺跡群における調査成果の位置付けを簡単に行っておきたい。まずはじめに、来住台地上に存在する7世紀代の上地区画のための溝(濠)や橋の位置を概説し、その中に配置されている代表的な官衙施設の概要をまとめる。統いて遺跡群の中における、初期の正倉群が配置されたエリアの位置を確認し、この区域が8世紀代に至って連続的に正倉院として使用されるに至った理由を考えたい。最終的には、当官衙遺跡群における調査研究上の課題点を整理し、今後の視点を明確にしたい。

2官衙関連施設の配置

来住台地上の官衙施設の配置には、いくつかの規則性が存在する。具体的には、日印の為に掘られた素掘りの溝、道路側溝であった可能性も考えられる溝、濠、橋(一部布掘り)などの外郭施設の配置から、それを読みとることが可能である。図3に該当する官衙関連遺構を示した。

まず第一に、外郭施設の方位は原則として真北から東へ2度強～5度強程度振った方向で統一されている。第二に、外郭施設の規模は概ね方一町の正方形を基本としている。第三に、方一町の区画と区画の間には幅数m程度の余剰部分の存在を読みとることが可能な場合もある。

ただし、前述の基準にしたがって、台地上に完全な基盤の日状の上地の区割りが行われているわけではない。存在が想定される位置にあっても、区画施設が出現しない箇所もある。したがって、ここで言う地割りについては、施設を配置する必要性が生じた箇所にのみ、設定された性質ものであると考えている。新たな施設の建設が行われる際には、隣接する先行地割りに対して、方位や距離などをあわせて配置が行われた結果、一見すると面的な上地の区割りがあらかじめ行われていたように見える状況が生じたものと考えられる。各区画間の余剰帶に対しても、結果的に道路として使用されたこともあったかもしれないが、あらかじめ地割り計画の中に組み込まれていた性質のものではないであろう。その証拠に、台地上の地割りの規模が、各区画施設の外周もしくは溝等の芯芯距離ではほぼ一町の値が得られており、余剰帶相互の芯芯が基準になっていない事実をあげることができる。したがって、31・32次調査地において確認された2条平行の直線的な溝については、ひとまず、約3mの距離を隔てて隣接する2つの区画地の外周を画する溝であると考えておく。

3「回廊状遺構」と「久米評術」

当遺跡群を構成する最も特徴的な官衙施設について、その位置と概要を記す。

「回廊状遺構」と呼ばれる方一町の施設(以下「回廊」と表記)は、来住庵寺(白鳳期)と一部重複する場所に立地しており、この地点は当該区域の中では最も南に張り出した箇所にあたっている(図3)。2条平行の溝によって囲われることからこの名称で呼んでいますが、建築学的には均整のとれた回廊であった可能性は少ないものと考えられている。「回廊」の幅も各辺ごとに異なっている(年報Ⅲ)ので、外側の堀を内側の柱列を用いて支える構造であった可能性もある。南面中央には、「回廊」の外側柱列に取り付く門が設けられ、北の奥には東西棟の大規模な掘立柱建物が位置していることがわかっている(年報Ⅶ、P53)。また、門のすぐ北には建物が配置されない広場のような空間を囲う橈が設けられているが、これ以外の顯著な建造物は確認されていない。なお「西回廊」北部の来住庵寺23次調査の際に、「回廊」外側柱列のみが建て直されている事が判明しており、定期的

統して使用された施設であった可能性が高くなった（年報Ⅵ）。

この施設は、ほぼ方一町の区画溝によって外周を囲われているが、「北回廊」の裏をはじめ北半の溝は規模の大きなもので、実際には濠と呼ぶべき形狀を呈している箇所もある。一方、南東、南西角など南面付近については、浅く幅の狭い目印程度の溝でしかない。この点から、「回廊」の区画溝に關しても、複数の段階に渡って形成されたものである可能性を想定している。前述の23次調査の際に確認された溝の一部における改修の事実も、このことと関連があるのかもしれない（年報Ⅳ）。

実年代の推定は困難を伴うが、おおむね7世紀の後半、中葉を上限とし（年報Ⅱ）、7世紀末までは廃絶して、米住庵寺が建設されたものと考えられている。その規模の大きさと特異な形狀から、舒明天皇來訪時（西暦639年12月～翌年4月）の「伊予溫湯宮」や、齊明天皇來訪の際（西暦661年1月～3月ころ）の「石湯行宮」の一部に比定する考え方方が有力視されている。「回廊」と区画溝が改修を受け、一定期間使用された事実も、これらの事項と関係があるのかもしれない。

「回廊」の北北西およそ2町の位置には、45m四方と推定される柵によって囲われた施設が立地している（図2）。北側を西に向かって流れる畠越川の段丘を背に立地するこの施設の内部には、複数の東西棟を中心とした脇殿の他、北の奥には正殿である可能性の高い掘立柱建物が配置されている（P80）。この建物は建て替えが行われており、「回廊」と同じく最低2段階に渡って継続したものと考えられる（年報VI・P46）。所属年代は、おおむね7世紀後半であろうと想定してきた。また、その性質については、方半町規模の形狀と所属年代から、評衡を構成する施設の一つ（以下「久米評衡」と表記）である可能性が高いと言われてきた。至近距離から、久米評と刻まれた須恵器の破片が出土（年報Ⅱ・P98）している事実から、評衡段階の施設である可能性はかなり高いものと考えられているが、政令そのものではなく、実務的性格の強い別の施設であった可能性も想定されている。

注目すべきは、これら2つの官衙施設が前述の基準に基づいて配設されており、「回廊」区画溝の南西角から「久米評衡」の柵の北東角（推定）までの距離がおよそ3町強の設定になっている（図3）。「北回廊」の区画溝（塗）のすぐ北には、別の区画地の南辺を画するための布堀りの柵との間に、幅3m程度の余剰部分の存在が確認されているほか、今年度の30次と31・32次で明確となった東西方向の区画溝の位置にも、別の余剰帶が存在するものと考えられる事から、両者の間には最低2カ所の余剰帯を含む3町強の距離が設定されているものと考えられている。「北回廊」の北に東西方向の布堀りの柵が設けられているが、これは、両施設の間（「回廊」のすぐ北）に存在する別の重要な官衙施設の南面にあたる可能性を想定している。しかし、内部の様子は全く明らかではない。

以上、遺跡群を構成する主な施設が、統一した考え方のもとで配置されていることを確認したが、最初の基準の設定が「久米評衡」に由来するのか、あるいは南の「回廊」が先に設けられたことによって形成されたものなのか、現時点で判断することは難しい。

4 最初の正倉院が設置された位置

今年度の最も重要な成果は、正倉群（正倉院）の存在を確認した点にあるが、その位置は先に説明した「久米評衡」が所属すると考えられる方一町の区域のすぐ西隣の方一町区域が当たられている。その区画地の南辺を示すのが12次や31・32次両調査地を東西に貫くS D001なのである。この区域の東辺に関しては、31次の北東角で直角に曲ったこの溝が、北に位置する20次調査地を南北に走る区画溝に接続する可能性を想定している（P72・図5）。北辺と西辺の実態は不明であるが、初期の3棟の正倉は、この区域の南辺の一部に柵を設けたうえで配置されているわけである。

5 久米郡衛正倉院の成立

主要な施設の中で、先に述べた配置上の特徴に当てはまらないものが2つある。ひとつは来住庵寺、もうひとつは「久米評衡」の西に位置する濠を外郭とする施設である。この施設の概要については、31・32次調査の報告の際に詳しく述べたので省略するが、注目すべきは、東側と西側の濠が掘られていると推定されるラインが、初期の正倉群が設定された方一町推定区域の東西幅を外から挟み込む位置にあたっている点である（P79）。濠の位置を決めるにあたっては、古くから使用してきた正倉が配置されている空間を、そのまま中に取り組んでしまうことが第一に重要視されたのであろう。正倉の一部について、位置を変えずに礎石建物に転換していることも、この施設に与えられた機能がそのまま継続したことを示している。

さらに、濠で囲まれた空間の東西幅がその位置に決定された理由は、北辺の設定に際しても同様に適用可能である。濠の北西角が10次調査の際に確認されているが、それから推定される北側の濠のラインは、東方に位置する「久米評衡」の北辺の柵を西へ延長したラインよりも若干北へずれている。このことから、初期の正倉群が設定された方一町区域の北辺についても、その後掘られた北側の濠の内側（南側）、もしくは重複する位置に存在することを、間接的に説明可能であると考えている。

さらに濠の掘削にあたって、より真北に近い方位が採用されたことや、2棟の長大な掘立柱建物を設けるために施設南面を大幅に拡張したことによって、「回廊」をはじめとする古い時期の官衙施設の配置の条件から、結果的にずれる状況に至ったものと考えられる。

濠の構造について、20次調査の際に重要なことがひとつ明らかになっている。東側の濠が一部途切れているのである。この箇所は正倉院の内部に至る通用口であったのではないかと想定している。これに連繋して、初期の正倉群が設定されている区域の東辺を示すと考えている南北方面の区画溝（20次の濠の途切れのすぐ西）に注目すると、これに直交し接する位置に2条平行の直線溝が掘られていることに気づく（P72）。この2条の溝は、初期の正倉群が配置されている区画を仕切るためのものであると理解されるが、当初より区画内へ至る入口の位置がこの付近に設けられていた可能性も考えられる。20次調査地内では区画南面とは異なり、横は設けられていないことも、この位置が南面とは違った扱いを受けていた可能性を示唆している。場合によると、東方に隣接する「久米評衡」南正面の位置を意識したことかもしれない。このように考えると、初期の正倉院の南面中央が柵によって閉塞されていることも理解しやすいのではなかろうか。

6 「久米評衡正倉院」認定の可能性

これまで初期の正倉群については特に名称を定めてこなかったが、区画性の高い溝や柵を伴っていることから、少なくとも正倉院と呼ぶことは可能であろう。ここで問題となるのは、その設定が7世紀まで遡り得るのか、濠で囲われるのはいつからなのか、という時期の認定に関する点である。残念ながらこの問題を解決する決定的な証拠は得られていない。しかしながら、繰り返し指摘してきたことであるが、出現段階の正倉：掘立017の形状等によると、Ⅰ期のスタートが7世紀の末や8世紀代まで下ることは有り得ず、むしろ7世紀前半を含む中葉の特徴を示していることは確実である。この点を重要視するならば、至近距離から久米評と刻まれた須恵器が出土していること（久米高畠7次・年報II）を参考にして、久米評の官衙的な倉庫群が配置された区域という意味で、「久米評衡正倉院」の名称を採用することも十分に可能であると考える。その場合「久米評衡」が、評衡の政府、すなわち『評序院』そのものであるのか否か、という問題については引き続き検討を行う必要がある。

久米官衙遺跡群～総括と今後の展望～

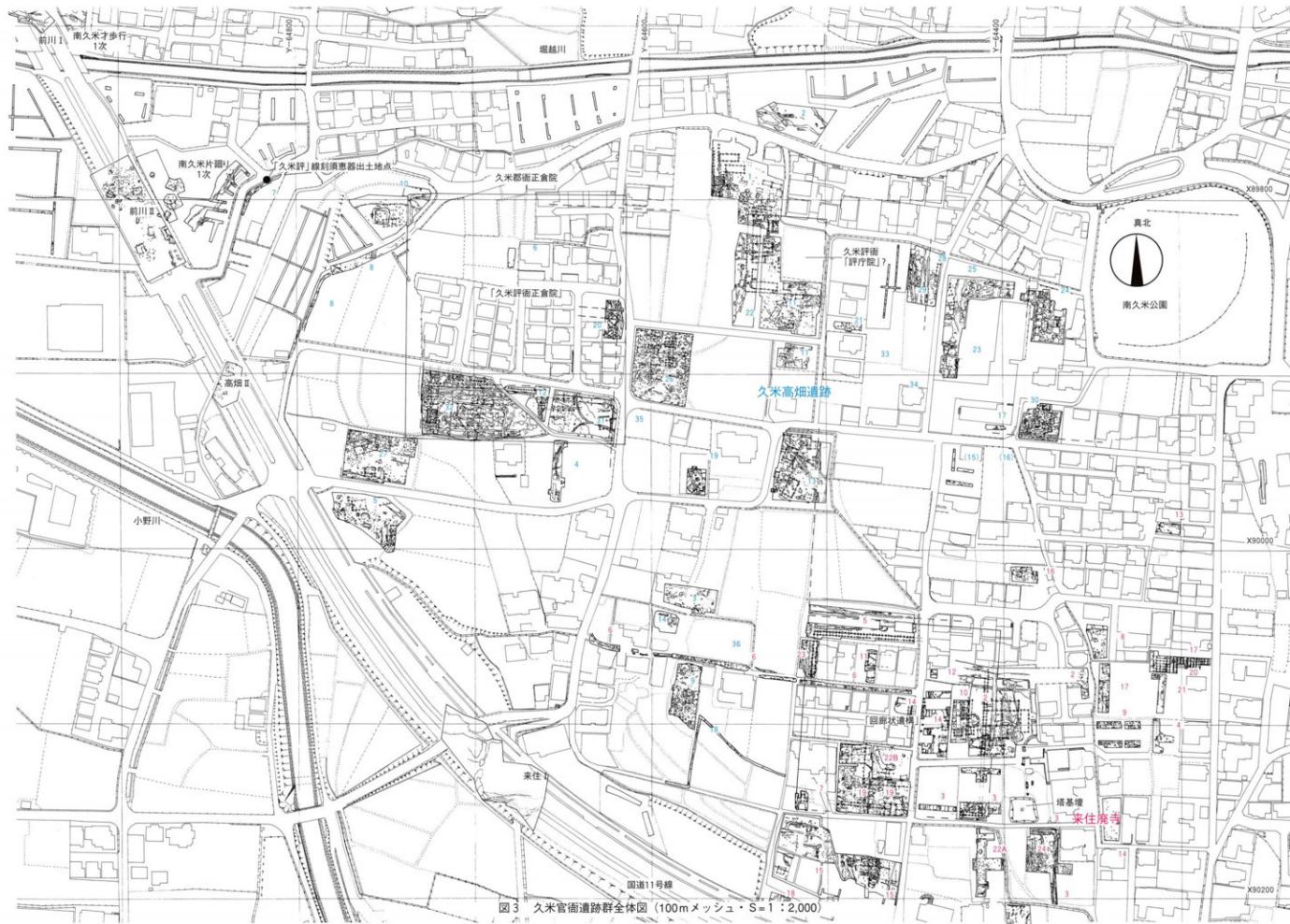


図1 正倉院周辺図 (S = 1 : 2,000)

久米官衙遺跡群～総括と今後の展望～



図2 久米評衙主要部



*33~36次は9年度調査中

7 正倉院の連続性と画期

ここではひとまず、前項で述べた「久米評術正倉院」の存在を前提として話を進みたい。「評術正倉院」を構成する正倉の一部について、郡術正倉院への転換に際して礎石建物に変更したうえで継続していることと、新たに建てられた西の3棟の小型の掘立の配置が、「評術正倉院」の掘立011にそろえた列びになっていることの2点から、新旧の正倉院の間には明らかな連続性を読み取ることができる。濠の設定が、古くから存在した方一町の正倉区画を完全に取り込んでしまう位置に決められたことも、同様に評価可能かもしれない。以上述べた状況は、評制から律令制段階への移行には、断続が認められる、とされているこれまでの一般的な研究成果に照らして問題が多い。

一方、移行に際して、両者の間に断絶を認めることが可能な状況も読み取れる。例えば、法倉である可能性を想定している2棟の大型掘立柱建物の新たな建設については、前段階とは異なった政治的・社会的必要性が生じた結果であると理解できる。この2棟が不動倉としての高床總社建物ではなく、倒柱建物であるにも関わらず、Ⅲ～Ⅴ期に特別な扱いを受けているのは、律令国家形成期の地方における政治的な必要性を反映しているのかもしれない。大規模な東西棟として最も目立つ場所に建てられていることは、郡内の領民に対して律令を象徴的に示す意図がはたらいた結果であろうか。仮にこれらの建物に収納されたものが、日常的に出し入れすることの多い動用倉（穀槽）であったならば、出番などにまつわる國家権力の行使と密接な関係にあったことも想定可能である。廃絶に際して、この2棟だけが特別な扱いを受けていることも、その現れであろうか。

8 今後の課題

「久米評術正倉院」あるいは「久米郡術正倉院」を認定するしないに関わらず、評術の政」「評疔院」や都府院の存在を特定し、各施設相互の関係・変遷過程を明らかにしていく必要がある。「評疔院」である可能性のある施設は確認されているが、都府院に関する手がかりは全く得られていないので、今後とも調査に際しては、可能な限り広い面積を確保するよう努力していくたい。

都府院の所在が不明な点と関連して、濠で囲まれた正倉院に対応する土地の区割りが行われた気配が全く無いことも気にかかる。郡術の正倉院が設定されるにあたって、敷地内の区画溝は整地土によって埋め戻され、柵も撤去されているわけであるから、新しい施設や都府院に対応する道路が新たに設定されているはずである。ところが、それに該当する遺構は全く検出されていない。この事実が何を意味するのか、今後の調査によって解明していく必要がある。

また、郡術成立段階には確実に存在していたであろう来住庵寺をも含めた遺跡群全体の景観の復元をおこなうことも必要である。寺域はいまだに確定されていないが、その一部が「回廊」と重複する位置にあることは間違いない、古い時期の官術施設の区画性を無視して新しい施設を建設したと解釈可能な点は、先に述べた久米郡術正倉院の成立のあり方と類似しており興味深い。今年度の調査によって、これまで明確でなかった8世紀代以降の官術の存在が確定した以上、今後は隣接する位置に寺院が付随する官術遺跡群であることも念頭に置いて調査をおこなっていきたい。(橋本)

参考文献：松原弘宣「回廊状遺構再論」『愛媛大学法文学部論集 人文学科編』第2号 平成9年2月

宮内慎一・水本光児「末住庵寺」－第19次調査－ 松山市文化財調査報告書56 松山市教育委員会・財團法人松山市生涯学習振興財团蔵文庫文化財センター 1996

中山敏史・佐藤興治『古代の役所』古代日本を発掘する 5 岩波書店 1985

フルイチ
古市遺跡(1・2区)、下刈屋遺跡2次調査地
松山市道「平井・水泥線」関連遺跡

所在地 松山市平井町甲1704-1外
期 間 平成8年4月1日～平成9年3月31日
面 積 16,000m²のうち7,393m²
担 当 栗田茂敏・河野史知・大森一成



図1 調査位置図

経過 調査は、松山市道平井・水泥線の新設に伴うものである。平成7年、この新設路線のうち、用地買収進行中である平井町の約1kmの区間、総面積16,000m²についての埋蔵文化財確認調査願いが松山市道路部道路建設第1課から松山市教育委員会（以下、市教委）に提出された。これにもとづき、平成8年3月市教委が行った試掘調査により、対象地の各所で弥生時代から古代・中世に至る各期の遺物を包含する土層が検出され、これらの部分については本格調査が必要と判断された。本格調査は平成8年4月から実施されたが、路線は現況水田を東西に貫くかたちで計画されており、調査にあたっては既設の水路や畦畔の保全が前提となった。また、調査体制や日程などの都合上、図2に示されたような調査担当区を設定しての実施となった。

調査地北部を東西に連なる丘陵上には、古墳時代中～後期を主体とする古墳群が分布し、また、これらの丘陵麓には7世紀前半から8世紀代の須恵器窯が多く分布することがわかっているが、平野部での発掘調査例はさほど多いものではなく、上刈屋遺跡1次・2次調査や、下刈屋遺跡の調査などで古墳時代後期を主体とした遺構群が過去に調査されている程度である。以下、各調査区ごとに概要を記述する。

（栗田）

古市遺跡1区の調査 路線最東部の東西150m、南北16mの範囲がこの調査区にあたる。この調査地を東西に蛇行しながら縱断するように農業用水路が走り、この用水路からの取水路や畦畔が東西に数条存在している。これらの施設の保全を前提の調査となつたため面的な調査区設定ができる、トレチ調査のみで対応せざるを得なかつた地点もある。調査の結果、東から西に蛇行しながら流れる自然流路S R 1および、水路S D 1が検出された。自然流路S R 1は、北岸のみの検出で対岸となる南岸は検出されていない。周辺の地形をみると、調査区内の現況水路の北には段丘があり、この段丘に沿うように流路北岸が検出されている。調査区南約70～100mにはこの北段丘に対応するような高まりが東西に走っており、流路南岸にはこの高まりの部分が相当するものと考えられ、調査では幅70～100mの東西の大規模な流路の北岸付近の一部が検出されたものと推定される。流路内には2枚の包含層が存在し、2面の水田下層の第5層、褐色粘質土は古代の須恵器・土師器を含み、この第5層の下位、大きく3枚の無遺物層を挟んだ第10層からは弥生時代前期の遺物が出土している。これらのことから、流路全体が埋まつた時期は定かではないが、少なくとも調査された北岸部は8世紀代に埋没したものと考えられる。水路S D 1は自然流路を切り、この流路の北立ち上がりに沿うように流れているが、削平されており現況で幅1mから2m、深さ30cm程度の遺存である。弥生時代・古代の遺物を含んではいるが、最も新しい遺物は13世紀代の瓦器などであり、実際に水路として機能していた

古市道路(1・2区)、下刈屋道路2次洞査地

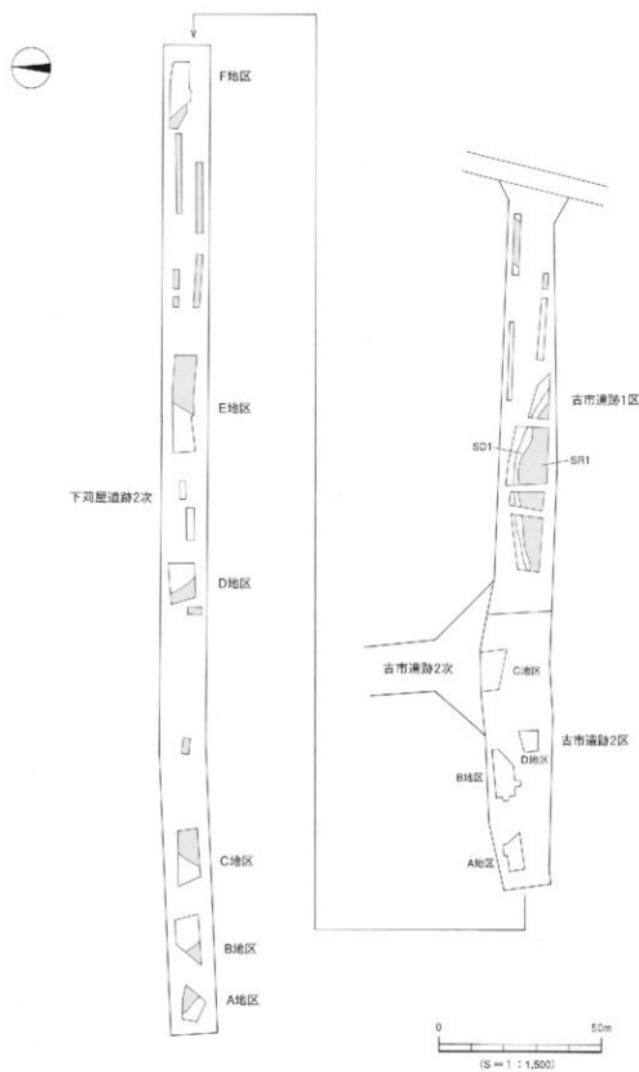


図2 調査地測量図

古市遺跡（1・2区）、下刈屋遺跡2次調査地

のは室町時代の塙と考えられる。（栗田）

下刈屋遺跡2次調査 C～F地区において古市遺跡1区で検出した自然流路のつながりを検出した。この自然流路（SR1）は古市遺跡1区と同様に北岸のみ検出されている。流路の堆積土は河川の攻撃斜面側が、上層から下層にかけ粘質が強くなる傾向を示すに対し、その対岸は黒色粘土層だけの堆積である。SR1は上層より須恵器・土師器片、下層より弥生土器片が出土している。また、A地

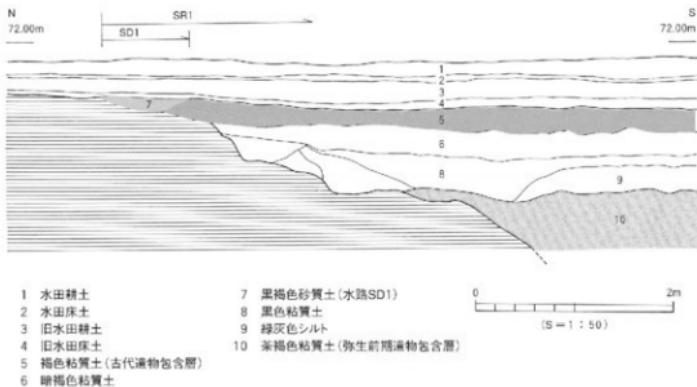


図3 古市1区SD1、SR1の土層堆積

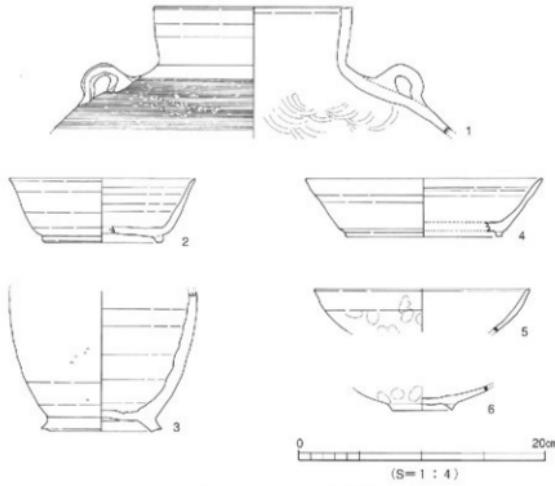


図4 古市1区SD1出土遺物実測図

古市遺跡（1・2区）、下刈屋遺跡2次調査地

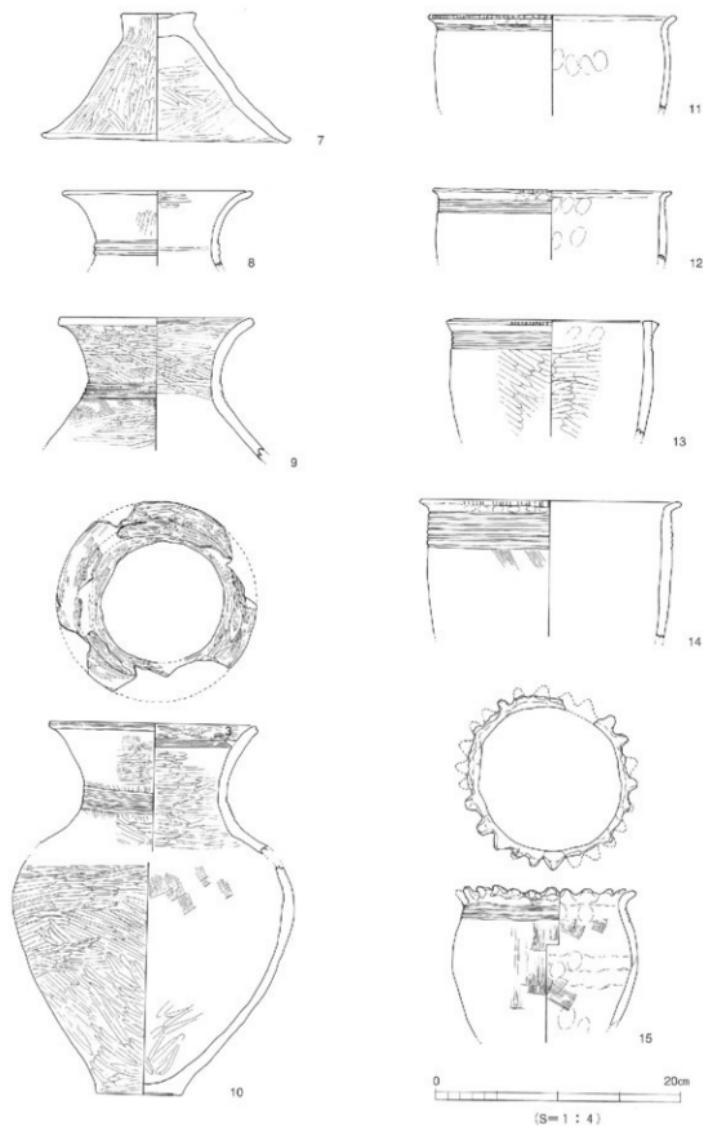


図5 古市1区SR1出土遺物実測図

区とB地区において自然流路（SR2）を検出した。この流路は河幅約15mで、A地区で検出した西岸は緩傾斜を呈しているのに対し、B地区の東岸は攻撃斜面の様相を呈している。またB地区の第IV層上面にて、柱穴5基、鈎跡16条、性格不明遺構4基を検出した。鈎跡は東西・南北方向にみられる。E地区的流路中層にて古墳に機能していたSR1の一部を検出した。その東側において検出した土坑は平面形態が楕円形を呈しており、基底面に10cm～人頭人の礫を密着した状態で検出した。F地区にてSR1の北岸と土坑3基、柱穴25基、溝1条、鈎跡5条、性格不明遺構2基を検出した。鈎跡は東西方向に6条を並行した状態で検出しており、出土遺物より近世の鈎跡と考えられる。（河野）

古市遺跡2区の調査　[A地区] 第IV層上面にて上坑1基、柱穴7基、性格不明遺構1基を検出しており、その殆どは調査区東側に集中している。

[B地区] 第IV層上面にて掘立柱建物址3棟、柱穴3基を検出した。掘立柱建物址は、掘立1が3間×2間の袖をやや南北に振る東西棟、掘立2は4間×3間の東西棟、掘立3は2間以上×1間以上の東西棟であり、掘立2・3はほぼ正方位を指向する。掘立3は桁方向の柱穴が大きいのに対し、梁方向の内側の柱穴は小振りである。桁方向の一部の柱穴より根石を検出している。出土遺物は土師器・須恵器片が出上っている。掘立1～3には時期差があるが古墳時代後期に比定される。

[C地区] 第IV層上面にて掘立柱建物址1棟、溝2条、柱穴11基を検出した。掘立4は3間以上×2間以上の東西棟で、柱穴の規模は20～40cmと小振りである。柱穴内より和泉型瓦器枕が出土しており、時期は古代末に比定される。

[D地区] 第IV層上面にて上坑3基、柱穴4基、溝1条、性格不明遺構2基、近現代の石詰暗渠状の施設を検出した。SD2は東西を指向しており、C地区の溝につながる様相も呈している。出土遺物は須恵器・土師器片が出土している。（河野）

小結　今回の調査によって検出された自然流路は小野川水系の旧流路と考えられる。調査地内では、幅70～100mの流路の北岸付近の一部が検出され、この部分は8世紀代に既に埋没していたものと考えられるが、流路自身は規模を縮小しながらその後も存在し続けていたものと思われる。近隣の小野谷や茨谷（ばらだに）周辺には6世紀～8世紀代の須恵器窯が多く分布しており、製品の運搬には陸路だけではなく水系を利用した水運も考慮に入れる必要があり、この意味でも古代の水系の一部が検出されたことは意義が大きい。

流路から出土した弥生時代前期の上器は、壺頭部や肩部の削り出し突帯を特徴とするもので、前期中頃から後半段階のものである。これらの遺物は河川内に堆積した出土状況ではあるが、ローリングを受けた痕跡がみられず、投棄されたものと思われる。河川北側の段丘から北へ広がる微高地では古市2区を中心として古墳時代・古代の遺構が主に検出されているが、週って弥生時代前期段階の生活址あるいは集落が存在する可能性が高い。引き続き行われるこの流路の調査や、併行して実施されている南北道路「平井・食場線」関連遺跡の調査で各期の様相がより明らかとなろう。（栗田）

古市遺跡（1・2区）、下刈屋遺跡2次調査地

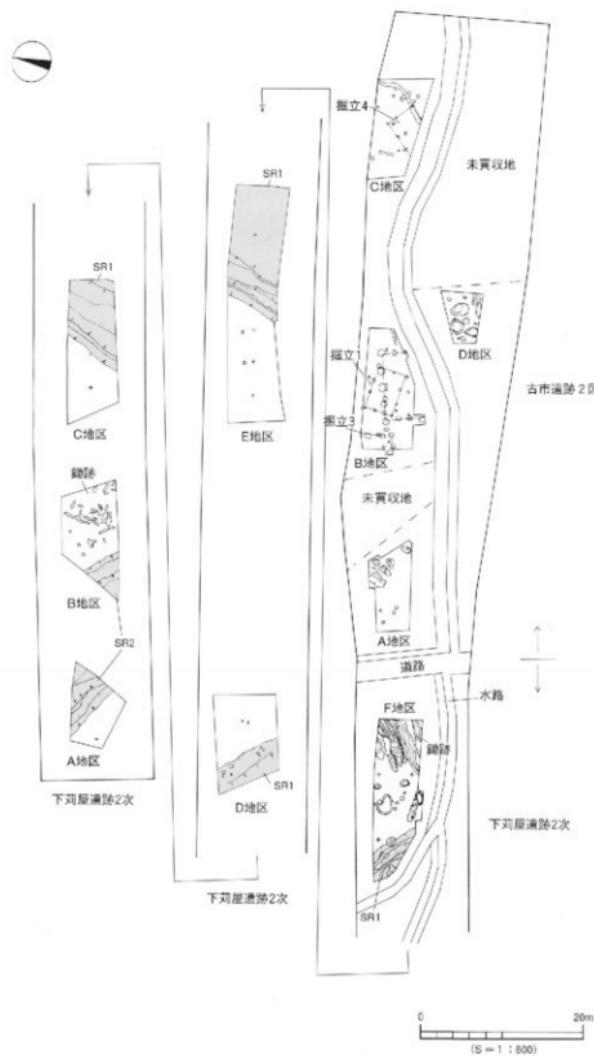


図6 古市2区・下刈屋2次遺構配置図

古市遺跡（1・2区）、下苅屋遺跡2次調査地



写真1 古市1区SD1、SR1調査状況（東より）



写真2 古市1区SR1弥生土器出土状況



写真3 古市2区B地区遺構完掘状況（東より）

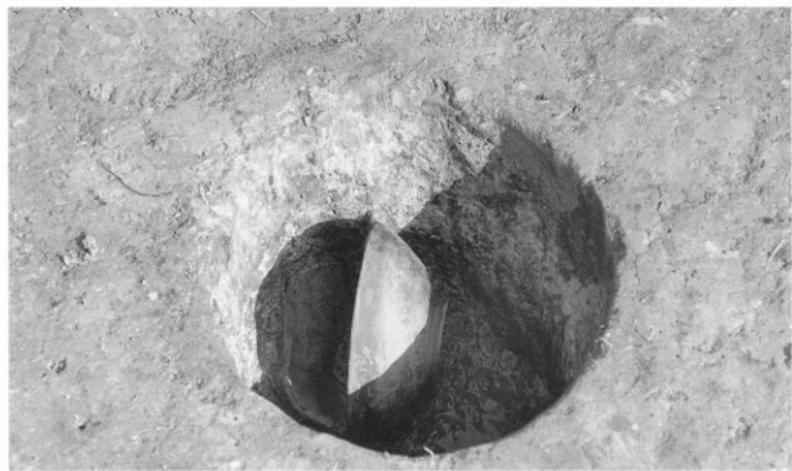


写真4 古市2区C地区掘立4P1遺物出土状況

フルイチ
古市遺跡 2 次調査地（1区）
松山市道「平井・食場線」関連遺跡

所在地 松山市平井町甲1726-1外
期間 平成9年1月7日～同年3月31日
面積 1,465m²
担当 山本健一・山之内志郎



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市道「平井・食場線」道路建設工事に伴う事前発掘調査である。当該地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No90 権現山古墳群」ならびに「No98 かいなご古墳群」に含まれ、周辺には6世紀後半に築造されたと推定される平井谷1号墳が所在するほか、7世紀初頭の茨谷1号塚をはじめとする須恵器窯跡群が分布することでも知られている。

調査は、1区を便宜上農道や県道で南北よりA・B・C地区に区分した。試掘調査の結果、A地区では遺構・遺物の存在は確認できなかったが、B地区において溝状遺構や柱穴を検出し、須恵器が出土した。そのため、隣接したC地区でも同様に遺跡の存在が容易に推定できたため、遺跡の範囲の確認とその性格の解明を主目的に、B・C両地区において本格調査を実施した。

遺構・遺物 [B地区] 掘立柱建物址2棟、溝7条、土坑10基、柱穴90基を検出し、出土遺物などから縄文時代晚期・弥生時代前～中期・古墳時代後期・古代に位置付けられる。

土坑SK2は、調査地南東部に位置する。平面形が直径約1.5mの円形土坑で、縄文時代晚期の土器とともに5cm大から人頭大の円錐形数点が出土した。

掘立柱建物址（掘立1・2）は、調査地南西部において検出した。まず掘立1は、桁行3間、梁行3間の南北棟である。柱穴は円形または楕円形で、時期は柱穴埋土より古墳時代後期と考えられる。次に掘立2は、桁行4間、梁行1間の南北棟である。柱穴は隅丸方形で、時期は柱穴埋土や平面形から古代と推定される。

[C地区] 穴式住居址1棟、掘立柱建物址4棟、溝1条、土坑12基、柱穴154基を検出し、出土遺物などから弥生時代前～中期・古墳時代後期に位置付けられる。

弥生時代の土坑は、平面形・規模・方向性・断面形などから概ね2種類に分類できる。（仮称）Aタイプは、平面形が椭丸長方形を呈し、規模・方向性は南北1.5m前後、東西1.0m前後を測る。埋土は茶褐色シルトを基調とし、部分的に少量ではあるが、炭化物を含む。断面形は上面よりほぼ垂直の皿状を呈し、床面はほぼ平坦である。出土遺物の時期は、弥生時代前期末～中期初頭である。

（仮称）Bタイプは、平面形が楕円形または不整形を呈し、規模・方向性は東西1.0m前後、南北0.5m前後を測る。埋土はAタイプと同様に茶褐色シルトを基調とするが、焼土・炭化物は含まない。断面形はレンズ状を呈する。出土遺物の時期は、弥生時代前期末～中期初頭である。

古墳時代の遺構として、調査地北西部で堅穴式住居址1棟（S B 1）を検出した。一辺のみの検出であったが、平面形は一辺5.8m規模の隅丸方形を呈しているものと推定される。内部施設は、周壁溝を検出したほか、床面において焼土を一部検出したが、カマドになるかどうかは今後の検討をする。

吉市遺跡2次調査地（1区）

出土した上師器・須恵器から古墳時代後期に位置付けられる。

掘立柱建物址（掘立1～4）は4棟検出した。掘立1は調査地北西部において検出し、4間×2間の南北棟である。掘立3は調査地中央東部において検出し、3間×2間の東西棟である。掘立4は総柱建物で、調査地南西部において検出し、2間×2間の東西棟である。いずれも出土遺物がわずかであるため時期決定が困難であるが、埋土や方位より古墳時代後期に位置付けられよう。

小結 B地区のSK2の性格については今後の調査検討を待たねばならないが、絶文時代晩期の遺構を検出したことは大きな成果であり、今後この地域における当該期の生活址について、新たな視点を持つて調査する必要がある。

C地区において検出した弥生時代前～中期の土坑は、一部に貯蔵穴と思われる袋状土坑がみられ、これらは周辺地域での集落の存在を傍証するものであろう。今後はこれらの土坑の性格とその広がりについて、他地域との比較検討が急務であろう。また出土遺物の検討から、古墳時代後期と推定される堅穴式住居址1棟・掘立柱建物址4棟の厳密な時期決定と、B地区で検出した掘立1との前後関係などが、今後の研究課題となろう。

またB地区的掘立2は、平井地区において古代の掘立柱建物址は初めての検出例であるため、他地域、特に米住地区との類例の比較検討を行いながら、時代の設定や集落の性格などの課題について整理作業の段階で検討していきたい。

(山之内)

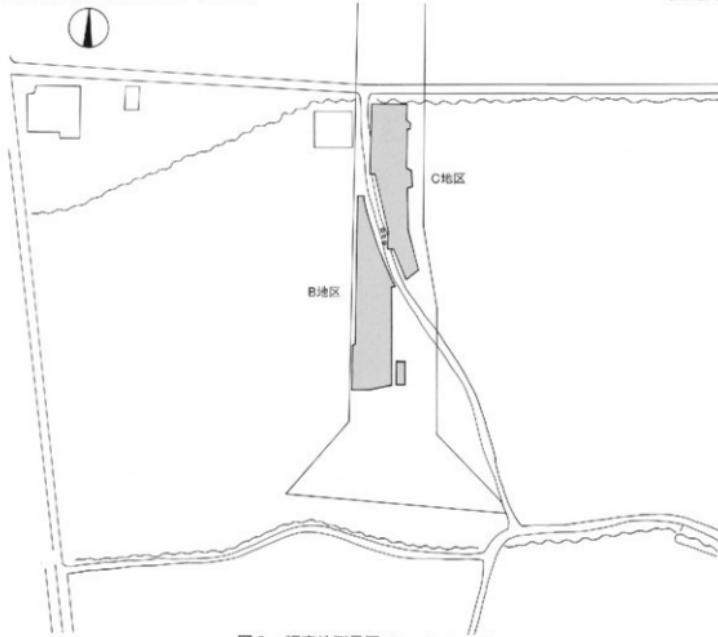


図2 調査地測量図 ($S = 1 : 1,000$)

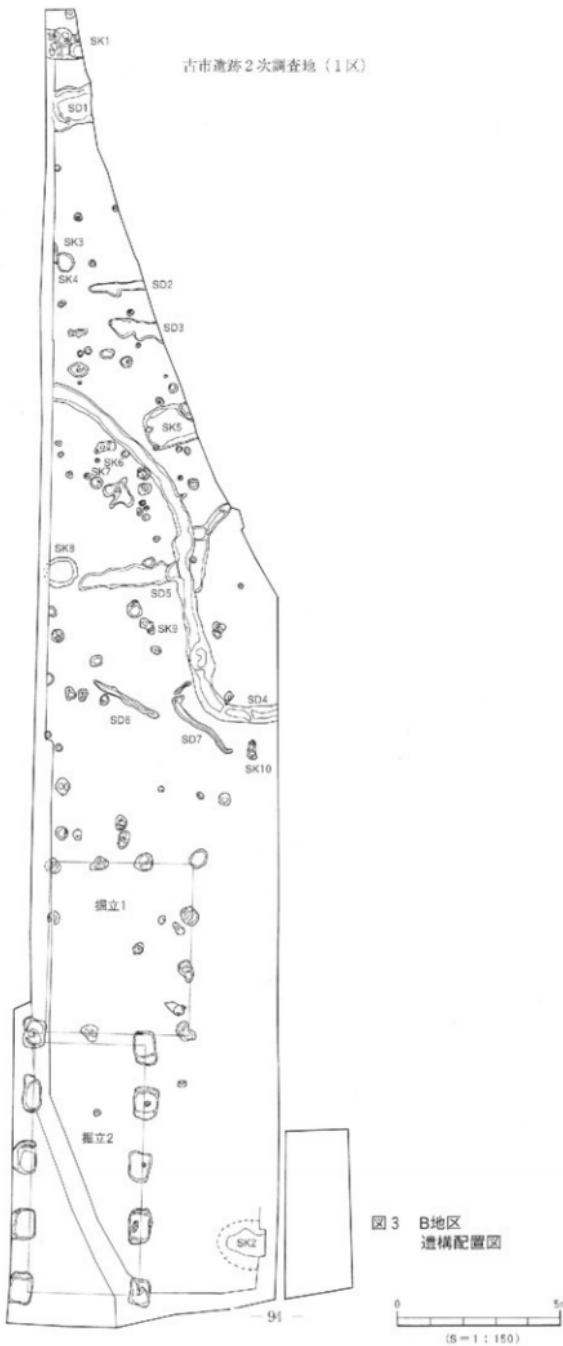


図3 B地区
遺構配置図

0 5m
(S = 1 : 150)

古市遺跡 2 次調査地（1区）

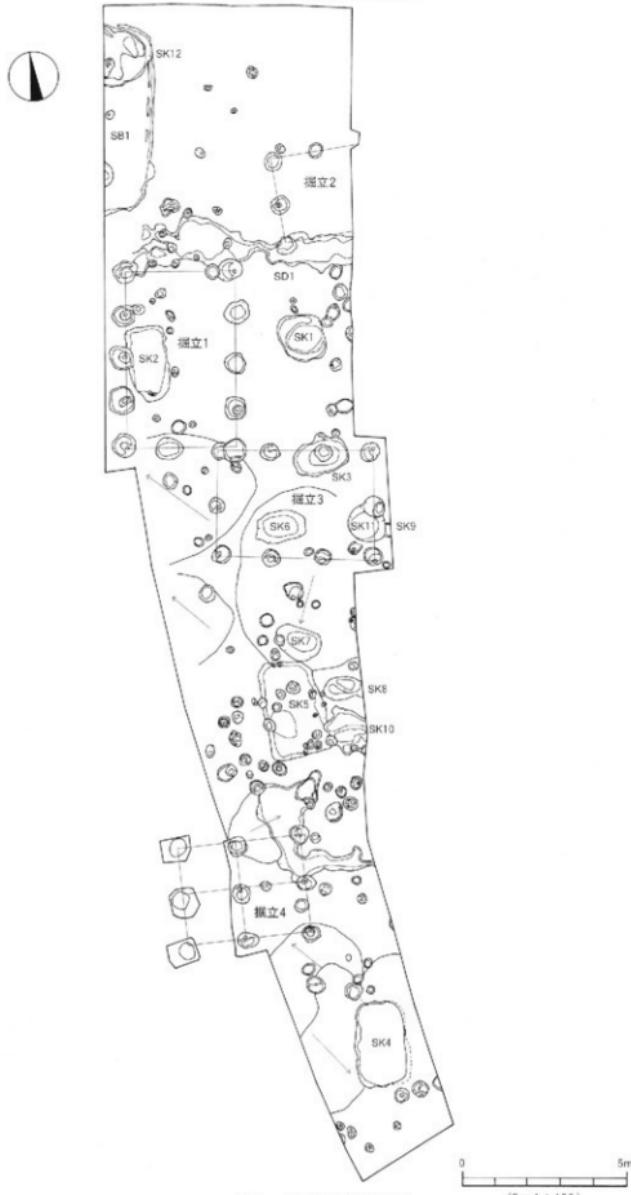


図4 C地区遺構配置図

(S = 1 : 150)

古市遺跡 2 次調査地 (1) X



写真 1 B 地区遺構検出状況（南より）



写真2 B地区掘立1・2検出状況（北東より）

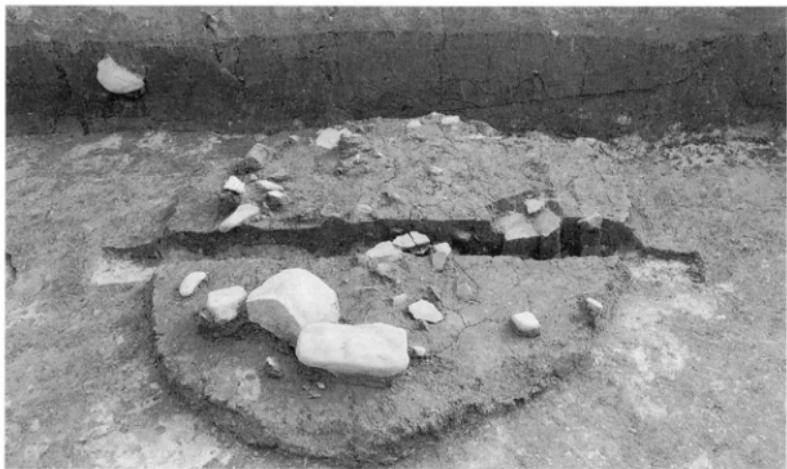


写真3 B地区 SK 2 遺物出土状況（西より）



写真4 C地区遺構完掘状況（北より）



写真5 C地区掘立1完掘状況（東より）



写真6 C地区 SK1 遺物出土状況（西より）

ゴウラク 五楽遺跡（1・5区） 松山市道「平井・食場線」関連遺跡

所在地 松山市平井町甲851外
 期 間 1区／平成8年10月28日～9年3月6日
 5区／平成8年8月19日～同年10月11日
 面 積 1区／1,332m² 5区／1,199m²
 担 当 山本健一・山之内志郎



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市道「平井・食場線」道路建設工事に伴う事前発掘調査である。調査は、調査対象地を畔道や河川などで便宜上南より1～6区に区分し、用地買収地についてのみトレンチによる試掘調査を実施した。その結果、1区A地区と5区A地区の2ヵ所で遺構・遺物が確認された。1区A地区は、土坑・柱穴・溝を検出し、弥生土器片が出土した。その北に位置するB地区は、試掘調査を実施したが、遺構・遺物の検出には至らなかった。更にその北のC地区は、未買収地である。5区A地区は、柱穴を検出し、土師器片が出土した。その北に位置するB・C地区は未買収地である。

これらの結果を受けて、弥生時代以降の古代・中世における集落構造の解明と詳細な遺跡の性格と広がりの確認を主目的として、両地区における本格調査を実施した。

遺構と遺物【1区A地区】確認された遺構は、溝1条、土坑17基、土塙墓1基、柱穴157基で、これらの遺構の時代は、出土遺物より弥生時代前～中期・古墳時代後期～近現代にわたる。

弥生時代の土坑は、平面形が隅丸長方形を呈するAタイプと積円形または不整形を呈するBタイプの両タイプが検出されている。出土遺物の時期は、いずれも弥生時代前期末～中期初頭である。土坑SK7・8からは弥生時代前期の壺形土器が正位置で埋置された状態で検出されている。

SK1は、時期決定の決め手になる遺物の出土は見られなかったが、埋土・落込み石の状況などから、近現代の土塙墓と考えられる。

【5区A地区】確認された遺構は、溝2条、土坑4基、柱穴36基で、これらの遺構の時代は、出土遺物より古墳時代～中世にわたる。

溝(SD1)は、調査区北部に位置し、規模は検出長2.56m、幅5.32m、深さ0.44mを測る。溝床は3ヵ所において落ち込みが見られるが比較的平坦で、埋土は上面にチョコチップ状の褐色を含む暗灰色砂質土である。遺物は埋土中より陶器・土師器・土鍋が出土した。

小結 1区A地区と古市遺跡2次調査地1区C地区で検出された弥生時代の土坑は、立地条件や規模から、ひとつの土坑群を構成するものと推測される。またAタイプとBタイプに分類したが、焼土・炭化物の有無が土坑の性格に関係するものかどうかを今後の課題にしたい。

5区A地区においては、古墳時代・中世の遺構と遺物を確認し、これまであまり確認されていなかった平井地域における中世遺跡の様相が明らかとなった。しかし、建物などの生活関連遺構が確認できなかつたことと、遺跡の広がりや正確については不明な点が数多くあった。今後は周辺地域での発掘調査により、集落の構造や変遷が明らかになることに期待したい。

(山之内)

五条遺跡（1・5区）

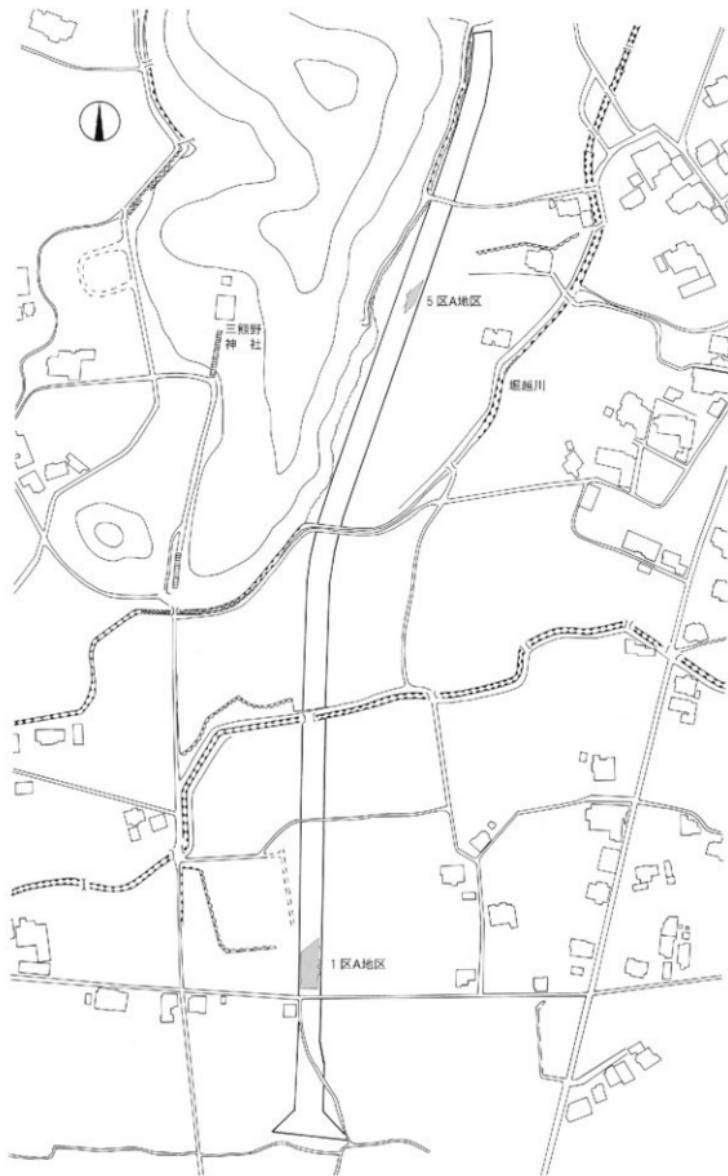


図2 調査地測量図 (S=1 : 3,000)



図3 1区A地区造構配図

五楽遺跡（1・5区）

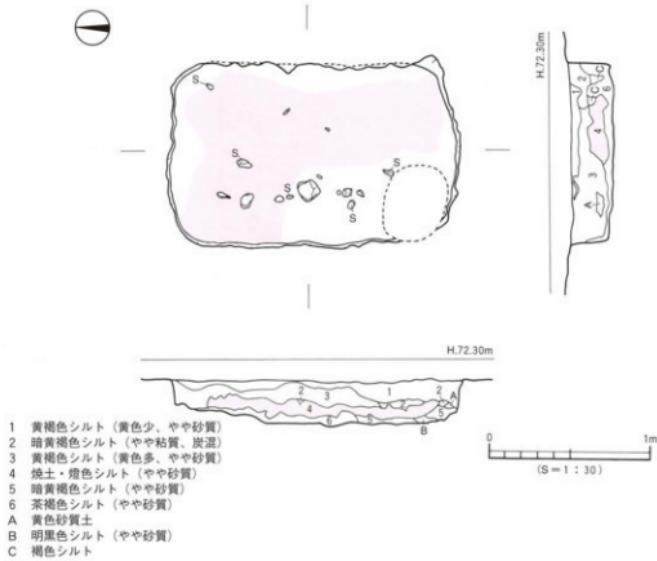


図4 1区A地区SK12測量図



写真1 1区A地区SK12焼土検出状況（北西より）

五楽遺跡（1・5区）

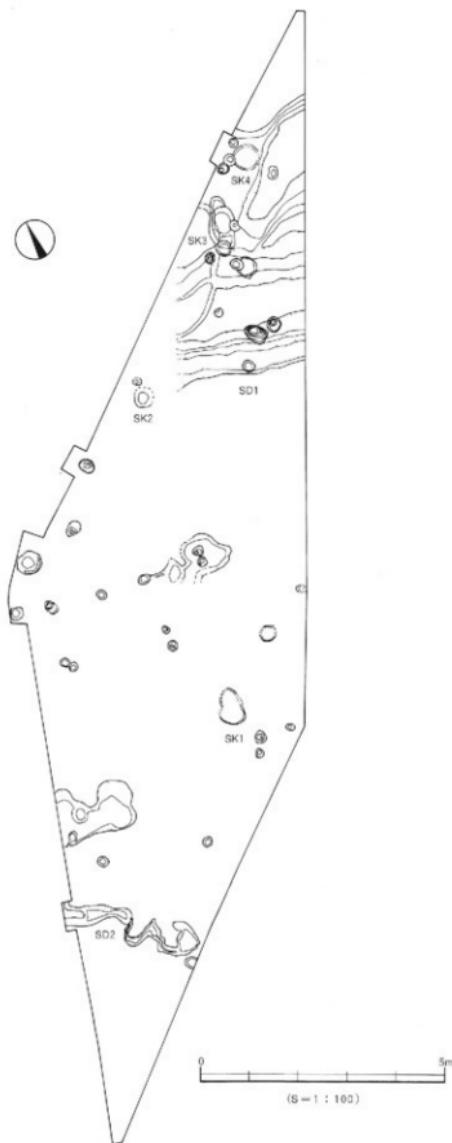


図5 5区A地区造構配置図



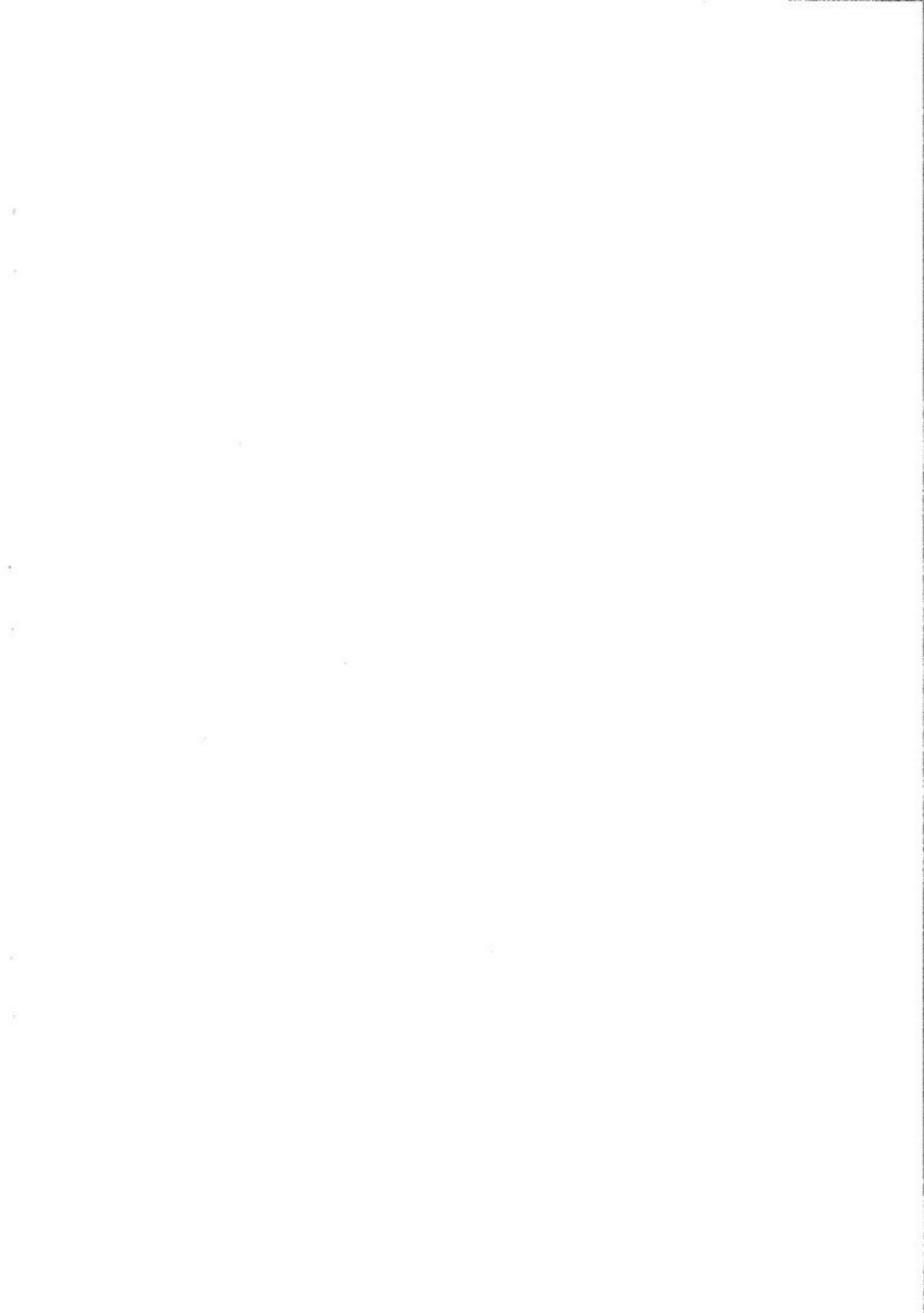
写真2 1区A地区（西半部）遺構完掘状況（南より）



写真3 1区A地区（東半部）遺構完掘状況（南西より）

II 平成 8 年度

松山市埋蔵文化財調査関係資料



松山市埋蔵文化財調査関係資料

例言

1. 本編は、松山市教育委員会文化教育課・（財）松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。
2. 今回は平成8年度（申請番号1号～484号、平成8年4月1日～平成9年3月31日迄）の資料を取り扱う。なお、平成7年度以前の資料については、「松山市文化財調査年報I（昭和60～61年度）、『同年報II（昭和62年～63年度）』、『同年報III（平成元年～2年）』、『同年報IV（平成2年～3年）』、『同年報V（平成4年）』、『同年報VI（平成5年）』、『同年報VII（平成6年）』、『同年報VIII（平成7年）』を参照されたい。
3. 資料作成（一覧表及び付録図）は、栗田正芳、波多野恭久、岩岡慎一、藤本敏夫、堀内哲也、横田伸直が行った。
4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの中請番号に順するものである。また、本格調査については、平成8年度に行った調査を取り扱う。
5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用した。
6. 一覧の略記について
①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。②標高：地表面、（）調査地内平均値。③調査目的：公＝施主公共団体、私＝施主一般。④調査方法：空白は未調査等。

平成8年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.1

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺物	備考
1	森町194-5	100	34.34	私	試掘			
2	岩崎町238-6	1,322	(39.57)	私	試掘			
3	御幸2丁目259-1	243		私	既済			本格調査要 H1-179の再申請
4	北久米町854-1	317	(27.83)	私	試掘			
5	畠寺町702-1	539	33.85	私	試掘			
6	北桜本町甲1257	344	113.30	私	試掘			
7	南斎院町1277	694	8.48	私	試掘			
8	東庄町259	1,149	(39.98)	私	試掘			
9	御幸1丁目378-3	81	28.43	私	試掘			
10	兪木1丁目122-2外1筆	619	(34.42)	私	試掘			
11	御幸2丁目259-4	243		私	既済			本格調査要 H1-179の再申請
12	南久木町721-2	202	39.45	私	試掘			
13	北海木町乙340-3外1筆	199	117.99	私	試掘			
14	御幸2丁目259-5	243		私	既済			本格調査要 H1-179の再申請
15	山越1丁目591-28	98	18.60	私	試掘			
16	傳味4丁目213外5筆	1,947	(31.91)	私	試掘			

調査一覧

No.2

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺物	備考
17	北斎院町223-1~9	195	(9.25)	私立会				市教育委員会にて処理
18	辻町225番外2筆	1,968	(14.28)	私	試掘			
19	北梅本町乙70-1	411	104.98	私	試掘			
20	水泥町333-264	29	49.40	私	試掘			
21	南江戸3丁目819-1	964	(12.90)	私	試掘			
22	鷹子町181-5番外1筆	499	(46.87)	私	試掘			
23	北斎院町233-1	365	(8.81)	私	試掘			
24	朝美1丁目15-4	108	(14.00)	私	試掘			
25	南江戸5丁目1559-1他6筆	2,001	(22.74)	私	試掘			
26	北斎院町493-1	1,572	(8.20)	私	試掘			
27	森松町191-1	412	34.70	私	試掘			
28	太山寺町経山1422-1	2,461		私	未			
29	北井門町178-2	1,095	(25.60)	私	試掘	包装材、住居跡	上層器	本格調査要
30	緑町1丁目3-3	1,709	(28.74)	私	試掘			
31	北斎院町974-2	351	(8.22)	私	試掘			
32	船ヶ谷町218-2番外1筆	351	(14.00)	私	試掘			
33	桑原4丁目429-2番外1筆	197	35.82	私	試掘			
34	水泥町333-55	177	49.30	私	試掘			
35	平井町甲1555番外1筆	730	(70.00)	私	試掘			
36	平井町1223-9番外1筆	169	(71.50)	私	試掘			
37	立花6丁目393-5	118	(19.89)	私	試掘			
38	道後駄又5-28	343	(27.04)	私	試掘			
39	水泥町779-3	230	(67.83)	私	試掘			
40	南久米町697-1	400	(39.90)	私	試掘	土坑、柱穴	弥生、東晉	本格調査要
41	別府町598	681	4.80	私	試掘			
42	畠寺3丁目277-1	267	(42.81)	私	試掘			
43	南上石街91番外1筆	500	(39.87)	私	試掘			
44	桑原6丁目721番外3筆	1,983	(33.97)	私	試掘			
45	南江戸2丁目4-24	210	(13.77)	私	試掘			
46	北久米町698-1番外13筆	7,205		私	既済			本格調査終 北久米町畜寺遺跡3次調査
47	愛光町381-4番外1筆	222	(15.20)	私	試掘			
48	下伊台町1505-4	141	144.49	私	試掘			
49	みどりヶ丘300-205	116	7.00	私	試掘			
50	山越1丁目270-1番外2筆	749	(17.91)	私	試掘			
51	桑原1丁目993	403	37.50	私	試掘			
52	古三津4丁目4600-1	1,440	(11.13)	私	試掘			
53	北井門町395-6	127	22.68	私	試掘			
54	勝岡町乙934-38	142	(116.00)	私	試掘			
55	桑原4丁目20-2番外2筆	2,178	(37.00)	私	試掘			
56	山越3丁目818-1	872	(22.94)	私	試掘			

調査一覧

No. 3

No.	所 在 地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	備 考
57	南江戸6丁目1356-1外1筆	604	(12.60)	私	試掘			
58	桑原町916-3	128	38.91	私	試掘			
59	松末2丁目22-2外2筆 福音寺町407-4付6筆	5,144	(27.35)	私	試掘	包含層、住居址、衛生、廐窓跡		本格調査要
60	造後駄谷町432-1	1,117	(52.16)	私	試掘			
61	山西町731	1,467		私	未			申請取下げ
62	小坂4丁目32-1外1筆	564	(27.20)	私	試掘			
63	南土居町292-3	448	(36.33)	私	試掘			
64	東野4丁目中556	181	60.82	私	試掘			
65	洲寺2丁目269-3外2筆	455	36.88	私	試掘			
66	南土居町279-6外5筆	701		私	既済			H7-88にて試掘完了済み
67	朝牛田町238-1	185	(19.20)	私	試掘			
68	谷町甲336外3筆	493	(20.30)	私	試掘			
69	平井町甲1949-1	542	72.50	私	試掘			
70	朝美2丁目1118-1	705	(20.40)	私	試掘			
71	北森院町245-1外1筆	932	(8.50)	私	試掘			
72	朝美1丁目2-13	537	(14.42)	私	試掘			
73	南久米町578-8外1筆	298		私	既済			本格調査済 久木庭組遺跡2次調査
74	南久米町790	850	(36.11)	私	試掘			本格調査要 久米高須院跡32次調査
75	米住町1152-1	998	(36.19)	私	試掘			本格調査要 久米高須院跡32次調査
76	平井町甲2118-6	128	61.11	私	試掘			
77	東石井町535-2外2筆	433	(22.43)	私	試掘			
78	久木庭田町1124-2	309	(43.84)	私	試掘			
79	平井町甲1973-2	352	(67.10)	私	試掘			
80	南江戸6丁目1356-4	267	12.90	私	試掘			
81	祝谷町1丁目7-23	700	(47.67)	私	試掘			
82	別府町334-10	29	4.87	私	試掘			
83	溝辺町乙437の一部	1,642	(84.89)	私	試掘			H7-241の再申請
84	畠寺町丙238-23	3,239	(66.11)	私	試掘	周溝	港段、廐窓石倒	本格調査要 胡寺6号墳
85	高岡町113	420	7.94	私	試掘			
86	鷹子町202-1外1筆	422	(50.10)	私	試掘			
87	北斎院町636-6外1筆	275	8.44	私	試掘			
88	北斎院町636-1外5筆	430	8.44	私	試掘			
89	天山町16-1外1筆	359	24.16	私	試掘			
90	松末2丁目116-10	119		私	既済			H7-200にて試掘完了済み
91	桑原4丁目9-45	169	41.00	私	試掘			
92	桑原2丁目6-17付近	3	37.90	公	立食			
93	船屋町1丁目1708-3	211	21.24	私	試掘			
94	米住町851-14	165	39.73	私	試掘			
95	朝美1丁目1366-4	762	(22.40)	私	試掘			
96	米住町685-1 南久米町689-3	255	(39.52)	私	試掘			

調査一覧

No. 4

No.	所在地	面積(m ²)	縦高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺物	備考
97	朝生田町350-2外1筆	489	(18.30)	私	試掘			
98	清水町2丁目22-1	193	(24.70)	私	試掘			
99	山越1丁目325-6	199	(18.20)	私	試掘			
100	道後北代8-1	401	(31.20)	私	試掘			
101	朝美1丁目1366-5	472	(22.40)	私	試掘			
102	西石井町4-4	316	21.96	私	試掘			
103	桑原6丁目713外1筆	580	35.22	私	試掘			
104	道後今市146-2外1筆	564	(31.18)	私	試掘			
105	山越1丁目289-12	103	19.37	私	試掘			
106	朝美1丁目1366-3	264	22.40	私	試掘			
107	北梅本町乙31外1筆	779	100.48	私	試掘			
108	柳味4丁目202-1	154	39.97	私	試掘			
109	近町400-1	546	(14.70)	私	試掘			
110	来住町1130	1,118	(35.00)	私	試掘			
111	水泥町1107-4	135	62.63	私	試掘			
112	柳味4丁目216-5	126		私	既済			本格調査済 物種追及地道沿い付近
113	西長戸町622-1	478	11.80	私	試掘			
114	轟子町1-2	90	42.02	私	試掘			
115	今在家町418-4	159		私	既済			H7-14にて試掘完了済み
116	桑原3丁目6-2付近~7-13付近	241	(38.75)	公	立会			
117	小野町乙2-付近~桑原町7-5付近	226	(23.50)	公	立会			
118	桑原6丁目7-2~24付近	77	34.40	公	立会			
119	桑原4丁目639-9	178		私	既済			H7-25にて試掘完了済み
120	古二津3丁目915外	5,413	(11.01)	私	試掘			
121	南森院町乙20-5	163		私	既済			
122	辻町547-1	603	(15.10)	私	試掘			
123	東石井町	257	22.35	公	立会			
124	谷町甲742-1	158	27.10	私	試掘			
125	辻町359	271	14.66	私	試掘			
126	山越3丁目811-3	202	21.94	私	試掘			
127	福音寺町564-2	73	25.20	私	試掘			
128	福音寺町564-1	190	25.20	私	試掘			
129	山越1丁目568	390	(19.40)	私	試掘			
130	北土居町611-5外8筆	2,413	(24.78)	私	試掘			
131	畠寺3丁目358-21外10筆	934		私	既済			H6-135にて試掘完了済み
132	南江戸5丁目767-1外1筆	650		私	既済			本格調査済 近江八幡桑山遺跡
133	恵原町甲527-3	177		私	既済			H7-27にて試掘完了済み
134	東方町甲1440-1	138	56.90	私	試掘			
135	安城寺町209-4	285	(8.40)	私	試掘			
136	平井町甲370-5	334	(86.25)	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

調査一覧

No. 5

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	備考
137	古那5丁目249	394	(24.00)	私	試掘			
138	北森院町398	500	(8.70)	私	試掘			
139	南久米町182-2	466		私	既済		S63-126にて試掘完了済み	
140	古那1丁目756	987		私	未			
141	道後町1220-1	86	29.80	私	試掘			
142	道後今市1073-6外1筆	359	(31.60)	私	試掘			
143	畠寺1丁目乙96-3	830	(49.60)	私	試掘			
144	恵原町甲527-4	214		私	既済		H7-27にて試掘完了済み	
145	鷹子町74-6外1筆	447	44.18	私	試掘			
146	別府町416-3	256		私	未		申請取り上げ	
147	山越3丁目823外1筆	306	(24.00)	私	試掘			
148	桑原2丁目850-3外1筆	337	35.90	私	試掘			
149	北井門町239-1	803	24.10	私	試掘			
150	平井町甲1337-6	129		私	既済		H6-43にて試掘完了済み	
151	西石井町310-6	122	19.66	私	試掘			
152	今在家町418-6	176		私	既済		H7-14にて試掘完了済み	
153	今在家町418-1外1筆	227		私	既済		H7-14にて試掘完了済み	
154	谷町甲306	572	(22.34)	私	試掘			
155	別府町589	96	5.20	私	試掘			
156	京町5丁目乙221-56	215	64.60	私	試掘			
157	北久米町892-1外1筆	799		私	未			
158	北久米町754-1	1,228		私	未			
159	朝美1丁目1366-4	782		私	既済		H8-95にて試掘完了済み	
160	久米辻田町795-2	497	(47.30)	私	試掘			
161	山西町851-1	775	(2.80)	私	試掘			
162	祝谷2丁目242-1	121	39.06	私	試掘			
163	今在家町420-65	238	30.40	私	試掘			
164	衣山3丁目459-2	342	(25.56)	私	試掘			
165	石風呂町396	385		私	既済		本格調査実施 跡地が生垣跡	
166	中村2丁目54-1外2筆	1,675	(29.66)	私	試掘	住基図、移火 発生位置	本格調査要	
167	下伊台町1435-1	501	144.55	私	試掘			
168	朝日ヶ丘2丁目1444-21	122	34.66	私	試掘			
169	今在家町61-5	163		私	既済		H7-30にて試掘完了済み	
170	平井町甲1338-6	138		私	既済		H6-3-17にて試掘完了済み	
171	小坂4丁目283-1外8筆	1,925	(24.96)	私	試掘			
172	衣山2丁目488-5	158	33.50	私	試掘			
173	東石井町515-1	740	(21.90)	私	試掘			
174	南久米町535-1	1,231		私	既済		H1-130にて試掘完了済み	
175	桑原2丁目887-9外3筆	272	(37.60)	私	試掘			
176	祝谷1丁目395-16	103	62.65	私	試掘			

調査一覧

No. 6

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺物	備考
177	鷹子町86-3	305		私	既済			H7-330にて試掘完了済み
178	福音寺町406-5外1筆	358		私	既済			本格調査済 既済K遺跡
179	辻町73-1外1筆	408	14.35	私	試掘			
180	桑原1丁目786-2	218	36.27	私	試掘			
171	辻町549-5外1筆	298	14.85	私	試掘			
182	桑原4丁目402-1外1筆	948	(33.60)	私	試掘			
183	立花6丁目328-8	528	20.98	私	試掘			
184	北十店町607-1	203	24.39	私	試掘			
185	小坂5丁目342-3外1筆	957		私	既済			本格調査済 西天山通路2次
186	東山町297-5	399	(9.60)	私	試掘			
187	博味4丁目180-5外1筆	172	(41.35)	私	試掘			
188	北斎院町233-3	198		私	既済			H8-23にて試査完了済み
189	畠寺3丁目271-4外2筆	221	36.72	私	試掘			
190	北斎院町159-2外1筆	247	9.55	私	試掘			
191	吉羅1丁目732-12	135	31.21	私	試掘			
192	桑原6丁目727-7の一部	351	(34.37)	私	試掘			
193	辻町580-20	130	14.51	私	試掘			
194	桑原3丁目349-9	156		私	既済			H7-6にて試掘完了済み
195	南久米町401-1	431	37.49	私	試掘			
196	南久米町196-8	224		私	既済			H7-207にて試掘完了済み
197	南江戸5丁目1462-1	470	23.13	私	試掘			
198	平井町551	180	79.50	公	立会			
199	福音寺町408-7	150	28.57	私	試掘			
200	安城寺町95-1、-3の一部	132		私	既済			H7-228-248-333にて 試掘完了済み
201	博味4丁目238-2	331	(39.50)	私	試掘			
202	平田町乙254半の一部	277	(27.45)	私	試掘			
203	今在家町68-8外1筆	240		私	既済			H4-33にて試掘完了済み
204	平井町甲2510-7外1筆	181	63.04	私	試掘			
205	桑原4丁目430-3	118	35.00	私	試掘			
206	朝美町2丁目1156-9	209	23.30	私	試掘			
207	西石井町135-4	701	20.43	私	試掘			
208	中村3丁目11	1,199	(25.87)	私	試掘			
209	水蛇町333-53	232		私	未			申請取り下げ
210	平井町甲955-2	500	(83.75)	私	試掘			
211	平井町甲1331-1外7筆	229		私	既済			H7-185にて試掘完了済み
212	東本1丁目	315	(33.87)	公	立会			
213	東野5丁目甲930-57	165	(59.36)	私	試掘			
214	早岡町685-15	204	27.50	私	試掘			
215	末井町260-2	171		私	既済			H6-173にて試掘完了済み
216	山鹿2丁目52	1,021	(17.44)	私	試掘			

調査一覧

No. 7

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・調物	遺 物	備 考
217	鷹子町108-10	168	45.91	私	試掘			
218	桑原1丁目4-6	101	36.67	私	試掘			
219	天山町甲261-1	804	(21.02)	私	試掘			
220	岩崎1丁目236-1外3筆	2,756	(40.11)	私	試掘			
221	道後今市1030-1外4筆	1,401	(33.76)	私	試掘			
222	朝生山町2丁目211-1	193	19.01	私	試掘			
223	今在家町41-1外1筆	670	(32.55)	私	試掘			
224	今在家町191-1外1筆	790	31.60	私	試掘			
225	桑原3丁目349-13	134		私	既済		H7-6にて試掘完了済み	
226	別府町611	989	6.10	私	試掘			
227	古二津3丁目13-27	128	10.00	私	試掘			
228	高砂町1丁目5-3外1筆	361	(22.84)	私	試掘			
229	平井町甲861-2	104	74.44	私	試掘			
230	畠寺町440-7	214	47.90	私	試掘			
231	北久米町883-1	1,062		私	既済		本格調査済 北久米が葉足寺跡4次調査	
232	道後一方8-28	146	31.00	私	試掘			
233	清水町1丁目7-7	120	25.00	私	試掘			
234	古一津3丁目1010-14	151		私	既済		H6 築にて試掘完了済み	
235	朝美2丁目1127-12	226	(19.40)	私	試掘			
236	立花6丁目393-15	165	20.25	私	試掘			
237	南江戸2丁目644-1	599	(13.89)	私	試掘			
238	安城寺町96-9	132		私	既済		H7-228・248・334にて 試掘完了済み	
239	道後植又4-26	231	(27.70)	私	試掘			
240	鉢窓町6-26	115	25.44	私	試掘			
241	北斎院町253-12	117		私	既済		H6-171-172にて試掘完了済み	
242	桑原5丁目670-1	303	(36.48)	私	試掘			
243	天山町210-42	416		公	未			
244	東石井町520-1	98	21.97	私	試掘			
245	平井町甲1363-8	188		私	既済		H3 107にて試掘完了済み	
246	鷹子町1171-14	383	58.13	私	試掘			
247	朝生田町318	69	18.60	私	試掘			
248	桑原3丁目349-6	111		私	既済		H7-6にて試掘完了済み	
249	桑原3丁目349-7	109		私	既済		H7-6にて試掘完了済み	
250	南江戸2丁目685-1	455	(13.33)	私	試掘			
251	平井町1979	211	65.48	私	試掘			
252	谷町甲681-2	279	(29.60)	私	試掘			
253	姫原1丁目35-1, -2	232	36.91	私	試掘			
254	福音寺町403-1	338	29.80	私	試掘			
255	天山町253-254-1外1筆	21		公	未			
256	鉢窓町7-12	135	24.31	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

調査一覧

No. 8

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	發査目的	調査方法	包含・遺物	備考
257	祝谷町乙179	150	(212.50)	私	試掘		
258	恵原町甲527-2	178		私	既済		H7-27にて試掘完了済み
259	江町560-18,-22	151	(14.52)	私	試掘		
260	桑原6丁目762	336	34.09	私	試掘		
261	余地2丁目4-27~4丁目9-39	47	(38.03)	公	立会		
262	福角町甲715-2,-4	198	38.58	私	試掘		
263	平井町1222-2	213	(71.40)	私	試掘		
264	北斎院町636-2外3筆	895	(8.93)	私	試掘		
265	北斎院町637-19	501	8.83	私	試掘		
266	南土居町226-7,-9	412	(36.90)	私	試掘		
267	東本1丁目122-2、123	542		私	既済		H8-10にて試掘完了済み
268	常光寺町甲341-2	156	74.00	私	試掘		
269	道後一万779-6	811	(23.20)	私	試掘		
270	久万ノ台1338	370	30.70	私	試掘		
271	祝谷2丁目154-3,-9	143	34.60	私	試掘		
272	石風呂町297	174		私	既済		本格調査済 熱が付跡
273	恵原1丁目甲62-5外3筆	474		私	既済		H6-10にて試掘完了済み
274	清水町2丁目22-5	310	24.50	私	試掘		
275	北柳本町甲3427外	166,000		公	未		
276	南久米町344-1	129	36.92	私	試掘		
277	南久米町575-7	276		私	既済		S6-8にて試掘完了済み
278	枝松4丁目205	343	(31.20)	私	試掘		
279	清水町2丁目8-5	38	22.83	私	試掘		
280	米住町1145-1	21	(34.73)	公	試掘		
281	桑原3丁目349-4	186		私	既済		H7-6にて試掘完了済み
282	中村5丁目197-8	269	21.91	私	試掘		
283	祝谷2丁目乙633-1	2,457	(56.78)	私	試掘		
284	北久米町1158-1	301	38.40	私	試掘		
285	久万ノ台1093-1	280	21.13	私	試掘		
286	柳味4丁目230	811	(39.02)	私	試掘	住居址、構 施設上工作	本格調査要
287	南江戸4丁目1246-1	645	(12.05)	私	試掘		
288	愛光町381-5,-10	232	14.66	私	試掘		
289	東石井町192-10	101		私	既済		H7-35にて試掘完了済み
290	桑原6丁目517-2	151	32.42	私	試掘		
291	満の山7丁目1-194-66筆 末町乙39-79&78並	291,844		私	踏査		
292	南江戸5丁目1542	244	29.40	私	試掘		
293	谷町甲723	512	19.07	私	試掘		
294	南久米町342-2,-10	93	(36.40)	私	試掘		
295	北斎院町951-4外9筆	1,567		私	既済		H7-35にて試掘完了済み
296	別府町555-595-2	360	(4.90)	公	立会		

調査一覧

No. 9

No.	所在地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺物	備考
297	来住町794	144	35.68	私	試掘			
298	南柳本町乙173	238	90.09	私	試掘			
299	安城寺町698-1	269	7.40	私	試掘			
300	立町82	159	15.27	私	試掘			
301	東石井町545外1筆	1,112	(22.25)	私	試掘			
302	辻町225外2筆	1,992		私	既済			H8-18にて試掘完了済み
303	桑原3丁目349-5	124		私	既済			H7-6にて試掘完了済み
304	安城寺町96-5	112		私	既済			H7-23-26にて試掘完了済み
305	北久米町15外1筆	431	45.00	私	試掘			
306	鷹子町208-1の一部	337	(49.73)	私	試掘			
307	鷹子町208-1の一部	368	(49.73)	私	試掘			
308	鷹子町208-2	427	(49.73)	私	試掘			
309	鷹子町208-1の一部	296	(49.73)	私	試掘			
310	山越1丁目11-15	165	(17.77)	私	試掘			
311	南久米町765-7	207	(37.78)	私	試掘			
312	南久米町765-6	442	(37.15)	私	試掘	柱穴、土坑	発生、廻り石	本格調査要
313	半井町甲1643-1外1筆	963	(67.41)	私	試掘			
314	北斎院町640-4外2筆	917	(7.40)	私	試掘			
315	道後一円780-3	153	32.01	私	試掘			
316	松木2丁目15-1	407	(26.25)	私	試掘			
317	平井町甲1215-2	512	(74.20)	私	試掘			
318	椎現町甲347-3外1筆	500		私	既済			H7-25にて試掘完了済み
319	鷹子町145-3	231	46.80	私	試掘			
320	桑原3丁目349-2	147		私	既済			H7-6にて試掘完了済み
321	太山寺町1635-3外1筆	260	17.31	私	試掘			
322	今在家町450-1	850	(29.20)	私	試掘			
323	米住町488-1、-2	575		私	未			
324	石風呂町171	237		私	既済			本格調査要 跡が4軒連続
325	東本1丁目120-1	677	(34.50)	私	試掘	住居址、溝	赤生土器	本格調査要
326	船ヶ谷町95-1	334	(25.90)	私	試掘			
327	枝松6丁目39-4	128	26.96	私	試掘			
328	半井町甲2117-1	780	(59.36)	私	試掘			
329	平井町甲1583外1筆	600	(72.91)	公	立会			
330	朝牛田町3丁目463-5、-6	122	19.46	私	試掘			
331	水泥町1111	561	61.90	私	試掘			
332	桑原2丁目892-3	116	37.80	私	試掘			
333	山西町92-4	167	8.52	私	試掘			
334	南久米町7	186	43.42	私	試掘			
335	山越3丁目918	209	(25.10)	私	試掘			
336	樽味4丁目202-8	160		私	既済			H4-78にて試掘完了済み

調査一覧

No.10

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	測定方法	包含・遺物	遺 物	備 考
337	久米塙田町1146-2、-5	453	(43.65)	私	試掘			
338	南江戸5丁目1554外1筆	742	(17.18)	私	試掘			
339	朝生田町2丁目211-1	220		私	既済		H8-22にて試掘完了済み	
340	桑原4丁目646-1	198	39.40	私	試掘			
341	小坂5丁目336-3外1筆	1,324		私	既済		本稿弱音塔 西天山道跡	
342	衣山4丁目10-8	32	31.06	私	試掘			
343	西石井町242-8	116	20.74	私	試掘			
344	平井町甲1057-1、2	624	73.56	私	試掘			
345	安城寺町605-1外1筆	305	7.39	私	試掘			
346	北斎院町483-2	841	(7.59)	私	試掘			
347	南斎院町	30	(48.70)	公	立会			
348	南江戸2丁目677-10	227	13.90	私	試掘			
349	高砂町1丁目6-18	7		私	未		市教育委員会にて処理	
350	北井門町255-9	132	24.32	私	試掘			
351	北井門町255-7	120	24.27	私	試掘			
352	山越1丁目T274-6外1筆	127	18.02	私	試掘			
353	今在家町418-7	218		私	既済		H7-H11にて試掘完了済み	
354	東木1丁目95-3	156	33.12	私	試掘			
355	半井町甲1215-1外3筆	1,337	(70.12)	私	試掘			
356	朝美2丁目1142	382	(27.12)	私	試掘			
357	谷町甲731-2、-4、-5、-6	326	21.90	私	試掘			
358	米住町536-3外1筆	1,306	(39.02)	私	試掘			
359	道後北代175-1	290	33.23	私	試掘			
360	道後喜多町1011-4、-9	265	34.45	私	試掘			
361	清水町2丁目17-2、-14	194	(23.50)	私	試掘			
362	恵原町乙201-1、-2	1,415	(76.93)	私	試掘			
363	清水町1丁目19	226	24.43	私	試掘			
364	祝谷5丁目773-8外2筆	107	50.83	私	試掘			
365	今在家町218-4	141	(31.30)	私	試掘			
366	辻町49-1	90	14.65	私	試掘			
367	鷹子町23、25	331	(41.24)	私	試掘			
368	姫原1丁目甲17-1	385	28.29	私	試掘			
369	久谷町甲487-2	534	101.32	私	試掘			
370	東方町13-1	284	113.12	私	試掘			
371	桑原6丁目713-14	215		私	既済		H8-10にて試掘完了済み	
372	拓川町471-2	218	20.07	私	試掘			
373	天山町259-1(B)	310	23.11	私	試掘			
374	北斎院町1042-11	151	7.65	私	試掘			
375	鉢窓町6-17	111	25.62	私	試掘			
376	清水町2丁目3-12、-13	147	24.50	私	試掘			

調査一覧

No.11

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査者名	調査方法	包含・遺物	遺物	備考
377	東石井町404-3	268	21.80	私	試掘			
378	桜谷町1丁目464-1	219	53.00	私	試掘			
379	山越町329-3	413	18.55	私	試掘			
380	道後緑町207-1	159	34.38	私	試掘			
381	南江戸4丁目954-8	127	12.65	私	試掘			
382	桜谷町152先	180	(67.00)	私	立会			
383	平井町甲2169-2	662	(59.60)	私	試掘			
384	北斎院町493-1	1,583		私	既済		H8-24にて試掘完了済み	
385	道後今市1072-7	275	31.64	私	試掘			
386	東本1丁目123-2	133		私	既済		E8-10にて試掘完了済み	
387	南江戸4丁目940-4外2筆	438		私	未			
388	南久米町740-5	152	39.13	私	試掘			
389	今在家町294	837	30.82	私	試掘			
390	東方町甲660-1	434	59.68	私	試掘			
391	山越1丁目325-1	298	18.31	私	試掘			
392	福音寺町694-1外4筆	2,600	(23.92)	私	試掘			
393	北極木町甲3236-2外4筆	261	77.69	私	試掘			
394	平井町甲2039-2	127	61.00	私	試掘			
395	北斎院町975-2	413	7.69	私	試掘			
396	平井町	70	(81.55)	公	立会			
397	山越3丁目822外1筆	141	21.97	私	試掘			
398	辻町15-21	107	15.07	私	試掘			
399	東方町甲49-2	300	90.04	私	試掘			
400	桑原1丁目785-4	333	(35.94)	私	試掘			
401	南土居町62-1外26筆	420	(38.95)	公	立会			
402	谷町甲21-3	169	15.62	私	試掘			
403	松末2丁目10-7	110		私	既済			H1-129にて試掘完了済み
404	東住町936-1外3筆	1,844	(37.00)	私	試掘	包含層	弥生土器	本格調査要
405	桑原1丁目994-1	1,174	(37.35)	私	試掘			
406	北久米町562	158	31.82	私	試掘			
407	清水町2丁目22-6	202	23.41	私	試掘			
408	梅谷町甲793外2筆	8,095		私	路査			
409	北斎院町303-1外23筆	3,896		公	既済			県教育委員会にて処理
410	朝生田町2丁目308-3	184	19.73	私	試掘			
411	平井町甲512-3、-6	367	(75.09)	私	試掘			
412	平井町甲512-7	142	75.19	私	試掘			
413	安城寺町209-3	172	8.35	私	試掘			
414	久米津山町897-6	198	52.80	私	試掘			
415	水泥町1131	459	59.13	私	試掘			
416	松末2丁目123-8	117	25.11	私	試掘			

調査一覧

No.12

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	備 考
417	山西町815-1、…4	462	(3.20)	私	試掘			
418	桥浜町1135-3	538	6.16	私	試掘			
419	福音寺町411	826	(26.06)	私	試掘			
420	祝谷5丁目709-1	394		私	既済			H5-165にて試掘完了済み
421	道後今市1063-6	149	32.07	私	試掘			
422	北井門町385-1、-3	431	22.85	私	試掘			
423	平井町512-1、-2	413	75.32	私	試掘			
424	南江戸5丁目1543外2筆	438	(27.88)	私	試掘	柱穴、構	鹿乳土器	本格調査要
425	北斎院町637-6外5筆	642	8.36	私	試掘			
426	北斎院町641-4	217	7.73	私	試掘			
427	北斎院町283-1	252	13.00	私	試掘			
428	来住町858-2	143		私	未			市教育委員会にて処理
429	南土居町320	661	36.59	私	試掘			
430	来住町1091-1	8,131		私	未			
431	西石井町74	722	(20.71)	私	試掘			
432	北斎院町650-10	84	7.85	私	試掘			
433	来住町525-1、-2	294	(39.51)	私	試掘			
434	山越町3丁目15-15	4,632		私	既済			H3-129にて試掘完了済み
435	久米塚山町916-25、-27	509	(42.86)	私	試掘			
436	山越1丁目309-22	149		私	既済			H8-10にて立会完了済み
437	新浜町119-2外14筆	2,060		私	既済			H7-201にて試掘完了済み
438	来住町887-13	182		私	既済			本格調査済 久木高瀬城跡26次調査
439	来住町887-5	150		私	既済			本格調査済 久木高瀬城跡26次調査
440	山越3丁目1823-2	152		私	既済			H8-147にて試掘完了済み
441	津吉町95-4外3筆	1,123	75.46	私	試掘			
442	桑原6丁目543-1の一部	140	33.03	私	試掘			
443	桑原1丁目1004-1	942	(37.01)	私	試掘			
444	辻町352-4外2筆	122	14.65	私	試掘			
445	南久米町196-7	188		私	既済			H7-207にて試掘完了済み
446	水泥町1083-2	297	36.35	私	試掘			
447	平井町甲1230、1231	854	(72.79)	私	試掘			
448	祝谷6丁目994-5外2筆	214		私	既済			H3-143にて試掘完了済み
449	南江戸5丁目7-14	115	12.98	私	試掘			
450	北斎院町545-A	88	(17.25)	私	試掘			
451	南江戸4丁目1248-1外5筆	3,715	(12.28)	私	試掘			
452	清水町2丁目17-17	147	23.62	私	試掘			
453	東野2丁目甲167-4	530	(49.62)	私	試掘			
454	平井町691	457	79.11	私	試掘			
455	南久米町481-3	512	33.88	私	試掘			
456	来住町243、242-1の一部	1,272	(40.59)	私	試掘			

調査一覧

No.13

No.	所在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	備 考
457	南久米町484-1	496	(32.91)	私	試掘	柱穴、溝	瓦礫群、土師器	本格調査要
458	祝谷2丁目264-2	233	46.79	私	試掘			
459	道後2丁目812-2	221	35.32	私	試掘			
460	道後緑台206-1外1筆	689	(31.20)	私	試掘			
461	小坂4丁目283-7	258		私	既済			H8-18Iにて試掘完了済み
462	南江戸3丁目929-2外1筆	330	(12.73)	私	試掘			
463	山越3丁目743-1	671	19.72	私	試掘			
464	魔子町724-1、-7	767	43.45	私	試掘	溝、柱穴	瓦礫群、土師器	本格調査要
465	桑原2丁目13-33	196	40.20	私	試掘			
466	久万ノ台1047外2筆	722	(19.25)	私	試掘			
467	南江戸2丁目660-1	1,075	14.10	私	試掘			
468	道後北代1291-6、-5	107	32.05	私	試掘			
469	朝生山町2丁目301-1	692	19.91	私	試掘			
470	水泥町1199-12、-13	181	61.84	私	試掘			
471	北斎院町975-5	567	8.19	私	試掘			
472	久万ノ台767-1、762	317		私	既済			H5-6Gにて試掘完了済み
473	北井門町281-8	136		私	既済			E6-20Hにて試掘完了済み
474	南久米町375-2	192	38.04	私	試掘			
475	山越3丁目1046-2	93	36.00	私	試掘			
476	祝谷6丁目1019-1	245	59.17	私	試掘			
477	枝郷5丁目143外2筆	2,838	(29.75)	私	試掘			
478	東方町甲287	121	70.60	私	試掘			
479	北久米町707	552	(42.89)	私	試掘			
480	東野4丁目甲555-3外1筆	330		私	既済			S6G-27、E7-34Hにて試掘 完了済み
481	南久米町446-8、-9	178	(36.62)	私	試掘			
482	南久米町222	181	37.90	私	試掘			
483	祝谷2丁目351-1、-2	272	48.15	私	試掘			
484	小坂2丁目468-4	230	28.80	私	試掘			

平成 8 年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査目的	時代
299	松山市道「平井・水泥線」開通道路	平井町甲1704外	緊急	绳文～中世
300	筋造K遺跡	福音寺町406-1	♦	古墳
301	久米高畠遺跡27次調査地	来住町1145	♦	弥生～古代
302	北久米淨蓮寺遺跡6次調査地	北久米町885-1、886-1	♦	弥生～古代
303	久米高畠遺跡28次調査地	来住町874、873-2	国補	弥生～古代
304	久米高畠遺跡29次調査地	来住町873-1	♦	弥生～古代
305	畠寺6号墳	畠寺町内1-1外	緊急	古墳
306	岩崎遺跡	持田町1丁目外	♦	弥生～中世
307	北久米町尾敷遺跡2次調査地	北久米町477-2	国補	中世
308	久米高畠遺跡30次調査地	南久米町694-1	♦	弥生～古代
309	久木高畠遺跡31次調査地	南久米町766-1、767-1	緊急	弥生～古代
310	松山市道「平井・食場線」開通遺跡	平井町甲1726外	♦	绳文～中世
311	久米高畠遺跡32次調査地	南久米町790、末井町1152-1	♦	弥生～古代
312	太山寺経山遺跡4次調査地	太山寺町1934外	♦	中近世
313	荒佐池古墳2次調査	北梅木町2455	学術	古墳
314	久米才歩行遺跡2次調査地	南久米町476-1外	国補	弥生～近世

主な遺構、遺物等	対象面積(m ²)	屋外調査期間	No.
	14,500	H8.4.1～調査中	299
竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑・溝・土師	1,059	H8.4.1～H8.4.30	300
竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑・溝・弥生・須恵・土師	1,335	H8.4.1～H8.6.28	301
掘立柱建物址・土坑・土坑墓・溝・足跡・須恵・土師	1,058	H8.4.5～H8.6.6	302
掘立柱建物址・土坑・溝・弥生・石庖丁・石斧・鍛錬車	440	H8.4.15～H8.6.28	303
	123	H8.4.15～H8.6.28	304
周溝・埴輪・須恵・石劍・石磨丁	9,717	H8.6.1～H8.7.15	305
	13,000	H8.6.3～調査中	306
溝・橋・須恵・土師・青磁・羽釜・獸骨	348	H8.7.1～H8.8.7	307
竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑・溝・弥生・須恵・土師	520	H8.7.3～H8.9.30	308
掘立柱建物址・土坑・溝・濠・道路・須恵・土師	963	H8.8.6～H8.10.31	309
	72,000	H8.8.19～調査中	310
竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑・濠・橋・道路・須恵・土師	1,848	H8.10.1～H9.1.31	311
石列・集石状遺構・弥生・須恵・土師	2,800	H8.10.21～H8.11.22	312
	2,500	H8.11.7～調査中	313
竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑・弥生・須恵	362	H8.11.16～H9.1.31	314

平成 8 年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図



III 平成 8 年度 保存処理・整備事業

保存処理事業

保存処理室では主に木製品の保存処理（PEG含浸処理）、鉄製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り転写の作業も行っている。

1. 木製品の処理

平成7年9月25日より170型処理水槽にて含浸処理を行っていた木製品（来住磨寺18次調査地・久米窪田森元3次調査地その他出土）が平成8年11月27日に処理が完了し、処理水槽より取り上げた（写真1）。処理の結果は良好である。下記の表は処理日数とPEG（ポリエチレングリコール）の濃度をしたものである。濃度20%のPEG水溶液を約12ヶ月かけて濃度100%にした。この状態で木製品中の水分とPEGが入れ替わったことになる。濃度100%に達してから取り上げるまでの約3ヶ月間は、処理遺物の大きさ、樹種などが一定していないものでこれらをより均一に含浸するための期間である。

2. 鉄製品の処理

前処理（脱水・脱塩作業）を行っていた鉄製品は順次クリーニング（付着しているゴミ・土壌・サビ等の除去）を行っている。また収蔵されている処理済みの鉄製品の点検・再処理も行った。

3. 這撲・遺物の取り上げ

今年度は作業は行っていない。前年度の釜ノ口遺跡8次調査1号貯蔵穴より取り上げを行った土器は器壁を樹脂（バインダー）で固めながら上を取り除き、出土した状態（写真2）での復元が可能となった。（復元はセンター整理室①【土器接合復元・石膏入れ】による）なお、この貯蔵穴より取り上げた壺型土器内の土壌の分析用サンプリングも行った。サンプリング中に果実の核を多数（写真3）検出した。この果実の核は（株）古環境研究所にて分析を行った結果、桃核であることが判明した。詳細は報告書にて行う（現在編集中）。

4. 土層の剥ぎ取り転写

今年度は調査員からの要請はなく作業は行っていない。

（山本）

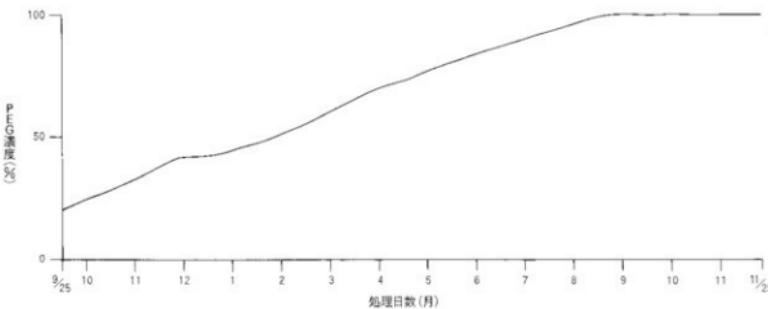


表1 PEG濃度表



写真1 処理済木製品の取り出し作業

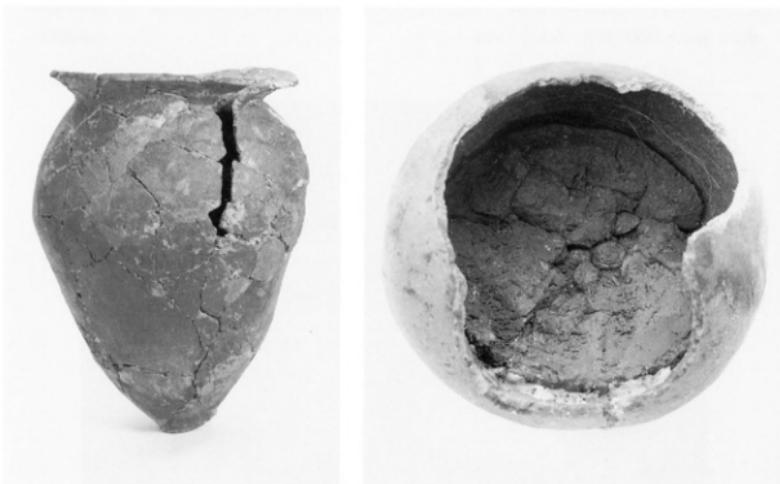


写真2 出土した状態で復元された土器
(釜ノ口遺跡出土)

写真3 土器内で桃核が検出された状態
(釜ノ口遺跡出土)

遺構保存・整備事業

瀬戸風峠4号墳木炭床のレプリカ製作について

平成8年度に調査を行った瀬戸風峠4号墳は、横穴式石室の一部を仕切り、木炭を敷き詰めその上に人骨を安置していた。横穴式石室内においてこの様な葬法は極めて珍しく、四国では初例である。

このため、宅地開発によって失われるこの古墳の保存策をめぐり、原団者である㈱緑映都市開発と協議をおこなった。その結果、㈱緑映都市開発の協力のもと、立体的な記録保存と遺構の有効活用を目的として、木炭床と人骨及び奥壁、側壁の一部のレプリカを製作することになった。なお、レプリカ製作については㈱京都科学に委託した。以下作業工程を略記する。

平成9年1月24日 石室の上部に風雨除けのテントを設営する。

27日 型取りの保護のため、木炭と人骨の表面に硬化剤を塗布し乾燥させる。

この作業を2~3回繰り返す。(写真1)

29日 木炭と人骨表面にスズ箔を精密に貼り付ける。(写真2)

31日 型取りのためのシリコンとガーゼを木炭、人骨、壁体に交互に重ね乾燥させる。

2月3日 乾燥後、型枠を外し、型取りが終了する。(写真3)

上記の作業後、平成9年5月8日レプリカが完成した。

出来上がったレプリカは平成9年5月17日から当館で開かれた発掘速報展に展示公開され、市民の関心を集めた。(写真4)

今後、平成9年5月25日に松山市考古館の横に、新たに開館した松山市文化財情報館に啓蒙普及活動の一環として常時展示するものである。

(相原浩)



写真1 硬化剤の塗布作業風景



写真2 レプリカ製作作業風景



写真3 レプリカ型外し作業風景



写真4 レプリカ完成写真

IV 平成 8 年度 啓蒙普及事業

平成8年度の啓蒙普及事業

担当 武正 良浩

当埋蔵文化財センターは、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査・研究とともに、出土遺物や記録資料などを収蔵し、保管している。発掘調査終了後は、遺跡の発掘調査報告書・パンフレットなどを作成したり、随時現地説明会を開催することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は地域文化の発展・向上ならびに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や一般対象の遺跡めぐり、講演会、小学生対象の体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を援助しながら、埋蔵文化財保護思想の啓蒙普及に努めている。

1. 展示活動

常設展は、「海を媒体とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「考える」を展示の基本コンセプトとしている。また立体的な展示を心掛けている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

①発掘速報展

発掘速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」は、松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介したり、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。

平成8年度は、前年度に発掘調査された遺跡のなかで、乃万の裏遺跡2次調査地を含む16遺跡を取り上げその出土遺物82点を展示した。

②発掘写真展

発掘写真展「むかし・昔のまつやまを掘る」は、広く一般市民に埋蔵文化財に対して目を向けてもらうため、発掘速報展にて展示した写真パネルを松山市庁舎本館1階ロビーに場所を移して展示するものである。

平成8年度は、釜ノ口遺跡8次調査地出土の貯蔵穴など8遺跡10点の写真パネルを展示した。

③夏休み体験学習セミナー作品展

夏休み体験学習セミナー作品展「みんなで作った！土製品作品展」は、松山市内の小学生が体験学習セミナーで制作した土製品を展示するものである。

なお平成8年度の作品展は、博物館実習生が構成したレイアウトに従い、参加者103名の制作した土製品が展示された。

④(財)松山市生涯学習振興財団設立5周年記念特別展（以下、財松振設立5周年記念特展）

特別展は、ひとつのテーマのもとに一定期間内で系統的に展示を行うものである。平成8年度は「葉佐池古墳」と題して葉佐池古墳1次調査

において検出された遺物及びレプリカを中心とした展示を行った。

⑤春季特別展

この展示は、松山市内における地域色を探り、そのテーマに添った資料を県内外から借用し、一定期間実施した。平成8年度は「古代の桑原Ⅱ」と題して「集落・破鏡」



写真1 特別展「葉佐池古墳」

にテーマを絞り、弥生後期の西瀬戸内の動向を探った。

なお例年この時期には企画展が開催されるが、今回はこれに代わる展示会である。

テー マ	会 期	会 場	入館者数
発掘速報展 「むかし・昔のまつやまを掘る」	平成8年4月20日(土) ～5月26日(日)	特別展示室	3,757人
発掘写真展 「むかし・昔のまつやまを撮る」	平成8年6月6日(水) ～6月18日(火)	市序舎本館 1階コピースペース	――
夏休み体験学習セミナー作品展 「みんなで作った！土製品作品展」	平成8年8月10日(土) ～8月25日(日)	特別展示室	462人
(財)松山市生涯学習振興財團設立5周年記念特別展 「葉佐池古墳一横穴式石室の世界」	平成8年10月19日(土) ～11月24日(日)	特別展示室	2,522人
春季特別展 「古代の桑原Ⅱ～松山平野と桑原地区の弥生文化～」	平成9年2月15日(土) ～3月20日(木)	特別展示室	1,547人

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象にした埋蔵文化財保護思想の啓蒙を目的とした講演会、夏休み体験学習セミナーなどがある。

①調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のための各分野での第一人者を招聘し、助言を頂き、職員の資質の向上をめざしている。平成8年度は1人の研究者に招聘の機会を得て、ご指導をお願いした。(敬称略)

テー マ	日 時	会場	講 師
横穴式石室の導入と系譜	平成8年11月21日(木)	講堂	宮崎大学助教授 柳沢 一男

②講演会

平成8年度は、発掘調査報告会・(財)松山市生涯学習振興財團設立5周年記念特別展記念講演会・考古学入門講座特別講演会・春季特別展記念講演会を開催した。発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘速報展開催期間中に4名の発掘調査担当者による報告が行われた。

財松振設立5周年記念特展記念講演会は、2回開催された。葉佐池古墳1次調査の成果により「殯」(もがり)が確認されたことが報告された。また古代大和と松山の様相が多角度から語られた。

考古学入門講座特別講演会は、当館において初めて開催された考古学講座を記念し、注目されている弥生の青銅器をテーマに吉田広先生にご講演をお願いした。

春季特別展講演会は、東本遺跡4次調査担当者から成果報告を受けた後、田崎博之先生に弥生後期の桑原の様相を熱く語っていただいた。



写真2 特別展記念講演会
九州大学 田中良之先生

(敬称略)

テー マ	日 時	会 場	講 師	聴 講 者 数
発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成8年4月20日(土)	講堂	当センター調査係長 当センター調査員 田城 武志 相原 秀仁 樋本 雄一 宮内 健一 加島 次郎	80人
別所山市生誕学習振興財団 設立5周年記念特別講演会 「佐佐治古墳・横穴式石室の世界」	平成8年10月19日(土) 平成8年10月26日(土)	講堂 講堂	丸岡大学准教授 当センター調査員 田中 良之 栗田 茂敏 島崎文雄大学大学院教授 石野 博信	150人 111人
別所山市生誕学習振興財団設立5周年記念 考古入門講座「チャレンジ考古学」特別講演会 「考古学の楽しみ方」	平成8年12月7日(土)	講堂	愛媛大学講師 吉田 広	123人
春季特別展記念講演会 「古代の森原Ⅱ」	平成8年3月8日(土)	講堂	愛媛大学助教授 当センター調査員 田崎 博之 高尾 和長	170人

③夏休み体験学習セミナー「むかし探検隊」

第6回目を迎えた平成8年度夏休み体験学習セミナーは、「むかし探検隊」と銘打って「土製品コース」と「遺跡コース」の2コースを設定した。土製品コースは、子供たちの自由な発想で粘土製品を制作し、古代人の苦労や知恵を学ぼうといううえで、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

また遺跡コースは平成7年度より新しい設定され、実際の現場での発掘調査を通して、遺跡の重要性を感じてもらうためのものである。

テー マ	日 時	会 場	参 加 者 数
土製品コース 「土製品を作ろう！」	平成8年7月20日(土)	講 堂	103人
遺跡コース 「むかしを歩こう！触れよう！」	平成8年8月8日(木)	発掘現場	27人

④遺跡めぐり

遺跡めぐりは、地域に所在する埋蔵文化財を参加者に身近に感じていただくことを目的として開催している。平成8年度は松山市北東部の古墳時代の遺跡を中心に見学を行った。

テー マ	日 時	主な見学先	参 加 者 数
「むかし・昔のまつやまを歩く」	平成8年5月15日(水)	駄馬塚・横窓跡・播磨塚1号墳 八ツ塚古墳群	45人

⑤現地説明会

平成8年度は、合計13ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。こうした遺跡の見学を通してより一層埋蔵文化財への興味・関心を持ってもらうため、開催するものである。中でも来住庵寺周辺の久米高畑遺跡や瀬戸風峠遺跡などは、多くの強い関心が注がれた。



写真3 夏休み体験学習セミナー「土製品コース」

テ　マ	日　時	内　容	講師者数
久米高畠遺跡26～29次調査	平成8年6月8日（土）	縄文時代晚期の土坑、弥生時代の土坑群・塚、古墳時代の堅穴式住居址・掘立柱建物址・古代の区画塗など	60人
畑寺6号墳	平成8年7月12日（土）	古墳時代後期の埴輪列を伴う古墳	50人
古市遺跡1区	平成8年7月27日（土）	弥生時代前期の河川跡、中世の溝など	80人
久米高畠遺跡30次・31次調査	平成8年9月28日（土）	弥生時代の土坑群、古墳時代の堅穴式住居址・古代の道路状遺構など官衙に関係すると思われる溝	80人
瀬戸風呂遺跡	平成8年11月30日（土）	古墳時代末の木炭床をもつ横穴式石室など	120人
久米高畠遺跡32次調査（第1回）	平成8年12月14日（土）	弥生時代の土坑墓、古墳時代の堅穴式住居址・掘立柱建物跡・古代の道路状遺構など	150人
久米高畠遺跡32次調査（第2回）	平成9年2月15日（土）	古代の「正倉」的建物群と区画塗など	100人
岩崎遺跡	平成9年3月22日（土）	弥生時代の河川跡、古代の土坑、中世の掘立柱建物跡と水田・畠地など	60人
古市遺跡2区・2次調査 下廻原遺跡2次調査	平成9年3月29日（土）	弥生時代前期の河川跡、古墳時代の堅穴式住居址や掘立柱建物跡、中世の掘立柱建物跡など	50人

⑥まいぶん映画会

まいぶん映画会は、一般観覧者を対象としており、第2・4土曜日及び毎週日曜日・祝祭日の午前10時・午後1時・3時の3回上映している（観覧無料）。上映する映画の内容は、考古学関係のわかりやすいアニメーションから専門的なものまで幅広い。

⑦博物館実習

平成6年度より博物館学芸員資格の取得を希望する人のための博物館実習を実施している。8年度は、7月29日～8月3日の日程で、愛媛大学生6名・徳島文理大学生1名・専修大学生1名の合計8名が受講し、展示実習・写真撮影・保存処理などのカリキュラムを受講した。

⑧考古学入門講座

平成8年度より初めて開講した。一般市民向けの「わかりやすい、やさしい考古学」を目指す。



写真4 考古学入門講座（第3回・古墳時代編）

回	テ　ー　マ	日　時	会場	講　師	受講者数
1	考古学概論 旧石器・縄文時代	平成8年6月1日（土）	講堂	当センター調査員 山之内志郎	45人
2	弥生時代	平成8年7月6日（土）	講堂	当センター調査員 武正 真治	40人
3	古墳時代	平成8年8月3日（土）	講堂	当センター調査員 加島 次郎	35人
4	古代	平成8年9月7日（土）	講堂	当センター調査員 橋本 雄一	37人
5	中世	平成8年10月5日（土）	講堂	文化教育課主任 栗田 正芳	36人

3. 収集・保管活動

平成8年度は、北梅本在住の山内之夫氏より松山市駿馬続ヶ谷窯址出土の資料の寄贈を受けた。

4. 施設の利用

当センターでは、主催事業だけではなく、考古学関連団体主催のシンポジウムや研究会の会場として利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。特に、愛媛大学法文学部下條信行教授を会長とした瀬戸内海考古学研究会が毎月第4土曜日に定期的に開催されている。

報 告 書 名	発行日	対象	版型・頁	部 数
松山市文化財調査報告書56 来住庵寺-第19次調査-	平成8年6月	一般	A4 本文 73頁 写真図版 26頁	1,000
松山市文化財調査報告書57 小野川流域の遺跡	平成8年12月	一般	B5 本文 283頁 写真図版 98頁	1,000
松山市文化財調査報告書58 中村松田遺跡	平成9年3月	一般	A4 本文 100頁 写真図版 14頁	1,000
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ (平成7年度)	平成8年9月	一般	A4 本文 125頁	1,000



特別展「葉佐池古墳」ポスター



春季特別展「古代の桑原Ⅱ」ポスター

出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
発掘遺痕展 案内状	平成8年4月	一般	ハガキ	3,000
ク パンフレット	ク	ク	A4・20頁	600
発掘調査報告会 レジメ	ク	聴講者	A4・34頁	150
遺跡めぐり パンフレット	平成8年5月	参加者	A4・12頁	50
考古学入門講座 レジメ(1)	平成8年6月	受講生	A4・28頁	60
ク ク (2)	平成8年7月	ク	A4・14頁	60
ク ク (3)	平成8年8月	ク	A4・16頁	60
ク ク (4)	平成8年9月	ク	A4・48頁	60
ク ク (5)	平成8年10月	ク	A4・116頁	60
夏休み体験学習セミナー パンフレット(1)	平成8年7月	参加者	A4・10頁	110
ク ク (2)	平成8年8月	ク	A4・4頁	50
特別展 案内状	平成8年10月	一般	ハガキ	5,000
ク ポスター	ク	ク	B2	500
ク リーフレット	ク	ク	A4	5,000
ク パンフレット	ク	ク	A4・8頁	3,000
ク 記念講演会 レジメ(1)	ク	聴講者	A4	200
ク ク レジメ(2)	ク	ク	A4	200
考古学入門講座特別講演会 レジメ	平成8年12月	ク	A4・8頁	150
春季特別展 案内状	平成9年2月	一般	ハガキ	5,000
ク ポスター	ク	ク	B2	500
ク リーフレット	ク	ク	A4	5,000
ク パンフレット	ク	ク	A4・4頁	3,000
ク 記念講演会 レジメ	平成9年3月	聴講者	A4・12頁	200

5. 広報・出版活動

広報・出版活動としては、当館主催の展示会・講演会などを開催する際に、多くの観覧者を募るためにポスター・パンフレットを発刊したり、発掘調査を行った遺跡について、発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより、一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで、埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものと思われる。

回	テーマ	日時	会場	講師
34	「瀬戸内海地域における中期弥生土器の成立」	平成8年4月27日(土)	講堂	愛媛大学法文学部講師 吉田 広
35	「平形銅劍と銅矛の関係」	平成8年5月25日(土)	講堂	松野町教育委員会 高山 剛
36	「鏡から見た古墳時代前期の階層」	平成8年6月29日(土)	講堂	愛媛県立歴史文化博物館学芸員 富田 尚夫
37	「複合口縁壺の動態」	平成8年7月27日(土)	講堂	当センター調査員 梅木 謙一
38	「近年韓国考古学事情」	平成8年12月21日(土)	講堂	愛媛大学法文学部教授 下條 信行
39	「松山南部古窯跡群について」	平成9年1月25日(土)	講堂	田淵記念文化財研究センター講師 西川 真美

6. 職員研修・会議

当センターでは、毎年、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修・行事に参加している。こうした研修や会議に積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

研修・会議名	開催地	日 程	参加者数
第8回埋蔵文化財写真技術研究会	奈良市	平成8年7月4日～7月7日	1名
埋藏文化財発掘技術者一般研修 「一般課程」	奈良市	平成8年7月15日～8月9日	1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピューター等研究委員会	広島市	平成8年9月27日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	山形市	平成8年10月3日～10月4日	2名
近畿地区生涯学習情報シンポジウム	大阪市	平成8年11月7日～11月9日	1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	東広島市	平成8年11月14日～11月15日	3名
四国埋蔵文化財法人実務担当者会	徳島市	平成8年11月27日～11月28日	2名
埋蔵文化財発掘技術者一般研修 「報告書作成課程」	奈良市	平成9年1月7日～1月18日	1名

7. 資料の貸出

当センターでは、博物館や教育委員会主催事業の出品要望に応えるべく、可能な限りの資料の貸出を行っている。

貸出資料名（遺跡名）	点数	貸出目的（展示期間）	貸出先
弥生土器 (古屋敷A遺跡) (米住麻寺15次・18次調査) (福音小学校構内遺跡) (中村松田遺跡)	10点	調査研究及び展示	愛媛大学考古学研究室及び 宇和町文化会館

松山市考古館 月別入館者数調

平成8年度（平成8年4月1日～平成9年3月31日）

月	開館 日 数	一 般	児童	団体	団体	老人	小中高生等	連携展等	入館者 合計	一日平均 入館者
			生徒	一般	児童生徒		無料入館者	無料入館者		
4	25	333	254	63	0	27	928	315	1,920	77
5	27	318	88	179	177	20	1,533	338	2,653	98
6	26	183	70	80	59	203	0	171	766	29
7	26	161	43	87	26	54	0	490	864	33
8	27	259	157	25	20	0	0	311	772	29
9	25	191	33	117	30	201	3	686	1,261	50
10	26	454	63	105	137	178	207	415	1,559	60
11	26	547	74	329	0	251	102	147	1,450	56
12	24	78	13	0	0	67	0	257	415	17
1	20	62	18	1	0	57	0	128	266	13
2	23	212	80	20	20	13	54	121	520	23
3	25	476	85	45	0	214	173	313	1,306	52
計	300	3,277	978	1,051	469	1,285	3,000	3,692	13,752	46

松山市埋蔵文化財調査年報Ⅸ

平成9年9月30日 発行

編集 松山市教育委員会

発行 〒790 松山市三番町6丁目6-1

TEL (089) 948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

〒791 松山市南院町乙67番地6

TEL (089) 923-6363

印刷 原印刷株式会社

〒791 松山市山越4丁目8-15

TEL (089) 924-8823

